

組織

合議体ヲ以テ元首トスル國ニテモ之レトテ首席タルモノアリ三市ニ於テハ之レヲ市長トシテ瑞西ニテハ之ヲ大統領及副統領トシテ大統領及副統領ハ上下兩院ニテ聯邦參議院ノ議員中ヨリ選出スル其任期ヲ一年トス独乙、三市ニテハ市長トシテ上院議員ハ之レヲ再選出スル短期任期ナリ

合議体ノ元首ヲ有スル民主國ノ大統領ハ独任民主國ノ大統領トシテ其性質ヲ異ニシテ專ラ國政ヲ統轄スル者ニ非スル其權限ハ單ニ合議体ノ議長トナリ且其事務ヲ整理スルニテアリ又一身ノ上ノ干渉ニテモ別段ノ特權ナシ  
民主國ノ元首タル合議体ハ其議員ノ間ニ事務ヲ分配シテ各行政事務ノ一部ヲ担任スルヲ例トシテ瑞西ノ憲法ノ明文ニ事務ノ分配ハ

事務ノ簡便ヲ計ルニテ各事件ノ決定ハ聯邦參議院ノ權限ニテモ實際ニ於テハ各部ノ事務ハ其担任者ノ專ラ決スル所ニ依ルノ説ヲ多シ要スルニ民主國ノ元首タル合議体ハ行政ノ統轄ト行政事務カトテ兼掌スルモノニテラ一國ノ元首ノ事務カト各國務大臣トテ兼掌スルノ觀アリ

第五章

國務大臣

國務大臣ハ元首ヲ輔弼スル機テナリ元首ノ政治上一ノ行為ハ總テ



國務大臣ノ敬擲ニ依ラサル可ラス國務大臣ハ同時ニ行政部局長官トシテ一部ノ行政事務ヲ担任スルヲ例トスルモ是レ必スモ國務大臣ノ地位ト高ル可ラサルモノニ非ス所謂魚宴職ノ大臣ハ諸國ニ稀ナラサル所ナリ(其間ニハ無定職ノ大臣ナキ規定ナレバ諸國ニアリ我國ニハ特ニ規定ナキモ時々内閣ニ列スル者アリ)是等ノ人ハ一定ノ行政部ニ向テ担任セサルモ他ノ國務大臣ト全ク内閣ニ列シテ國務ヲ參議シ法律勅令等ノ副署スルモノナリ國務大臣ノ地位ハ又大臣ノ名称ヲ有スルト否トニ依リテ異なるナリナレ一方宮内大臣ノ如キハ大臣ノ名称アリテ國務大臣ノ地位ヲ有セス一方國務大臣ノ名称ヲクシテ國務大臣ノ地位ヲ有スル者アリ枢密院ノ議長ニシテ内閣員ニ列スルカ如キ其例ナリ國務大臣ハ元首ヲ輔弼スル職務ヲ有スルカ故又其職務カニ付責任任セサル可ラス之ヲ國務大臣ノ責任トス

國務大臣ノ責任ニ于テハ主觀ト客觀ノ側トラ區別スルヲ要ス特ニ我國及ニ獨乙憲法ノ如ク大臣彈劾ノ制度ヲ設ケサル憲法ニテハ目取モ此區別ヲ為スル必要アリ從來此等ノ憲法中大臣責任ニ干スル規定ノ解釈ニ付テ種々ノ異説ヲ生シタルハ余ノ見ル所ニ依リテ全ク此區別ヲ顧ミサル結果ナリ諸國ノ憲法ハ大臣責任ノ規定ヲ設ケルト同時ニ概テ大臣彈劾ノ制度ヲ設ケサルナレ故ニ歐洲諸國學者間ニハ憲法ノ所謂大臣責任ハ即チ議會ニ對スル責任ト同意味ナリトノ思想ヲ生セリ獨乙帝國ノ憲法モ其第十七條ノ皇帝ノ命令ハ帝國宰相ノ副署マシテ非サレハ効力ヲ有セス而テ帝國宰相ハ副署者ニ依リテ責任ヲ負フヲ規定セリ然レモ一方ニ於テ獨乙帝國ノ憲法ハ大臣彈劾ノ制度ヲ設ケサルナリ故ニ大臣ノ責任ヲ議會ニ對スル責任ト同レ意味トスル思想カ先入



スル學子者ハ種々ノ説ヲ設ケ独ニ帝國ニ於ケル大臣ノ責任ヲ説明  
セントス是等ノ學子者或ハ曰ク宰相ノ責任ハ法律上ノ責任ナリ  
此法律上ノ責任ハ特ニ議會ニ對シテ弁明セラル可ラスト云フヨリ成立  
ス然レモ結局大臣責任ヲ救済スル手段ナキヲ以テ不備ノ法文ニ  
テ免レスト云フ或ハ曰ク宰相ノ責任ハ政治上ノ責任ナリ(モリ作)然レ  
モ實行ハ主トシテ國會ニ各示スルノ責任ヲ有スルコトヲ論セリ且  
レキハ宰相ノ責任ニテスル規定ヲ以テ一ノ定ニ之ニ過キストナラリ  
(カイテル)殊ニ  
ハ宰相ノ責任ハ自皇帝ニ對スル責任ニシテ官  
吏法ニ基ク一般官吏ノ責任ト云ヒモ其ナリトテ第五十五條ノ國  
教大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其主君ニ任スルヲ規定スレモ大臣彈劾ノ  
規定ハ我國ノ認メラル所ナリ憲法正義解ハ憲法ノ條項ニ對シテ  
ル説明ノ要旨ハ國教大臣ヲ任免スルト元首ナル故大臣ノ責任ハ元

首ニ對シテ責任ヲ負フモノナラザル可ラト云フカ如シ此説ハ帝ヲ大臣ノ責任  
ヲ以テ一般官吏ノ責任ト同視スルモノナリ然レモ其責任ヲ問フ權ハ任  
免ノ權ニ屬スル結果ナリトスレハ憲法ハ元首ノ官吏任命權ニテ  
スル規定ノ外別ニ大臣ノ責任ニテスル規定ヲ設ケルルヲ要セラルカ如  
キナリ又一般ノ官吏ト區別シテ特ニ憲法ノ原則トシテ國教大臣  
ノ責任ニテスル規定ヲ設ケル必要ナキカ如シ故ニ帝國憲法ヲ論スル  
モノモ獨ニ此等ノ如ク或ハ大臣責任ヲ以テ議會ニ對スル責任ト見  
做シ憲法ノ規定ヲ不備ノ規定トスルモノアラシ又單ニ政治上ノ責任  
ト過キストスルモノアラシ且レモ一ノ條文ニ過キスト云フモノナリト云フ得  
ス余ノ見ル所ニ依リハ此等ハ皆主觀的責任ト客觀的責任ト  
ヲ區別セザル結果、外ナラスト信ス  
主觀的責任トハ責任ヲ救済スルノ制度ヲ云フ客觀的責任トハ

九



責任ヲ救済サルハ資格ヲ定メ例ハ刑法ハ諸種ノ種類ノ罰スヘキ行  
 爲ヲ定ム裁判所ハ刑法ヲ適用スヘキ機干ヲ定ム刑事訴訟法ハ之レ  
 ヲ適用スルニ當リ機干ヘキ手続キヲ定ム之レ即チ刑法上ノ責任ニ就  
 テ入ホクニ客觀的規定ナリ此等ノ客觀的規定アルモ刑法上ノ  
 責任ヲ負フヘキ資格ナキモノハ例ハ一國ノ元首ニ對シテハ刑法ヲ適  
 用スルヲ得ス之レ即チ主觀的責任ノ存セカカ爲メナリ及之一般臣  
 民ハ刑法上ノ責任ヲ負フヘキ資格ヲ有スルモ法律ニ明文ナキ行爲ニ  
 就テハ所罰マラハ一ナシ之レ即チ客觀的責任ノ存在セカカ爲メ  
 ナリ其他主觀ト客觀トノ區別ハ如何ナル種類ノ責任ニ付テモ  
 存在セカカシ國務大臣カ責任ヲ有スルヲ規定スル条項ハ單  
 ニ主觀的ノ条項ナリ此規定ハ國務大臣ノ爲メ特ニ刑法又ハ憲  
 戒法ヲ設ケ刑事裁判所又ハ憲戒裁判所ヲ設ケルヲ定ムモノニ非ス

又大臣其任モ法律若クハ政治裁判所ヲ設クルヲ定ムルモノニ非ス  
 只現ニ此レ等客觀的ノ制度存在スル場合ニ於テ其規定ニ依リ責  
 任ヲ負フ資格ヲ定ムタルニ過キス故ニ彼ノ論者カ國務大臣カ責  
 任スルヲ規定スル条項ニ依リ直チニ大臣ノ責任ハ如何ナル種類ノ責  
 任ナルカヲ論斷セントスルハ畢竟此等条項ノ目的カ主觀的責任ヲ定  
 ムルニアルヲ顧サルヨリ生スル誤ナリト云ハサル可ラス然レハ憲法ハ何故ニ  
 國務大臣ニ于シテ主觀的責任ニ于スル規定ヲ設ケタルカ國務大臣主觀  
 的責任ハ臣民ノ主觀的責任ト異ナル所アルカ是レ次ニ説明ヲ要ス  
 ル所ナリ

抑モ國務大臣ハ官吏ナリ官吏ハ臣民ナルニ係ノ外其官吏タル地位ニ  
 依リ國家ニ對シ特別ノ干係ヲ有ス故ニ國務大臣ニ對シ直ニ一般臣民ニ于  
 スル原則ヲ適要スルヲ得サルハ言ヲ要セス而テ國務大臣ハ官吏中ニテ



リテ特別ノ地位ヲ有シ官吏ノ責任ニ干スル一般ノ原則ヲ適用セス特別ノ原則ニ依ルヘキナリ是レ即チ憲法カ特ニ國務大臣ノ責任ニ干シ主觀的責任ヲ明カニセントセハ先ツ一般官吏ノ責任ニ干スル原則ノ大要ヲ説明スルヲ要ス

官吏ト雖モ其行為ニ付責任ニ任セラル可カルハ言フ俟タス然レモ官吏ハ上級下級ノ干係ヲ有スレハ下級ノ官吏ハ上級官吏ノ命令ヲ執行シタル為メ法ヲ犯スノ結果ヲ生シタル場合ニ下級官吏其責ニ任スルヤ否ヤハ一般ノ疑問ナリ官吏上官ヨリ命令ヲ受ケタルハ其命令第一ニ上官ノ權限内ニ屬スルモノナルカ第二自己ノ權限内ニ屬スルモノナルカ第三法規ニ照シ必要ノ形式ヲ具備スルヤ否ヤヲ審査スルヲ要ス若シ此等ノ点ニ欠クル所アレハ即チ上級官吏ノ命令ト認ムヘキモノニ非カレハ下級官吏ハ之ヲ執行スルノ義務ナシ若シ此等ノ欠点アルモ

拘ハラズ之レヲ執行シタルハ官吏ハ上官ノ命令ニ依ルヲ理由トシテ其責ヲ免ルルヲ得ヌ之レ殆ント學說ノ一致スル所ナリ然レモ更ニ一歩ヲ進メ上官命令ノ形式上完全ナルモ形式上實質上違法ノ点アレハ官吏ハ其執行ヲ拒ムヲ得ルヤ否ヤハ學者ノ說ノ分カル所ナリ數多ク學者ノ說ニ依レハ命令ヲ受ケタル官吏カ命令ノ實體ニ違法ノ点アリト信ジシ片ハ上官ニ對シ其意見ヲ陳述シ此陳述ニ拘ハラズ上官ハ尙其命令ヲ撤回セサル片ハ下級官吏ハ之ヲ執行セラル得ス此場合ハ命令ヲ執行セシ官吏ハ其違法ニ付キ責任ヲ負フヲ得ズ(ゲルベル、レムケエ)ト然レモ已ニテバンドノ說キシ如ク違法ニシテ無効ナル命令ハ再度ノ命令ニ依リ有効ナル理由ナシ又違法ノ命令ヲ執行スルヲ得ル官吏カ上官ニ意見ヲ陳述セント云フヲ以テ直ニ之レヲ執行スルノ義務ヲ生スルノ理由ナシ故ニ再度ノ命令ニ依リ



有効ナルモハ始メヨリ有効ナリ意見ヲ速ハメル後執行義務カ  
 ルモノハ初ヨリ之ヲ執行スル義務ナカラス抑モ法規ハ上官  
 モ之レヲ執行セザル可ラサルハ論ヲ俟タサルヲ以テ法規ニ違反スルハ上  
 級官吏ノ命令ハ無効ト見做ス可キカ如シ下級官吏モ法規ヲ遵  
 奉スル義務ヲ有スレハ法規ニ及ムル上官ノ命令ハ之ヲ執行スル  
 ヲ得サルハ疑ヲ容レサル所ニシテ實ニ一ニ此ノ者ノ主張スル所  
 ナリ(三ノロシ)然レモ其法規ニ違反スルヤ否ヤハ何人ノ決スルカハ  
 二疑問ノ要點ナリ長官下官ト法律解釈ヲ異ニシタルハ下官  
 ノ意見ニ依リテ決定ノ効カアリト云フヲ得ス故ニ下官ハ命令上官ノ命  
 令ノ違法ナルヲ信スルモ上官ノ裁セシ命令ノ執行ヲ拒ムコトヲ得ス故  
 ニ上官ノ命令ヲ執行セシ官吏ハ其違法ナル点ニ付テハ一切ノ責任  
 ヲ免ル是レ近來多<sup>數</sup>學者ノ取スル所ナリ只法ノ明文ニ依リ上

官ノ命令ヲ執行セシ官吏ニモ其違法ノ点ニ付責任ニ任セシムル規定  
 ナキハ固ヨリ別段ナレバ此場合ハ法ニ下級官吏ニ付テ上官ノ命令  
 ニ拘ハラズ違法ノ行為ヲ為カサル義務ヲ負ハレムモノト認ムヘキモノナリ以  
 テ上官ノ命令ト雖モ其違法ト認ムルモ之レヲ執行スルノ義務ナシ  
 要之官吏ハ特別ニ明文アル場合ヲ除キ形式上完全ナル上官ノ命令  
 ヲ執行セシハ其違法ナル点ニ付責任ヲ免ルコトヲ原則トス  
 國務大臣ハ元首ニ付テ後屬ノ干係ヲ有ス故ニ一般ノ官吏ノ責任ニ干  
 スル原則ヲ國務大臣ニ適用スルモノトモハ元首ノ命令ニ副署シ又ハ  
 元首ノ命令ニ依リ自己ノ名ヲ以テ処分セシ場合ハ其責任ニ任セサルコ  
 トモハ倍累ヲ生ス然レモ立憲國ノ君主ハ各責任ヲ有セサルヲ以テ大臣副  
 署ノ制ヲ設ケ憲法又ハ法律ノ違反ニ付テ責任ヲ定ムルノ諸立憲  
 國ノ級一スル所ナリ國務大臣ハ元首ノ命令ヲ口ニシテ自己ノ責任ヲ



免ルヲ得ルハ立憲國ノ原則ナリ是レ國務大臣ハ一般官吏ト  
 異ナル所ニシテ諸國ノ憲法特ニ國務大臣ノ責任ニ于テ主觀的  
 ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ故ニ憲法カ大臣彈劾ノ制度ヲ設ケズ  
 氏國務大臣ノ責任ヲ有スルハ規定スル条項ハ立憲國ノ大原則ヲ揭  
 ケシモノニシテ決シテ空文ニ非ス又如此規定ハ責任ニ于スル客觀的規  
 定ニ依リ初メテ實行ヲ生スルニ然レバ初メヨリ各種ノ責任ニ適用ス  
 ヘキ一般ノ通則ヲ定ムルヲ目的トスルモノニシテ決シテ不完備規  
 定ニ非ス

國務大臣ハ古ノ如ク元首ノ命令ニ副署シ又ハ元首ノ命令ヲ執行セ  
 シ場合ニ其責任ニ任セラル可ラサル理由ハ何處ニアルカ是レ一ノ疑問ニ  
 シテ學說ノ岐ル所ナリ國務大臣ハ元首ニ從屬スル者ナリトシテ  
 リ論スレハ元首ノ命令ヲ奉スル義務アリ憲法上ノ責任ヲ有ストノ

点ヨリ論スレハ國務大臣ハ行為ノ自由ヲ有スルヲ必要トス服從ノ  
 義務ハ責任トハ互ニ相容レサル觀念ニシテ國務大臣ノ憲法上地  
 位ハ自ラ相矛盾スル如ク見ユ大臣ノ責任ノ原理ニ于スル者尤ノ如シ  
 第一説ハ少シモ其矛盾ヲ説明セサル者ナリ其説ハ元首ハ責任  
 ヲ有セス故ニ國務大臣ハ元首ニ代リ元首ノ行為ニ付責任ヲ有スル物  
 ナリ自己ノ行為ニ付責任ニ任スルニ非ス他ノ行為ニ付責任ニ任スルモノナリ  
 ト不當ハ勿論ナリ

第二説ハモニラヌキ一主唱ニテ第一説ノ如ク惡意モ過失モナキ  
 國務大臣ヲシテ他人ノ責任ニ任セシムルハナキモ國務大臣ニ對シテ惡  
 意又ハ過失ノ推測ノ下セルモノナリ大要ニ曰ク君主ハ惡ヲ為スヲ能ハス  
 又惡ヲ為スヲ欲スル者ニ非ス君主ノ不法行為ハ君主自ラ不法行為ヲ  
 為シトシタル結果ニ非スレテ國務大臣ノ輔弼宜シキヲ得ル結果



ナリ故ニ君主行為ニ對シ其責任ニ付スル可ラスト此説ハ徹頭徹尾不當ナル  
ニ基キ君主ヲ以テ独立ノ意思ナキ木偶人ト同視スルモノニシテ其君主ノ地位ト一致セザル言フ俟タズ

第三説

ノ主唱セシ所君主ハ憲ヲ為スヲ得ストノ原則ニ基キ君主ヲ以テ事實惡ヲ為スヲ得ルル地位ニ立タシメントスルモノナリ三權分立ノ主義ニ基ケドモ行政權ヲ君主ニ屬セシムル以上ハ君主ハ事實上惡ヲ為スヲ得ルヲ以テ君主ニシテ執カセ國家ノ政治ノ外ニ立タシメザル可ラス故ニコンスタンハ行政權ヲ獎テケテ之ヲ國務大臣ニ屬セシメタリ而モ元首ハ之權分配ニ依リテ全ク其權カヲ失フニ至ルヲ以テ三權ノ外ニ別ニ攝政權中立權王權ヲ設ケテ之ヲ元首ニ屬スルモノトセリ所謂三權ノ重モナル作用ハ大臣ヲ任命シ議會ヲ解散スルニマリ君主ハ國ヲ統治スル行政ヲ行ハスト云フヲ原則トス政ヲ行フ者

ハ國務大臣ナリ故ニ國務大臣ハ政務ニ付責任ヲ有スルハ當然ナリト此説ハ君主ヲ以テ國家ノ裝飾ニ過キサル位位置ニ立タシムル者ニシテ之憲君主國ノ地位ト相容レサルハ考言ヲ要セス假令然ラズトスルモコンスタンノ説ニヨルモ君主ハ尚少クハ大臣ヲ任命シ及ビ議會ヲ解散スル權利ヲ有ス而テ君主此權ヲ行フニ付憲法又ハ其他ノ法律ニ違反スルノ事ト云フヲ得ス故ニ事實上君主ハ未タ惡ヲ為スヲ得ルル地位ニアルモノト云フヲ得ス  
第四説ハ第三説ノ如ク行政權ヲ以テ專ラ國務大臣ノ司トル所トナスニ非ザレハ大臣ノ副署セシ元首ノ行為ハ元首ノ行為ト同時ニ大臣ノ行為ト認ムルナリ  
此説ノ大要ニ曰ク國務大臣ハ一行為ニ付責任ニ任スルハ必スレモ國務大臣獨リ之レヲ行フヘレト云フヲ要セス國務大臣モ共ニ行ヒレト云フ事實



ヲ以テ是レヨリ抑モ立憲國ノ大臣ハ單純ナル元首ノ輔助ニ非スレテ憲  
 法上元首ノ功ノ權ニ參與スル權ヲ有シ元首ノ命令ト雖モ法規ニ及  
 シ又ハ國家ノ利益ニ及スト認メタル片ハ同意ヲ拒ムノ義教ヲ有ス  
 若シ國政大臣カ此ノ如キ命令ニ同意シタル片ハ且レ即チ大臣モ共  
 ニ法規ヲ犯シ又國家ノ利益ヲ害スル所為ヲ為シタルモノナリ之レク責  
 任ニ任セサル可ラサルハ固ヨリ事理ノ當然ナリト此説ハ日最モ廣ク學者  
 間ニ行ハル所ナリ

バリヤ千八百四十八年ノ大臣責任法ナルモノアリ明ニ之レヲ國法トセリ  
 其第八條ニ曰ク各省大臣ハ其君主ヨリ命ロラレタル國法ヲ違及テ  
 リト認メタルカ國家ニ有害ナリト認メタル片ハ之ヲ拒ムテ得トアリ第  
 三條ニ曰ク若シ意見見テ異ニシタル片ニテモ其職ヲ辭スルコト得  
 トアリ要スルニ第四説ニ依リハ國政大臣ハ議會ト同シク元首ノ

行為ニ參與スルモノナリ而テ大臣ノ副署ハ國事ニ于スル詔勅ノ  
 効カヲ有スル條件ナレハ此等ノ詔勅ハ元首ト國政大臣ト一  
 致ニヨリテ初メテ成立ヲ有効ニシ初メテ人民ニ對シ効カヲ有スル  
 モノナリ換言スレハ元首ノ独リ其發スル命令ニ非ステ元首ト大臣ト  
 共ニ發スル命令ナリ之レ君主ハ統治權ヲ總攬スルカ又ハ行政權ヲ  
 統轄スルハ原則ニ及スルモノト云ハカル可テス國政大臣ハ元首ト共  
 ニ統治權ヲ總攬スルモノニ非ケルナリ

大臣責任ノ原理ハ前ニ述ヘタル一般官吏ト國政大臣トノ比較ニ  
 依リ之レヲ明ニスルコト得國政大臣モ官吏ナリ元首ニ從屬スル者  
 ナリ故ニ元則上元首ノ命令ニ從ハカル可ラス然レハ元首ノ命令ハ  
 憲法ノ又ハ其他ノ法律ニ違及セル片ハ之レ實ニ元首ノ命令ニ非ス此  
 場合ニ於テ元首ノ命令ヲ奉ヒルハ却テ元首ノ真正ノ命令



ル憲法又ハ其他ノ命令ヲ奉スル所以ナリ一般官吏ト雖モ亦未  
上官ノ違法命令ニ服従ノ義務カナレ只下級官吏ハ上官ノ命令  
ニ對シ實質上審査ヲ為ス權ナキ故上官ノ命令ヲ違法ト認ムル  
ヲ得カルナリ故ニ特別ノ明文ヨリテ上官ノ命令ノ法規ニ適スルヤ  
否トヲ審査スル權ヲ與ヘラレ居ルハ下級官吏ハ其違法ト認ムル  
上級官ノ命令ヲ執行スルヲ要セス而テ上官ノ命令ヲ執行セシ場合  
ニ於テ其下官ヲシテ其責ニ任セシムル規定アル場合ハ法ハ下級官  
吏ニ與フルニ上官ノ命令ヲ審査スル權ヲ以テシタル者ト認ムヘキハ  
前述ノ如シ憲法ハ國務大臣ハ元首ノ行為ニ付テモ其責任性  
スヘキトヲ規定シタルハ國務大臣ニ與フルニ元首ノ命令違法  
ナルヤ否ヤヲ審査スルノ權ヲ以テシタルモノナリト云フヲ包含シト  
見做スベシ國務大臣ハ一方ニ於テ元首ノ命令ノ適法ナルヤ否ヤヲ

審査スル權ヲ有シ後テ其違法ト認メタルモノハ之ヲ執行セカレ義  
務ヲ有スル片ハ一方ニ於テ不法ノ命令ニ副署シ又ハ之ヲ執行シタル  
場合ニ自ラ其責ニ任セサル可ラサルハ當然ナリ及之憲法其他法  
律ニ及セサル元首ノ命令ハ國務大臣ハ服従ノ義務アリ故ニ國  
務大臣ハ憲法ノ命令ニ服従シ又執行セシ場合ニ於テ彼令其  
命令國家ノ利益ヲ害スルモ國務大臣ヲシテ法律上ノ責ニ任  
セシムルヲ得ス此場合ニ於テ國務大臣カ國家ニ不利益ナル命令ニ  
副署シ依然其職ニ止ムルハ政治上徳義上責ヲ免カレサルモ政治  
ノ利害ハ法律上ノ問題ニ非ス後テ法律上責任ノ原因トナルトヲ  
得ス

前述ノ如ク君主ノ詔勅ニ對シテ大臣ハ其適法ナルトニ付責ニ任  
セサルヲ得ス而テ國務大臣ハ君主ノ命令ニ對シテ其責ヲ負フ事



實ハ副署ニ依リテ之レヲ証明ス國務ニ于スル詔勅ハ少ク凡  
一人ノ國務大臣之レニ副署スルヲ要スルハ英國ノ如キ例外ヲ除  
キ外近代ノ列國ニ普通ナル原則ナリ

副署ハ憲法又ハ他ノ法律ニ特別ノ規定セキ以上二人ノ國務大  
臣ノ副署ヲ以テ足レリトス必ス主務大臣ノ副署タルヲ要セス然レ  
モ憲法其他ノ法律ニ於テ徃々他ノ主務大臣ノ副署ヲ以テ必要  
トレ或ハ他ノ内閣總體ノ大臣ノ副署ヲ要スルハアリ緊急勅令  
發布ニ于スル普ノ憲法規定ノ如キハ内閣總員ノ副署ヲ要  
スル例ナリ明治三六年ノ勅令第百三十九号ヲ以テ改正セシ明治  
十九年勅令第百号公文式ハ法律及一般ノ行政ニ于スル勅令々  
ハ内閣總理大臣主任大臣ハ共ニ之レ副署シ各省専任ノ事ヲ務  
ニ屬スル勅令ハ主務大臣之レニ副署スルヲ規定ニ副署ハ二疑

ノ効果ヲ生ズ

(一) 副署ハ詔勅ノ効力ヲ生ズル為ニ必要ナル形式アリ若シ此  
形式ヲ欠ケハ詔勅ハ國法上真正ノ詔勅ト見ルヲ得ズ

(二) 副署ハ國務大臣カ詔勅ノ成立ニ參與マニテ公ニ証明スル  
故ニ違法ノ詔勅ニ副署セシ大臣ハ他ノ証明ヲ待タズ其責  
ニ任セリルヲ得ズ

然レモ國務大臣ノ責任ハ違法ノ詔勅ニ參與セシテウ事ニ實ニヨリ  
成立スルモノニシテ副署ハ其事ノ實ヲ公証スルニ止マリ決シテ副署  
ニ依リ國務大臣ノ責任ヲ生ズルニ非ス故ニ國務大臣ハ假令副署者  
モスモ他ニ詔勅ニ參與セシ確証アル片ハ責任ヲ負ハサル可ラス元首  
ノ詔勅ニ必ス一人ノ國務大臣ノ副署ヲ要スルハ單ニ必竟一人ノ  
公証セラレタル責任アル一ヲ要スル上旨趣ニ外ナラス



國務大臣ノ客觀的ノ責任ノ種類及ヒ各稱ニ付テハ學者ノ説区  
々ニ出ツ大要之レヲ道德上政治上法律上ノ三種ニ概括スルヲ得  
道德上ノ責任ハ何人ト雖免ルハヲ得サル処ニシテ國務大臣ノ此  
責任アルハ言ヲ俟タス國法學者ニ論スヘキ所ニ非ス政治上ノ責任  
ハ主トシテ國務大臣カ議會ニ對シ答弁スル責ラズテ議會ノ質問  
往々國務大臣ノ政策ヲ攻撃スルノ利器タルハ疑ヲ容レリレハ實  
問ノ旨趣ハ事實ヲ明ニスルニアリ大臣ヲ匡治スルニアラス故ニ國務大  
臣ハ必スシモ自己ノ行為ニ對シ答弁スルニ止マラス他ノ國務大臣ノ政  
務ニ付テモ法律上何等ノ結果ヲ生スルヲナシ  
要之議會ニ對シテ答弁スル義務ハ國法大臣ノ責任トシテ之ヲヘキ  
者ニ非ス議會ハ國務大臣ノ元首ニ對スル責任ヲ匡治スルノ行為  
ニ付テ元首ニ上奏スル權ハ場合ニ依リ國務大臣ノ元首ニ對スル責

任ヲ匡治スルノ原因スルヲアルモ之レヲ以テ大臣ノ議會ニ對スル責任  
ハ言ヲ待タス國務大臣ノ法律上ノ責任ハ官吏法上ノ責任刑法上  
ノ責任民法上ノ責任及憲法上ノ責任ノ四種ニ區別スルヲ例トス  
所謂民法上ノ責任ナルモノハ無責任ナル元首モ之レヲ負フ  
テアリ

國法上所謂責任ニ非ス刑法上及官吏法上ノ責任モ普通ノ規定ヲ  
適用スル以上ハ國務大臣ノ責任トシテ特ニ之ヲ論スルノ必要ナ  
シ諸外國ニ於テ國務大臣ノ責任ニ付テ特別ノ規定ヲ設  
ケ議會ノ一院或ハ兩院ニ與フルニ彈劾ノ權ヲ以テセハ上院又ハ高  
等裁判所又ハ特別ノ裁判ヨリ成立スル政治裁判所ニテ之レヲ  
裁判スルモノアリ之レヲ稱シテ憲法上ノ責任ト云フ憲法上ノ責任  
任ニ付スル第一ノ疑問ハ政治裁判所ノ裁判ハ如何ナル性質所具ヲ有



スルヤノ点ナリ此裁判ハ刑事裁判ノ性質ヲ有スルカ憲戒裁判ノ性質ヲ有スルカ此子者ノ説ノ分カル所ナリ

憲戒ト性質ヲ同フストノ學者ハ曰ク法律ニ正条ナキヲ四討セサルハ刑法ノ原則ナリ然レモ大臣彈劾ノ原因タル憲法又ハ法律違反ノ如キハ法律ヲ以テ豫メ所為ヲ列記シ之レカ四討則テ定ムル能ハサルナリ而テ所四討スヘキ行為並ニ之レカ加フヘキ刑罰ヲ定メスレテ刑ヲ科スルハ刑法ノ原則ニ及ス故ニ刑事訴訟ノ性質所具ヲ有スルヲ得スト然レモ  
大臣責任論ニ速ヘシ如ク憲法々律ヲ以テ大臣彈劾ノ原因ト定ムルハ是レ即テ一切ノ憲法及法律違反ヲ以テ職務上ノ犯罪ト定メシモノニテ單ニ犯罪行為ノ範圍ノ弘キニ止マリ決シテ正条ナキニ四討スルモノニ非ス又他ノ法律上ノ責任ノ性質所具ヲ有ストスル際子者ハ曰ク憲法ヲ顯ハストテ企テ又議會ノ推限ヲ

スル如キ重大ナル事件ヲ見ルニ單ニ官吏職務上ノ過失ヲ以テスルハ當ラ得ス懲戒ハ上級官庁下級官吏ニ對シテ行フモノナリ大臣ハ議會ニ從屬スル者ニ非ス故ニ大臣彈劾ハ憲戒ヲ目的トスルモノニ非スト云ヘリ然レモ如何ナル重大ナル犯罪ニテモ犯罪ナルト同時ニ官吏ノ職務違反シテ妨ケス故ニ國務大臣ノ行為ニ對シテ刑罰ヲ加フルノ外ニ尚彈劾ニ依リテ憲戒ヲ加フルハ少シモ妨ケサル所ナリ又官吏法上ノ責任モ國家ニ對スル責任ナリ國家ハ其責任ヲ正ス為メ如何ナル様子ヲ設クルヤハ全ク立法問題ナリ上級官庁ハ此目的ヲ達スル為メ左モ適當ナル機子タル疑ヲ容レサルハ國家ハ官吏憲戒ノ為メ特別ノ憲戒裁判所ヲ設クル例ナキニ非ス要之議會カ起訴ノ權ヲ有レ故ニ裁判所カ裁判ヲ下スト云フ理由ヲ以テ憲戒ニ非ラストスルハ



理由トスルニ足ラス

一〇九

要之憲法上ノ責任ハ刑事ノ性質ヲ有スルカ故憲戒ノ性質ヲ有  
スルカハ純然タル立法問題ニシテ大臣彈劾ノ性質ニ依リテ之ヲ論斷  
スヘキニ非ス故ニ國ニヨリテ或ハ刑事ノ性質ヲ與ヘ或ハ憲戒ノ性質  
ヲ與フ或ハ二種ヲ混同スルアリ英ニテハ全ク刑事ノ性質ヲ有シ上  
院ノ決議ニ依リ科スル刑ハ純然タル刑罰ナリ及之官吏ノ憲戒ト見  
做スヘキ模範ハ米國ナリ合衆國ニテハ大臣彈劾ニ依リ科スル  
罰ハ免職ト及ヒ官職ニ就 資格ヲ失フニヨリ若シ其行為同  
時ニ刑法上処罰スヘキモノナルハ之ヲ通常弑判所ニ移スニ止マリ  
上院ハ直ニ其罰ヲ宣告スルコトナシ但國憲法ハ大臣彈劾審理  
及訴訟手続ハ法律ヲ以テ定ムヘキコトヲ規定シ而テ此法律未ダ  
發布カレス然レモ已ニ大臣ヲ罰セシ實例ハ千八百三十年ニモアリ

其先例及ヒ憲法ニ國務大臣ノ処分執行ニ對シ行ヒタル犯罪ト  
ルヨリ推測スレハ但ハ刑事訴訟ノ性質ヲ有スル如シ昔モ又未  
ダ實行スルニ至ラサルモ憲法ニ犯罪ノ文字ヲ用ヒタリ壞ノ憲  
法ハ二種ノ性質ヲ混シ其罰ハ通常失職ニ止マルモノ同時ニ  
刑法ノ規定ニ當ルハ刑事裁判所ハ直チニ刑罰ヲ宣告ス  
ルコトナシタリ

大臣彈劾ノ原因ニ于スル第一ノ疑問ハ國務大臣ノ行為カ國  
家ノ利益ヲ害スル場合ニモ及ホスヘキモノナルカ又ハ憲法法律違犯ノ  
場合ニ限ル可キカノ点ニアリ已ニ論セシ如ク元首ノ違法ナル命令  
ニハ及令國家ノ利益ヲ害スル者ナリト認ムルモ國務大臣ハ之ニ  
副署スルノ義務アル故ニ其副署シタル命令ノ利害ニ就テハ  
國務大臣ヲシテ法律上ノ責任ニ任セシムルヲ得ス只國務大臣ハ

一〇〇



君主ニ有害ナル政策ヲ敵シ又ハ君主ノ旨非スレテ大臣自己ノ  
職權ヲ行フニ當リ國家ノ利益ヲ害スルノ行為アリシ場合ハ國  
務大臣ハ責任ヲシトセサレモ政治ノ利害ハ政治上ノ問題ニシテ法  
律上ノ問題ニ非ス故ニ裁判所ニテ政策ノ利害ヲ判決スルハ裁判ノ  
性質ニ及スルモノト云ハサルヲ得ズ

大臣彈劾ノ原因ニ于スル第二ノ疑問ハ不行為ノ場合ニモ之ヲ及  
ホスヘキモノナルカ又行為ノ場合ノミニ限ルヘキモノナルカニアリ此点ニ于  
シテハ國務大臣ノ自己ノ職權内ニ屬スル事柄ハ元首ノ直接ノ行  
為ヲ要スル事柄トヲ區別セサルヲ得ズ自己ノ職權内ニ屬スル事  
柄ヲ執行セサルハ國務大臣ハ徹頭徹尾其責任ヲ免ルルヲ得ズ及  
之元首ノ直接ノ行為ニ要スルヲ執行セサリシ場合ハ通常國務  
大臣輔弼ノ責任ヲ尽サルノ確証アルニ非サルヨリハ大臣ヲ彈劾スル

一ヲ得ズ大臣彈劾ハ大臣ノ行為不行為ヲ強制スル手段タル  
一ヲ得ルモ元首ノ行為不行為ヲ強制スル手段タル能ハズ  
第三ノ疑ハ積極又ハ消極ノ憲法又ハ法律ノ違反ニ限ルトモ更ニ之  
レヲ憲法違反ノ場合ニ限ルカ將又弘ク一切ノ法律違反及ホスヘキ  
カノ問題ナリ或ハ曰ク大臣彈劾ヲ通常法律違反ニ及ホスヘキ  
ハ政治裁判所ノ威厳ヲ損シ憲法ノ神聖ヲ傷クル怨レアルノミナ  
ラズ普通法律違反ニ對シテ特ニ政治裁判所ヲ設クル必要ナレト又  
之ニ對シテ云ヘルアリ大臣彈劾ヲ通常法律違反及ホスヘキ  
法規ノ侵害ニ對シテ満足ナル救正策ヲ設クル必要ナル而已ナラズ  
通常ノ憲法ト法律トハ往々密接シテ分ツ可ラサルヲ係ヲ有スル  
故彈劾モ獨リ憲法違反ニノミ限ルルヲ得スト此ニ派ハ各特質アル  
氏要スルニ純然タル立法問題ニシテ性質上之レヲ論断スルヲ得



サルモノト云フベシ

大臣彈劾ノ原因タル行為ノ範圍ナルモノハ大臣カ職務ヲ執行  
スル際行ヒタル行為ニ限ルヘキカ又ハ其私行ニモ及ホスヘキカ此問題ハ彈  
劾ヲ以テ刑事ノ性質ヲ有スルモノトスルモ憲戒ノ性質ヲ有スルモノ  
トスルモ性質ニヨリ之レヲ論断スル能ハス必竟立法問題ナリ諸  
國ノ現行法モ行為ノ範圍ニ于スル法規ハ区々ニシテ一徹ニ出ラズ  
大臣彈劾ニ対シ判決スヘキ裁判所ハ或ハ上院ヲ以テ之レニ充ツルモノ  
アリ(英米仏)或ハ最高裁判所ヲ以テ之レニ充ツルモノアリ(普白)然ルレ  
上院ハ固ト政ヲ議スル議政府ナレハ其判決或ハ党派ノ勢力カノ消  
長ニ依リ左右ヒラル、恐レナキニ非ス英ノ上院カ彈劾ニ対シ判決ヲ  
下スハ本来議政ノ機干ナルト同時ニ最高裁判所タル性質ヲ兼  
有スル為メナリ他國ノ之レニ倣ヒハ英ノ上院ノ特別ノ性質ヲ顧ミナル

結果ナリトス及之通常裁判所ハ憲法適用ノ如キ政治上ノ識見  
ト法律上ノ思想トヲ兼備スル必要アル事件ヲ裁判スルニ適セサル心  
レ下レハ諸國中或ハ特ニ政治裁判所ヲ組織スルモノアリ例ハ英ノ如  
シ彈劾ノ權ヲ有スルモノハ上院ヲ以テ政治裁判所ニ充ツルハ下院ア  
リ通常裁判所ニテ裁判シ又ハ特別裁判所ヲ置ク國ニ於テハ上下兩  
院アレハ多クハ下院ニ與フルニ彈劾ノ權ヲ以テスルアリ(英澳)或ハ上院  
合意セカレハ大臣ヲ彈劾スルヲ得サルアリ(英澳)或ハ上院  
キハ之レナリ又彈劾ノ乱用ヲ避クル為メ三公ノ二以上ノ多數決ヲ  
要スルアリ再度ノ議決ヲ要スルアリ

大臣彈劾ノ對審后ニ至リ議會カ傳會又ハ解散セラレタルハ彈劾  
モ自ラ廢棄ニ服スルモノトセハ元首ハ傳會又ハ解散ヲ利用シテ彈  
劾ノ權ヲ無効ナラシムルヲ得ルヲ以テ解散セラルモノ大臣彈劾ニ



何等ノ影郷音ヲ及ホサルハ英國ニテ先例ノ早ク確定セシ所ナリ歐  
洲諸國ノ憲法ハ特ニ此点ニ于テ規定ヲ設ケルアリ(墾ノ如)英  
ニテハ必スレモ國務大臣ニ限ラス私ク官吏ノ責任ヲ乞ス為メ彈劾  
ヲ起スヲ得米ニテモ彈劾ハ大統領副統領並ニ一般官吏ニ効有  
テリ仏ニテハ大統領ハ及逆ノ罪ニ限り彈劾ヲ起スヲ得此場合ニハ  
政府之レヲ起スナリ

「カールテンベルク」ヲ教ノ國ニテハ彈劾ハ大臣及各省長官ニ限り之ヲ起ス  
ヲ得彈劾后大臣辭職セシ片ハ如何刑事ノ性質ヲ有スト見做ス  
國ハ之レカ為メニ廢起セス憲戒ノ性質トスル國ハ譴責罰俸免職  
等ノ如キ在職ヲ以テ必要條件ト以テ四討ヲ科スルモノナレハ此場合ハ彈  
劾ノ目的消滅シ後テ彈劾モ自ラ消滅ニ皈ス  
政治裁判所ノ判決ニ依リ科スル罰ノ種類諸國制度ヲ一ニセス英國

徒然タル刑罰ヲ科シ諸種ノ刑罰中ヨリ適當ト認ムルモノヲ選  
擇シ普ク別段ノ規定ナレ米ハ官職ヲ免スト及將來官職ニ就  
ク資格ヲ失フ宣告ヲ為スニ止マリ若シ刑罰ヲ科スヘキ必要アルハ  
ハ之レヲ通常裁判所ニ移スヲ要ス墾ノ大臣責任法ニ依レハ通常官職  
喪失及セ就官職ノ資格ヲ失フニ止マルモ彈劾ノ原因ヲ同時ニ刑法  
ニ觸ルハ所為ナレ併セテ具罪ヲ宣告スル事トナレリ政治裁判所ノ宣  
告セシ刑罰ニ于テ元首ノ恩赦權アルアリ然ルニ若シ元首ハ此  
權ヲ利用シ彈劾ノ進行中ニ之レヲ廢棄シ又ハ判決ニ依リ処罰サレ  
タル大臣ヲ赦免スルヲ得レハ大臣彈劾ハ空文ニ皈シ元首ハ却テ  
怨府トナルノ患レアレハ諸國法ハ或ハ全ク大臣ヲ赦免スルヲ許サルア  
リ(普墾)英ニテハ進行中ニ之ヲ廢棄スル權ヲ有セス及之処罰后之



レテ赦免スルハ法ノ林示スル所ニ非カレモ此權ヲ行ヒシ實例ナレハ  
ハ恩赦權ニ付キ別ニ制限ナキ故彈劾ニヨリ処罰セラレシ物ニテ大統領  
ハ法律上之レテ赦免スル權ヲ有セリ独乙諸國中ニハ往々有限恩赦  
權ヲ認ムルモノアリ詳言スレハ元首ハ大臣ヲ罰スルヨリ免スルヲ得レ  
再ヒ之レヲ任用スルヲ得ズコトナルテシテ

大臣彈劾權ハ立憲國ニテ重キヲ置クモノハ之ヲ立憲國ノ柱礎ナリ  
ト云ヘリ將シテ然ルヤ否ヤ實例ニ徴セハ英國ニテハ千八百五十年ハルメル伯  
ヲ彈劾セシ者最新ニテ伯ハ免訴トナレリ亦來一回ヲ行ハス英國ハ  
政黨内閣ニシテ慣例ニヨリ大臣ハ下院ノ多數ニヨリ進退シ若シ  
少數トナレハ一度解散シ某派ノ真正輿論ナルカヲ試ミ再ヒ少數ナ  
レハ宰相ハ辭スルナリ故ニ英ニハ大臣彈劾ヨリ簡易ナルモノアリ其必  
要ヲ見サルナリ米ニテハ千八百三十七年  
ヲ彈劾シタリ是亦

免許トナレリ米ノ國務大臣ハ他ト同共ナリ元首責ヲ有シ大臣ハ元  
首命令ノ元ニ傷キ居ルナリ依テ大臣責任ヲ負フテ元首責ハスト  
去ラテ得ズ故ニ  
ヲ彈劾セラレタリ亦來又行ハレスハ千八  
百七十九年ニ前内閣ヲ彈劾スルノ議起リシモ已ニ倒レシトナレ  
ハ遂ニ起訴セザリキ

如期實例ヲ挙ケレハ近來ナレ根本ノ英ハ百年モ行ハレス然レハ其要  
ノ有無ヲ疑ハハルヲ得ズ殊ニ昔ハ憲法之レヲ認ムルモ尚今日其法律  
ヲ發布セサルハ其必要ヲ認メサルナリ仏モ亦然リ然レモ埃ハ千八百  
七十年未特ニ大臣責任法ヲ發セリ彈劾ノ少ナキ故其法不要ト  
スラテ得ス此法アレハコソ大臣違法ノヲセサル見ルヲ得學理上ヨ  
リ云ハハ元首大臣共ニ飽迄憲法ヲ破ル意思ナレハ大臣彈劾無  
効ナリ政治カ判所ノ宣告ヲ行ハカルト自由ナリ又元首ハ彈劾起ル前



時ニ議會ヲ解散スルヲ得彈劾一度起レハ無効ナルモ起ル模様  
 ヲ見テ之ヲ解散スルヲ得ルナリ又議會召集セサルハ彈劾ヲ起ス  
 一ヲ得ス故ニ是等ノ場合彈劾ハ憲法ノ保障ト為ラズ千八百四  
 十八年ノ憲法ハ大統領ハ責任ヲ有スル法律アルモ那翁ハク  
 ラダ一ヲ行ヒ第二帝國ヲ立テタルニ非ス若シ元首大臣輿論アルハ  
 ハ議會ハ事實上如何トモスヘカラス憲法違反ト為スモ内閣ノ運命  
 ニ于セサル一モアラシキ要スルニ実カ問題ナリサレハ故意ノ憲法違反  
 ニ對シテハ彈劾ヲ行フ能ハス只大臣カ過失又ハ解散ヲ因ミシタル  
 為メ行ヒタル違一行為ニ對シテ彈劾ヲ行フニ過キス果シテ然ルハ何  
 ノ誠意誠心ニテ行フモノヲ彈劾スルヲ要セシヤ只其誤リタルヲ知ラ  
 りテ得テ政治徳義上ニテ之ヲ矯正スルヲ得ヘキナリ何リ刑法的ノ彈  
 劾ヲ要セシヤ論シテ此ニ至レハ彈劾ノ効何レニテリキヲ疑フ只曰ク彈

劾ハ憲法ノ爭議ヲ決スルニアリト然ラハ解散ヲ定ムルトテ大臣ヲ刑  
 ニ処スル為ニ必要ナリト認ム可ラス去レハ之ヲ以テ彈劾ノ目的トセハ  
 今日ノ彈劾制度ハ大ニ誤レリ憲法ノ爭議ハ秘密ニテ決スルカ如  
 キアリ如此彈劾ハ諸國ノ憲法ニ照シテ廢止史上實際アルモ實益上ニ設  
 ケタルモノト見ル可ラス彈劾ヲ立憲政治ノ基礎ナリト云フカ如キ  
 ハ謬大ト云フ可シ



### 第六章

#### 議會

##### 第一節

##### 議會ノ性質

人民ヲ直接ニ國家ノ政教カニ參與セシムル國ナキニ非サレ是レ一種ノ例外ニ過キズ多數國ニテハ人民ノ撰舉手ニ依ル議會ノ設ケナキハナシ如此組織ヲ有スル議會ハ人民ノ總會ニ對シテ往々之ヲ代議會ト稱シ其議員ハ往々代議員ト稱スルアリ此名稱ハ昔ノ

議會ニ于係スル思想ト相伴ヒ近代ノ議會ノ性質ヲ誤解スル原因トナリシ一少ナカラス政中央議會ハ僧侶貴族都士武士ノ如キ特權ヲ有スル階級ニ限リ會議ニ列シ又大臣會議ニ臨シ又代表者ニシテ列席セシメシカ如キ各階級比自一種ノ團體ヲ爲シ其議會ニ列スルハ皆階級ノ利益ヲ代表スルヲ目的トス其代人又ハ代表者ヲシテ會議ニ列席セシムルハ此等ノ議員其委託者ノ委任ヨリ束縛セラレサル可ラス之ヲ畧言シハ當時ノ議會ハ國家ノ利益ヲ爲シ設ケララル機于ニテラス比自階級ノ利益ヲ保護スル爲ニ存セシ機于ニ過キズ近來ノ議會ハ之ニ反シ國家中ノ團體ヲ代表スル爲メニ成立スル者ニ非ズ國家ノ公益ノ爲メ存スル者ナリ議員ハ全國民ヲ代表スルモノニシテ自己ノ信スル所ヨリ發言投票シ撰舉ノ依頼ニ依リ束縛セラザルハ近來ノ憲法ノ確認スル



所ナリ如此今日ノ議會ハ昔ノ議會ト全ク其性質異ナルニ拘ラ  
 ス昔ノ議會ニ于スル思想ハ今尚全ク其跡ヲ絶タズ今日議會ハ國  
 民ノ各階級ヲ代表スル者ニ非カルハ何人モ疑ハカル処ナシ凡全國民  
 ラ代表スルモノナリハ誰子者ノ尙往カ主張スル所ナリ抑モ國民ノ教  
 ハ多クシテ其意思ハ往々相衝突スルモノアリ議會ハ是等無教  
 各個人ヲ代表シテ夫々衝突スル意思ヲ代表スルモノナリト解スルハ  
 撥テテ其ヘテ各人格ヲ具ヘテ常ニ一意思ヲ有スル國民ハ即チ國  
 家ニ外ナラス國家ヲ齒シテ國民ヲ論スル國民ハ独立ノ人格ナリ  
 独立ノ意思ナク從テ議會ハ法律上之レヲ代表スル道ナシ法律上  
 ヲリ論スルハ議會ハ元首ト同シク國家ノ撥テテ議會ハ其職  
 ラ行フハ國家ノ利益ヲ為メニテ國家ニ對シテ臣民ノ利益ヲ保護  
 スル為ニ非ス議會ノ組織ニ部ハ臣民ノ撰舉ニ係レ其權限

ニ至リテハ選舉人ヨリ委任セラレシ者ニアラスシテ憲法ニ依リ直接  
 ニ有スルモノナリ撰舉人カ議員ヲ撰舉スルハ自己ノ代理人ヲ撰舉  
 スルニ非ス國家ノ撥テテ組織スル為メ公職ヲ行フナリ此職  
 務ハ一面ノ行為ニヨリ完ラスルモノニシテ一旦選舉ヲ終レハ撰舉  
 人ト議員トノ間ハ少シモ國務上ノ關係ナシ議員ハ撰舉人ニ對シ責  
 ニ任スルモノ<sup>モ</sup>撰舉人ハ議員ノ職ヲ委<sup>任</sup>スルモノニ依リテ束縛ス  
 ハ<sup>ル</sup>モ得ス撰舉ヲ終リテ後撰舉区消滅セシ場合ニモ此事ニ於  
 ニヨリ議員ノ資格尚消滅ニ及ベザルハ議員ハ選舉区ヲ代表スル  
 ニ非ス全國民ヲ代表スルニモ非ザルカ為ナリ  
 議會カ國民ヲ代表スルハ主トシテ政治上ノ意味ヲ有ス此意思  
 ニ于テハシユルチエーノ論極メテ適切ナリ依テ大要ヲ舉グ  
 國民ハ國家ニ對スル獨立ノ權利主体ナラカレ然ハレ其



数万人各的スル機械的ニ集合シタルモノニ非ス國民ハ歴史的ニ  
發達シタル種ノ氣風ヨリ結合スル有生ノ(群生ヲ)集合体  
ナリ一國民ハ一種ノ思想ヲ有シ一種ノ目的ヲ有シ一種ノ民情  
ヲ有ス此意味ナル國民ハ單ニ各個人ノ集合ニ非スレバ百世ニ互  
リテ集合活動發達シ然レバ百世ニ直リテ變スルナク現在  
ヲ過去ニ般系キ將來ヲ現在ヨリ發達スルモノナリ議會ハ現ニ生  
活セル機子的ノ集合ヲ代表スルモノニ非スレバ一種ノ民情ヲ有ス  
ル專体ヲ代表スルモノナリ

代議士ノ撰擧ハ各種ノ意思ヲ主張スル為メニ行フモノニ非スレバ一ノ全  
体トシテ一ノ精神的ノ專体トシテ國民ヲ代表スル為メナリ故ニ議會ハ國  
民ノ意思ヲ執行スルモノニ非スレバ一議會ノ意思カ即チ國民ノ意  
思ナリ代議士ノ職務ハ國家ノ公益 全体ノ幸福ニ于テ國民ノ民

情ニ適スル正理ト認ムルモノヲ實行スルニアリ

此ノ如ク國民ノ代表ハ撰擧人ヲ代表スルニアラスレバ民情ヲ代表ス  
ルニアレバ代議會ハ必スレモ撰擧人ヨリ組織スルヲ要セス故ニコレハ  
ソ貴族院ノ議員ハ代議士ト稱スルヲ得スト主張スルニ及ビテレニチ  
テハ論レテ曰ク撰擧ハ代議ヲ定ムル最モ適切ナル方法ナレバ唯一方  
法ニ非ス憲法ハ吾龍衣ノ議員ヲ設ケ又ハ元首ニ議員ヲ勅在スル  
權ヲ與フ此ノ如ク選任ノ法方異ナルモ其旨同シク代議ナリ代議士ニ名  
稱ハ選擧ニ依リ就任セシモノニ限ラスト氏ハ議會ヲ以テ民情ヲ表  
スル機子視スルヲ以テ其組織ノ如キモ一國中ニ存スル各種ノ生活  
各種ノ勢力ヲ其輕重ニ從テ議會ニ及駛スルヲ以テ第一本旨  
トアリアルニチユリ一モ同様ノ考ヲ有セリ曰ク議會ノ國民ニ於ケル  
ハ尚ホ地理ト地回トノ干係ノ如シ



地圖ハ山川河海載セテ漏スナシ且其大小長短皆實物ト同一皆  
例ヲ要スルカ如ク議會モ又國民ノ各部分ノ實際ノ千係ニ比シ例  
シテ撰寫セカレ可ラスト國民ノ代表ハ右ノ如ク主トシテ政治上ノ意  
味ヲ有ス諸國ノ憲法カ全國民ヲ代表スルコトヲ明言スルハ往時ノ  
議會カ特權ヲ有スル國民ヲ代表セシメタルニ及シテ近代ノ議會ハ撰  
舉人又ハ撰舉区ヲ代表スルモノニ非スト云フコトヲ明言スルニ外ナラス  
故ニ此等規定ハ國法上ヨリ論スレハ早ニ消極ノ意義ヲ有スルニ  
過キス

以上述ヘシ如ク國民ハ國家ト相對スル法人ニ非ス議會ハ國法上國  
民ヲ代表スル者ニ非ズテ國家ノ機干ナリ故ニ歐洲中古ノ如ク  
君主ト議會トノ間ト契約ヲ結ビ又ハ議會ト特別ノ財產ヲ有スル  
カ如キハ近代ノ議會ノ性質ニ及スルモノナリ國家ノ機干トシテ議會

ノ地位ハ國體ニ依リ異ナルハ前述ヒシ所ニ屢々ナレハ茲ニ操リ返  
サズ

## 第二節

### 議會ノ組織

諸國カ概ネ二院制度ヲ採ルハ重モ左ノ諸種ノ思想ニ基ク  
各院ノ組織モ亦等ノ思想ト相干聯スル所ナリ  
第一片眼ヲ以テ物ヲ見ルハ兩院ヲ以テ見ルニ如カス兩院ニテ全一ノ事



件ヲ教フル方ヨリ論究スルハ其議決精密ニテ遺算ナキニ  
近カルベシ

第二立法ハ一時必要ニ応スル為メノミナラス將來之レキニ直ル子孫ヲ  
定ムルモノナシハ議決ノ迅速ヨリハ寧ろ擲重ヲ尊ブ一院制度ハ多  
數ノ勢ニ乘シ輕率ノ議決ヲ為シ一時ノ執情ニ制ヒラレ國家ノ大  
計ヲ誤ルノ怨レナレトモス兩院制度ハ兩院交々相節制シテ且之  
多數專横ノ弊ヲ防キ少數者ノ自由權利ヲ保護スル保障障ナリ  
第三立憲君主國ニテ單一院ノミヲ置ケル元首ト議會ト間衝突必  
ラ生レ易ク及之ニ院ヲ置シキハ兩院間之相節制スルヲ以テ元首直接  
ニ議會ト衝突スル事ナク概シ局外ニテリ調和ヲ計ル地位ヲ得ル  
ヲ以テ二院制度ハ君主安全爭鬪嚴ヲ保テ國家ノ平和ヲ維持  
スルニ必要ナリ

第四何レノ國ニテモ少シク進歩セシ社会ニテハ財產學識又ハ  
尚閑等ニヨリテ社会上層ノ階級ヲ占ムル原素ナキハアラズ  
此原素ハ社会ノ自取モ重要ナル原素ナルト拘ハラズ皆衆教ニ於テハ  
遠ク下層ノ人民ニ及ハサルヲ以テ若シ一院中ニテ多數ノ人民ト共ニ之  
ヲ代表セシトスルトキハ質ノ善キモノハ數ノ多キ者ニ厭例ヲシテ滿  
足ナル代表ヲ為ス能ハサルヤ明カナリ代議ノ要旨ハ國民ノ諸原  
素ヲ實際ノ輕重ニ比シテ及照セシムルニアルヲ以テ社会上層ノ組  
織スル階級ノ為メニ別ニ院ヲ設ケサルハ代議ノ本旨ヲ背クヲ得  
スト云フベシ



第 參 節

上院ノ組織

撰舉ニ依リ上院ヲ組織スル國ニ於テハ上院下院ト組織ヲ異ニスル必要アル点左ノ如シ

第 壹。 上院議員ハ下院議員ヨリ任期長シ(仏、金、衆、和、下瑞等)

第 貳。 上院議員ハ撰舉セラルル資格ノ必要タル年齢下院議員ヨリ多キヲ例トス(仏、金、瑞等)

第 參。 下院ノ被選資格ニ財産ノ要件ヲ設ケサル國ニテモ上院ノ被選資格ハ之ヲ要件トスルアリ(白、和、瑞等)和ニテハ法律ノ指定スル官吏ノアルモノハ財産ノ要件ヲ有セス或國ニテハ上院議員ノ被選資格ニハ財産ノ要件ヲ高クセスモテ多額納稅者ニ

撰舉ヲ推シ資格ヲ與フル者アリ(下、赫)

第 四。 下院ノ議員ハ直接撰舉ヲ用ユル國ニテモ上院議員ノ撰舉ハ間接選舉ノ法ヲ用ユルアリ直接選舉ハ撰舉人直接ニ議員ヲ選舉スルヲ云ヒ間接選舉ハ先ツ原選舉人ニ於テ撰舉人ヲ撰ビ撰舉人更ニ議員ヲ撰ビモノ又撰舉人ヨリ組織セラルル議會ニ於テ議員ヲ撰舉スルヲ云フ(和、白、仏、瑞ノ如シ)



第四節

下院ノ組織

上院下院ノ設ケタル國ニテ下院ハ人民ノ撰舉ニ依リ組織サルモノナリ撰舉結果多數ニヨリ決スルヲ例トス然レモ代議ノ本音ハ社会ノ中ノ諸般ノ原素ヲ普ク議會ニ反映スルコトヲ以テ單ニ一半ノ代表スル議會ハ未タ代議ノ本音ニ從フモノト云フ可ラス抑モ多數ノ意見ニヨリ決スルハ議會ニ生スル之ヲ避ク可ラサル方法ナレバ議決ニ至ル前少クモ少數者ノ意見ヲ表示スルノ機會ヲ得ルニ審議討論ヲ及スル議會ノ議決ヲシテ周倒綿密ナラシムルニ適ナリ若シ議會ニ於テ多數ノ黨派ノ意見ノモ之ヲ表示スル機會ヲ得ルハ殆トシテ討論ヲ爲ス必要ナク其意見ハ反對意見ノ爲メニ節制セラルル機會ナキニ於テ往々專横ニ流シ且ツ周倒ヲ失フ

患ナレトモ又多數黨派ヲ代表スル議會ニテモ意見一致セサル場合アリトスルハ多數ノ意見ヲ以テ決スルノ外ナシ而テ此一半ハ全國多數ノ一半ヲ更ニ一半セシモノニシテ全國ヲ四分セシコトナリナルハ其意見ハ多數ナレバ全國人民ニ對シテキハハ多數ノ意見ヲ表スルモ是非ニテ却テ少數ナルモ知ル可ラス此ノ如キ場合ニ於テ若シ少數ノ一半モ其勢力ニ比例シ議員ヲホスモノトモ前ノ少數ノ一半モ意見ハ却テ多數ノ意見ナリトセザレバ得サルニテ加之少數者ヲシテ公會ニ於テ其意見ヲ表示スル機會ヲ得ルニシテ後ラニ多數ノ專横ヲ傍觀スルノ地位ニ立タルハ不平相対結シ革命ノ原キトナルナキヲ保ヤス然ラハ失望ノ極遂ニ國家ノ公務カミ冷談ナルニ至ルコトアリ寧ク少數ノ黨派ノミナラス一選挙区ニ於テ比較的多數ヲ占ムル黨派ニテモ多數ノ少數黨派聯合ニテ之ニ



当レハ多教ヲ占メテ却テ代表ヲ得サルモノアリ而テ此等ノ小党  
汎連結スルハ主義ノ相近カヨラスレテ極端ニ反対シテ党汎トシテ  
單ニ時ニ策畧ヲ為メ結合スルモノアリ何レモ各党汎ハ議員ノ  
全教ヲ独占スルカ全ク代表ヲ得サル地位ニ立ツカ以テ撰挙競争  
争ノ激烈ヲ免レカルナリ此等多數代表制ハ此等ノ敵大害アルヲ  
以テ比例代表又ハ小教代表ノ方法ハ夙ニ吾人ノ辛若經營スル所  
ニシテ已ニ吾人知ラルル方法少カラス又現ニ其方法ノ二ヲ實行スル國ナキニ  
非ス又教代表ノ法ヲ單ニ少數ノ党汎ヲシテ多數ノ代表ヲ得セシ  
ムル為メ便宜上ノ規定ヲ設クルニ止マルモノアリ之レヲ稱シテ投票ノ  
少數代表ト云フ或ハ又一定ノキ各派ヲシテ其實數ニ比例スル代表ヲ  
得セシメントスルモノアリ之レヲ稱シテ比例代表ト云フ投票ノ少數代  
表ニ屬スル方法ハ或ハ人為ソ方法ヲ以テ多數ノ党汎ノ制限ヲ

加フルニヨルモノアリ(投票)或ハ人為ノ方法ニ依リ少數ノ党汎ノ勢力カ  
ヲ加フルモノアリ(投票)

直接撰挙即チ單撰法間接撰挙即チ複撰法諸國現  
行ノ制度ハ多ク直接撰挙法ヲ用エシモ亦間接法ヲ採ルアリ間接  
撰挙ニテ上院ヲ組織スル國ニテハ下院ハ直接撰挙ナルヲ例トシ  
直接撰挙法ハ主トシテ左ノ理由ニ基ク

- (一) 直接撰挙トハ被選人ト撰挙人トヲシテ直接ニ係  
ヲ有セシムルニ係ナリ及之間接撰挙法ヲ用テ議員ハ選  
挙人ノ撰任スル所ナレバ元ト撰挙人ノ信託セサル所ナルモ  
知ル可ラス然レバ選挙ノ要旨ハ適当ノ議會ヲ組織ス  
ルニナリ被撰入ト選挙人トノ間ニ信任ノ係アルト否ト  
ハ深ク向テ要セス



(二) 直接選舉ノ制度ニ於テ選舉人ノ利害ヲ感スル者多シ  
 又之間接選舉ニテアリテハ原選舉人ノ選舉ノ結果直接  
 ニ表ハシサルヲ以テ選舉ニ冷淡ナル傾キアリ

(三) 直接ハ一回ノ選舉ニヨリテ終ラズルモ間接選舉ハ二重ノ  
 選舉ヲ要スルヲ以テ手續簡易ノ利益アリ

以上種々ノ理由アリ余ハ直接ノ選舉ハ普通選舉ニ類シ可成ク  
 教ノ入ニ權利ヲ有セシムルニマリト信ス又之間接制度ハ左ノ理由ニ  
 基ク

(一) 多數選舉人ハ其使義ノ範圍ニ於テハ人々ヲ識別スル  
 得ルニ支シク汎キ區域ニ直リテハ人々ヲ識別スルカヤキ故ニ  
 多數ノ選舉人ハ一定ノ見識ヲ不正手段ニヨリテ動カレ  
 又ハ概説者ノ爲メニ容易ニ左右セテハ、故大害アリ間接

選舉ノ法ヲ採シハ原選舉人ト單ニ平生接近スル獲キ  
 範圍内ニテ適當ノ選舉人ヲ選舉スルニ止マル故ニ容  
 易ニ適任者ヲ得ルルヲ得而テ此方法ニヨリ選舉カシタル者  
 ハ概シテ時世ニ適シ識別ノ能力アル故ニ其選舉ニ係ル議  
 員ハ自ラ其任ニ適スル結果ヲ見ルヲ得殊ニ選舉区ノ區域  
 ノ弘ク又選舉權ノ要件汎ク國民ノ下層ニ及ハハ直接選  
 舉ノ方法ノ一層汎キ故間接選舉ノ方法ニヨリ之レヲ概  
 ノーヨシ

(二) 間接制度ニテハ選舉人ハ自己一身ノ權ヲ行フニ止マラス併セ  
 テ已レテ選舉人トシテ原選舉人ニ對シ德義上ノ義務ヲ負  
 担スル感心覺見アル故ニ選舉ハ公ノ事致カナルヲ感スルニシテ  
 從テ無責任ノ投票ヲ爲シ又ハ妄リニ選舉權ヲ放棄スル



ト云ナレト信ス加之撰舉人ト為ルハ一ノ名賦言ナレハ其地位ノ重キニ後テ議員ヲ撰舉スルモ自ラ慎重ナルヘシ特ニ撰舉ニ依リ組織シタル議會ヲ以テ議員ヲ撰舉セシムルハ此利益一層大ナリト信ス

(三) 議員ト撰舉人トの間ニ親密ノ關係ヲ生シ議員ハ撰舉人ニ對シ德義上ノ責任ヲ感スルト深キト共ニ撰舉人カ多ク見識ヲ備フルヲ以テ之ヲ不當ノ請託ヲ為シ議員ヲ若シムル如キトナカルヘシ

諸國外ニテ下院ノ撰舉ニ間接撰舉ヲ實行スルモノハ独乙ハ廣大ナル國ニテ番、ハアテレヘウセル及ヒ諾威ニシテ一部ハ直接撰舉一部ハ間接撰舉ヲ用ユルハナリ填ハ商工會其他主モナル諸國ハ皆直接撰舉ニ依リ下院ヲ組織ス

### 國亦然リ

撰舉ハ直接接ナルモ間接ナルモ皆撰舉ニ区ヲ置カサルナシ撰舉ニ区ヲ置クニアル方法ニアリ

- (一) 單名投票。各選挙区ヨリ各名ヲ出シ各選挙人ハ各名ニ限リ選挙スル者ナリ(仏國ニ其本源ス)
  - (二) 連名投票。各選挙区ヨリ各名ノ議員ヲ出シ各選挙人ハ各名ノ被選人ニ投票スル者ナリ
- 連名投票ノ方法ヲ採リ又單名投票ノ方法ヲ採ル理由ヲ比較ス

(一) 連名投票ノ目的ハ選挙ノ弊害ヲ防クニアリ選挙区域ノ汎ク選挙人ノ數多キハ不正ノ手段ニヨリ勝ヲ制セントスルモノ入カノ能ク及ブ所ニ非ラサレハ自ラ選挙ノ弊害ヲ減



又ス凡信果ヲ乘スラントハ連名投票ヲ可トスル理由ニナリ  
然レハ党派ノ組織ヲ利用シテ教連結シテ競争ニ従事  
スレハ選挙区ノ大小選挙人多少ハ不正手段ヲ行フ難易  
ニ依レモ干渉ナシ

(二) 單名投票ノ法ヲ用テハ一人ノ候補者カ他人ヲ敵視スル情  
ハ他一人ニ集メテハ競争モ自ラ激烈ニナレテ敗者ハ恨ミテ  
一人ニ集メテ之ヲ教入、分ヲヨリ自ラ  
票ノ單名投票ニ勝ル所ニテ人ノ往々唱フル所ナリ然レハ連名  
投票ノ法ニ依リハ教多ク人カ連結シテ競争ニ従事スル故貴  
任ヲ感スル一誠々平常ハ公平ノ人モ或ハ不正ノ手段ヲ用ユルニ  
時躊躇セラルル一アル而已ナラス多教共同ノ運動ヲ爲スニ  
當リテ各競フテ運動競争ヲ熾ミトスルハ自然ノ勢

ナリ此ノ如ク競争益盛ナレハ恨ヲ選挙区結了后、胎ス一深キモ  
又現カレカハキ勢ナリ加之撰挙区ノ区域弘ケルハ競争ノ及  
所モ又廣シ若シ之ヲ分テ教多ク撰挙区ニ分レハ一區ニ於テ敵大  
甚レトスルモ他ノ區ニ於テハ或ハ敵ヲ免ル一アリ

(三) 單名投票ヲ用スレハ一選挙区中ニ教多ク人<sup>物</sup>ノアル一人ノ  
外ハ議員タルヲ得ス及之他ノ選挙区ニ人<sup>物</sup>モ乏シク爲シテ能  
ク選ニ劣レル者モ當撰ヲ僥倖スル者アリ且レ單名ノ敵ニシテ  
連名投票ノ利益ナリ然レハ連名投票ハ党派外ノ候補者  
ニ利益ナリ党派ニ屬セサルモノハ大ナル選挙ニ際リテ運動  
スル機子ナキ故ニ能選ニ劣リレ党派ノ候補者ニ勝ヲ制セラル  
カ亦ハ自ラ意思ヲ屈シテ党派ニ入ル外ナレ故ニ連名投票党派  
外ノ人ヲテ議員タル望ミヲ失ハシム



(四) 撰挙区域弘キ時ハ撰挙人カ議負ニ適任者ヲ識別スル  
一難ク選挙人ニ定メ見識ナク賄賂親誼ノ為メ容易ニ  
左右マシ選挙人カ数入ノ周施者ノ手ニ般スル恐レアリ

(五) 連名投票ハ連名候補者中偶々ニ名望ミアルモノアリハ選挙人  
ハ他カ被選者ノ人トナリテ問ハス保セテ投票スル故教者ノ無  
能力カ候補者ヲシテ一人ノ名望ヲ藉リテ當選ヲ僥倖スルヲ  
得セシムル敵アリ

(六) 選挙ノ区域大ナルハ其撰挙ニ係ルモノハ一方一局部利益ニ  
没シ全局部全國ノ利益ヲ先キニスルハ連名投票ノ利益トシテ  
一般ニ認ムル所ナリ然レモ選挙ノ区域弘ク候補者ノ人トナリ普  
ク撰挙人ニ知リス專ラ其主義ニ依リ撰挙人ノ望ミヲ繋  
カントモハ利ヲ選挙人ニ謂ハシムルヲ要ス而テ其撰挙人ノ最モ悦

(七) 所ハ其地方特別ノ一偏スルモノナリ故ニ連名投票ハ却テ地方一  
局部ノ利益ヲ以テ選挙ノ利益トナス恐レアリ

單名投票ニテハ撰挙区ニテヲ教ヲ占ムルモ他ノ地方ニテハ其  
数ナルイアリ又一方ニ通シテ少教ノ党派ニテモ尚一ニノ選挙区  
ニテハ議負ヲ出ス望ミナキニ非ス及之連名投票ノ法ニ依レハ  
一地方ヲ通シテ選挙人ノ半分一人ヲ加ヒレ党派ハ其地カ  
議負ノ総教ヲ独占スルヲ得及之半教ヨリ只一人ヲ減スル  
党派一人ノ議負ヲ出ス一能ハス故ニ其教代表ノ議會ハ連  
名投票ニテハ單名投票ニテハ諸國ノ現行法ヲ見ルニ連  
名投票ト單名投票トヲ使用スルモノアリ丁抹ニテハ單名  
投票ヲ用ヒ合衆國ノ下院及各州ノ議會モ概シ單名投票  
ナリ独乙帝國モ又然リ其他連名投票ヲ交スルモ割合ハ單



名投票ヲ用ニル者多シ我國ノ衆議院モ概テ單名投票ニシテ全國貳百五十七ノ撰舉区中貳百十四ノ撰舉区ハ各一人ノ議員ヲ出ス其他ノ区モ或各ヲ撰舉スルニ過キズ

撰舉權ヲ有スル要件ニ于テ諸國ノ制度大ニ異ナルハ財産ヲ以テ資格ノ要件ト為スト否トノ点ニテリ財産ノ点ニ拘ハラズ他ノ要件アル者ニ平等ニ撰舉ヲ推ラフルヲ普通選舉ト云フ臣民ヲシテ國家ノ政務ニ參與セシムル精神ヨリ見レハ可成ル臣民ヲシテ撰舉權ヲ有セシメ奉公ノ精神ヲ養フヘキハ左モ希望スル所ナリ撰舉ハ元來國家ノ機子ヲ組織スル法ナレハ如何ナル程度迄人民ヲ撰舉ニ參與セシムルカハ一々國家ノ利益如何ヲ決スヘキ問題ナリ

代議ノ旨趣ハ社會ニ於ケル實際ノ干係ニ應ジテ人民ノ狀態ヲ社會ニ反映セシムルニアルハ自由ニ述ヘレ所ナリ普通選舉ハ教ノ為メニ所負ヲ重キスルモノナリ單ニ教ヲセハ子孫ハ親ニ勝テ弟子ハ師ニ勝テ全員愚ハ當智ニ勝タレ是レ固ヨリ代議ノ旨趣ニ違スル者ニ非ス且ツ選舉權ハ公權ナルト同時ニ公ノ任務ナリ吾人徃々權利ノ点ニ付重キヲ置キ選舉權ニ對スル制限ニ對スル制限ニ付固有ノ權利ヲ制限スル如ク誤認シ選舉權ノ範圍ヲ以テ恰カモ一種ノ階級ニ特權ヲ與フル如ク考テアルモノナリ彼ノ普通選舉ノ如キ主トシテ之レニ基キ誤レルカ如シ然ルニ選舉ハ國民カ國家ニ對シテ尙一種ノ任務ナリ故ニ國家ハ此任ニ堪エルモノニ對シテ而已其資格ヲ與フルヲ得日々衣食ヲ求ムルノ外考ヘナキモノニ對シテハ平等社會ノ事情ニ注意シ誠心誠意撰舉ニ從事スヘキヲ命スルハ誤ナリ一定ノ意思モナク又利害ヲ感スル者ナキ徒ニ撰舉ニ參與



セシムルハ容易ニ他人ノ為ニ動カサレ結局撰挙ノ実権ハ女  
 教者ノ手中ニ假スルコトアルヘシ撰挙権ノ不平均ハ立法者ノカミ  
 テ或ハ之レヲ除クヘキモ社会ニ放ケル執力カノ不平均ハ法律ヲ以テ之レ  
 ヲ除クコトヲ得ス故ニ女教ハ資格アリ智識アル者ニシテ法ノ表面上  
 多数ノ貧弱心者ニ屈セラル可ラカル地位ニ立ツモ多数教撰挙人ノ  
 定マリシ意見見ナキニ乘リテ党ノ勢力カラ用ヒテ多数教ヲ利スルハ却テ  
 容易ナルヘシ甲申意普通撰挙ハ撰挙権ノ平等ヲ認メテ却テ  
 不平均ヲ生ジ撰挙権ヲ弘ク人民ニ及ボサントシテ却テ撰挙ノ実  
 権ヲ少数教者ノ手ニ假セシムルモノナリ故ニ独乙帝國ハ歴史上ノ理由  
 ニ依リ普通撰挙ノ制ヲ用ヒモ其ノ故大害ヲ救フ一手段トシテ  
 議員ニ實費ヲ支給セラルヲ以テ普通撰挙ヲ採用セラル要件  
 件トセリ此要件ノ実効女キハ事實ノ証明スル所ナリ

普通撰挙ノ大害ヲ避ケル三種ノ方法アリ

- (一) 一定ノ財産又ハ租税額ヲ以テ撰挙資格ヲ要件トスル者  
 ニテ汎ク諸國ノ間ニ行ハル
- (二) 所謂複教投票ナリ、即チ納税額ノ多少ニ依リ一人ノ撰挙  
 人ニ多数ノ撰挙権ヲ與ヒ又官職若シテ學位財産等ニハ一ノ  
 撰挙人ノ代表スル利益ノ種類ニ從テ同一ノ撰挙人ニ多数  
 ノ投票権ヲ與フル者ナリ
- 英ニテハ教多ノ撰挙法改正ノ一部トナリシイアヒ遂ニ採用ニ至リ  
 サリキ白國ハ近來憲法改正ニ依リ此法ヲ採用セリサ  
 レト左ノ規定アリ
- 年齢三十五歳以上結婚或ハ子ヲ以テ後子官務婦タル者又夫  
 ナク氏五ツラシクノ税ヲ払フ者ハ通常ノ外尚一ノ投票



有ス或ハ又公債証券又ハ郵便貯金銀行ノ預リ書ヲ有シ  
 其收入百フラシクニ當ルモノハ各通常ノ外 *Some Value*  
 ヲ有ス廿五歳以上ニシテ高等ノ學校(大學)ノ卒業証書ヲ有  
 スル者中等ノ教育中高等級ノ証書ヲ有スル者政教カノ  
 官職ヲ有シ現ニ官職ニアル者民間ニ職業ヲ有スル者是ナリ  
 然レモ何人ニモ三以上ノ  
 ヲ持ツ能ハス教育ノ原素ヲ加  
 フルハ大ニ可ナリ西ニテハ實行セルナリ今日迄賦産アルモノハ教  
 育アルヘシト通論セシ之レ誤ナリ賦産ノニハ重視スヘカ  
 ラス白ニテハ賦産ヨリ教育ニ重キヲ置キシハ大ニ進歩  
 シタリ將來進歩ハ教育ノ原素トモ教授トモ重キヲ  
 置カンカ

(三) 等級選擧此方法ハ稍複雑ナリサレハ实例ヲ擧ケ之ヲ証

セシ普通ニテハ賦産ヲ以テ撰擧權ノ要件トセス然レモ原撰擧  
 人ヲ其納ムヘキ直接國稅ノ額ニ從ヒテ三級ニ區別シ各級ノ納  
 稅額互ニ相同シキモノトアルヲ要ス最多數ノ稅ヲ納ムル  
 撰擧者ヨリ漸次ニ總稅額ノ三分ノ二充ツル迄ヲ以テ二級ヲ  
 組織シ最低ノ額ヲ納ムル原選擧人ト及ヒ余ノ納稅者  
 ル原選擧人ヲ以テ三級ヲ組織ス稅額兩級ニ跨リシハ上級ニ  
 編入ス數名金額ノ納稅者アル片ハ姓名ノ上四ニ從ヒ尙竹職  
 引ニ依ル各級原選擧人ハ原撰擧人ニ撰擧スヘキ撰擧人  
 ノ六分ノ一ヲ撰擧スニ端數アル片ハ一級及三級ニテ選擧スニ端  
 數人ナレハ二級ニテ撰擧ス

等級選擧ノ方法ニ依リハ納稅額多キモノハ多數ニテモ多數  
 額ノ納稅者ト同額ノ議負ヲ撰出スル故ニ負者モ富者モ共ニ實



際ノ執力カニ比例シテ適當ニ代表セラレハナリ一定ノ財産額又ハ納税額ヲ以テ選舉ノ資格ノ要件トス選舉ノ資格ヲ有スルモノトテ兩断シテ撰挙スラシテ均ニ投票權ヲ行ハシムルハ未タ全ク代議制ノ本上ニ合セサルモノナリ

等級選舉ノハ之ニ及シテ能ク貧富ニ応シテ能ク撰挙權ノ割合ヲ定メ且ツ選舉權ヲ下層ノ階級ニ及ホスモ普通選舉ニ其ノ敵大害ヲシ只等級選舉ノ大ナル欠点ハ同一ノ額ヲ納ムルモノニシテ貧富者ノ多キ選舉區ハ一級ニ屬シ富者ノ多キ所ハ三級ニ屬スル如キ事實ヲ生スル一アリ故ニ町村會議員ノ如キ小區域ニ於テ之ヲ行ヒ別ニ選舉區ヲ設クル要ナク又之レヲ設クルモ小区域内ニテ事情略ホ相均シキ場合ニハ等級選舉ハ最モ適當ノ撰挙ト認ムルヲ得然レモ立法議會ノ選舉ニハ未タ完全ナリト云フ可ラズ

普通撰挙ノ制ハ仏、合衆國、瑞士ノ行ヒ等級撰挙ハ番ノ外他ノ小國ニ行ハルモ教國ニハ財産又ハ納税ヲ以テ選舉ノ資格ノ要件トス合衆國ハ官吏ニ被選舉權ヲ行フハ、伊、白モ之ヲ例トスルモ或種類ノ官吏ニ限リ例外トナス英國ニテハ千七百五年以後設ケタル新官職ニ就キタル者ハ特例ヲ設ケサル者ハ議員タルヲ得ス千七百五年以前ノ官職ニ就キタル者ハ特例明文アル外選舉セラレラ得概シテ稅殺カニ係スル官有給ノ或列官官者ノ屬官等ハ選舉セラレハ、一ヲ得ス獨ニ普國等ニテハ官吏モ議員タルヲ得又上官ノ許可ヲ受クルヲ要セス只一ノ例外アルノ三國西、丁、諾、葡等又然ハリ

選舉手續ニ付説明ヲ要スルハ秘密選舉ト公票選舉トノ區別ナリ秘密選舉ハ無記名ノ投票ヲ以テ之レヲ行ヒ何人ノ



投票ナルヤ之ヲ知ル能ハサル者ヲ云フ公票投票トハ口頭ニテ指名  
又ハ記名投票ニ依リ之ヲ行フ何人ノ投票セシカラ知ルヲ得  
ルヲ云フ

秘密撰挙ヲ採ル法ハ左ノ諸点ニ利アリ

- (一) 撰挙人ハ身上ノ干渉ヲ有スル者ノ爲メ不吉ノ執カカラ及キテ  
ルヲ避ケ自己ノ信スル所ニ自由ニ投票スルヲ得
  - (二) 賄賂強迫等不正ノ手段ヲ以テ撰挙ノ投票ヲ約束セシム  
ルニ選挙ニ際シ果シテ其約ヲ履行セシヤ否ヤヲ知ルヲ得サ  
ルヲ以テ此等ノ敵大害減ニスルニ至ラン
  - (三) 公票投票ヲ以テ選挙ヲ行フハ選挙人ハ自由ニ其意思  
ヲ表示スルニ憚ル所アルカ故ニ棄権者ヲ増サン
- 公票投票ヲ採ル法ハ

- (一) 國民タル者其國家ニ対スル公義務ヲ行フニ當リ公然其所  
信ヲ行フヘキナリ又ノ耳目ヲ宥切ニテ爲スコ如キハ宜シク耻  
ツヘキ所法ハ此ノ如キヲ規定ス可ラズ
- (二) 何人カ何人ヲ投票セシテ知ル片ハ撰挙人ハ各其投票ニ  
付責任ヲ感スル深ク從テ其投票權ヲ乱用シテ不能カ  
者ニ投票スルナレ
- (三) 選挙人ヲシテ賄賂等ニ依リ投票ヲ約シテ選挙ノ内ニ  
其約ヲ履行セサル如キ不法ノ行為ハ法律ノ規定ニテ保  
護スルハ善良ノ政策ナラズ
- (四) 口頭指名ノ法ヲ用テハ選挙手續キ尠簡易ナル利益アリ  
又投票ヲ用ユルモ記名偶々次員格ナキモアリレ片之ヲ訂  
正スルノ利益アリ



要之人民ノ程度低ク又撰挙権下級及フ片ハ秘密山選挙ヲ設  
クル必要多シ又市町村ノ如キ狭キ区域ニシテ選挙人選挙  
人トノ間密接ノ干係アル場合ニハ公票投票ヲ用ユルヲ得  
カル事  
情モアラン理想トシテハ公票投票優レリトス

現今政州諸國ニテハ往々秘密選挙ノ法ヲ設ケタリ只丁ニテハ後  
票撰挙法ヲ設ケ換ハニ制度ヲ混有ス仏及英モ又秘密投票  
ヲ用ユルトナレリ

### 有限投票

有限投票ハ例ヘハ一ノ選挙区ニ三名ノ議負ヲ撰出スヘキ場合ニテ  
各選挙人ハ三名ニ限り投票スルヲ得ルヲ故ニ例令多敷ノ党  
派ハ其投票ヲ集メテモ多数投票派ハ尚一名ノ議負ヲ撰出  
スル望ミナキニ非ス此方法ハ一千八百六十九年ヨリ千八百八十五年迄英國ニ

行ハレシモノトシテ三名撰出ノ選挙区ニテハ各撰挙人ハ二名ニ限り投  
票スルヲ得四名ノ所ハ三名トス以テ利ヲ於テ一千八百八十二年撰挙法ハ  
五名ノ所ニテ四名ト規定セシモ一千八百九十一年ノ法律ハ聯合投票ヲ廢  
スルヲ以テ此規定モ自ラ消滅セリ西班牙ニテハ三名ヲ撰出スヘキ区ニテハ二名  
四名又ハ五名ノ選挙区ニテハ三名六名四名七名八名ハ六名ニ限り葡  
萄牙ニテモ似類ノ方法ヲ採リ其他ノ諸國ニテハ及合衆國ノ諸州内ニ此方  
法ノ適用アルハハ實例アリ

此方法ニ拠レハ党派ノ巧拙ヨリ意外ノ結果ヲ生スルヲナキニ  
非ス例ヘハ撰挙区ニ選出スヘキ議負數五名ニシテ其六区内ニ甲乙  
兩党アリ甲党式百四十、乙党式百六十ノ選挙人アリトス普通通  
ノ選挙法ニ依レハ甲党ハ 乙党ハ 乙党ハ  
ナリ然レテ乙党ノ独占ニ及スヘシ然レシ此方ニ依レハ甲党四人ヲ投票シ



乙党モ亦斯セハ甲党ハ一人出スヲ得ヘキ利アリ然レモ乙党ハ其  
 勢力カラ頼ミ五人ニ選舉シ甲党ハ四人ノ投票セントセハ其結果甲  
 党ハ各々四票ヲ然レモ乙党ハ多数教党ナルニ拘ハラズモ投票ハ  
 一一ヲ得ルノミニテ甲党ヨリ四人乙党ヨリ一人ヲ投票スル結果ヲ  
 生スルアリ若シ多数教党カ如此意外ノ結果ヲ避クル為ニ其投票  
 ヲ四人ノ被選人ニ集ムトセハ少数教ノ党派ハ僅カニ二名ノ選舉人ヲ有  
 スルモ尚他ノ一人ヲ出スヲ得要スル有限投票ハ未タ全ク代議ノ本  
 旨ニ適フモノト云フヲ得ス又一方ニ於テ多数教ノ党派ハ有限投票ノ  
 制ニ拘ハラズ少数教者ヲ壓倒シテ議員ノ全数ヲ独占スルヲ得ル  
 場合アリ也  
 例ハ選舉人ニシテ被選人三名ナリトモ甲  
 党ハ17人比60ニ各投票スルハ得ヘシ而シテ乙ハ比  
 Dニ入レハ33ヲ得ヘシ然ラハ33人ヲモ有レナカラモ一人ヲ出スヲ得

又故ニ此場合ハ少数教代表者ノ目的ヲ達セザルナリ此ノ如キ極メテ  
 少キ場合ニモ出シ得ルアリ又意外ノ結果ヲ生スルアリ至テ  
 ノ多キ方法ナリ加之有限投票ノ方法ハ二種ノ党派ノミカ  
 存在スル場合ニ用ヒ実効ヲ奏スルヲ得ルモ三種ノ党派ノ場合  
 ニ各党派ノ番々代表スルヲ得ス  
 且本合投票

集合投票ト云フハ例ハ三名ノ議員ヲ選舉スヘキ場合ニ於テ選  
 舉人ハ或ハ三名ノ被選人ノ投票スルヲ得又一名ノ被選人ニ向  
 ノ投票ヲ興フルヲ得此方法ハ合衆國ノイリノエス州ニ實行セラレハ  
 所ナリ英國ニテモ地方議會ノ選舉ハ其例アリ也  
 今甲党ハ100票ヲ各興ヘシ乙党ハ100票ヲ各興ヘシ  
 ハDヲ得故ニ中二人及Dが當然スヘシ之レ此方法ノ運用ナリ此場合ニ







一定ノ源規

一定ノ源規ニ基キ各党派ヲシテ其實數ニ比例シテ議員ヲ撰  
 出セシメントスル所謂比例代表ノ方法ニ三種アリ單名投票及  
 連名投票ノ方法ナリ單名投票ニヨリテ比例代表ヲ得ル方案  
 ハ英國人ナルローローナル人ノ考案ニ依ル此方法ハ先ツ議席ノ數  
 (議員ノ員數)ニテ擗々選舉人ノ數ヲ除シテ得ル所ノ數ヲ以テ議  
 員ノ選舉マテラハ爲ヌ必要ナル投票ノ數トシ此數ヲ得シモノハ  
 何レノ選舉マテラニ於テ之ヲ得タルヤヲ論マス合算シテ投票ノ數  
 ヲ定ム故ニ各選舉人ハ必スシモ其所屬選舉マテラノ候補者ニ投  
 票スルヲ要セス何レノ區ノ候補者ニ投票スルヲモ得後テ論ク全  
 國ニ各望アルモノハ後令一地方ノ執力ナリトモ各地方ニ於テ行ヒ  
 投票ノ數ヲ合計シテ議員ノ當選スルヲ得各選舉人ハ

其日取モ希望セル被選舉人カ正數ノ投票ヲ得ルヲ得カリシ爲メ

ニ已レノ投票ノ全ク無効ニ般スル一能ハスレテ其主トシテ選舉マ  
 テラニ被選舉人ノ外次ニ左モ希望スル被選舉人ヲ列記スルモ妨ナ  
 シ而テ其第一ニ希望スル被選舉人カ正數ノ投票ニ滿タズ落撰  
 セシ時第二ニ希望スル被選舉人ノ投票ニ算入ス若シ第二ノ被  
 選舉人モ當選セザリシナラハ第三ニ希望スル被選舉人ノ得票  
 ニ算入ス以下之レニ準テス故ニ各々選舉人ノ投票ハ全ク無効  
 ニ般スル場合極メテ多ナシ  
 又一人ノ名ニシテ被選舉人カ過ク多ク投票ヲ集メシ爲メ定數ノ  
 議員ヲ得難キ場合ナキ能ハカリテ以テ各被選舉者ノ得ル投票  
 中ニテ定數ニ充ツル迄其當選者ノ得ル投票ニ定數ニ超過ス  
 ル投票ハ前ニ述ヘタル如キ順序ニ依リ他ノ被選舉人ノ投票ニ算入



入スルモノトス何レノ投票モ之トシテ當選者ノ投票ニ等入レ何レノ投票之レヲ他ノ被選人ニ譲ルカヲ定ムニハ種々ノ方法アリ

I II III 〃 無票区ヲ数ス 議席数 = 100人

A B C 〃 無票区ヲ数ス 議席数 = 1000人

カ E C 〃 無票区ヲ数ス  $\frac{10000}{100} = 100 = \dots$

此場合ニハ百票ヲ得ル者直チニ當選者ト為ス而テ百以上ナル者ハ其以上ノ者ヲ計皆サマス若シBカ百以上トナレハ其以上ノ投票ハ無効ナルアル故ニローリーナル方法アリ則チB C Dト記名シタル者ハ投票ヲ計算スルハCヲ計モ若又100ニ達スレハ更ニDヲ第ニローリーニ等入スルヲ得且ローリーノ方法ナリ然レバ此順序ニ付テハB C 読上ラサル順序ニヨリ差ヲ生スルハ種々ノ方法アリ即チBノ餘リシハBノ自由ニスルトナフトローリーニヨルトニ方法アルナリ今此方

法ノ利益ヲ例示センニ例ハ甲乙丙ノ三派ニ分ルル  
甲 2000 乙 500 丙 100

乙 100 50  
丙 150 150

I 鹿ニテハ甲 200票ナレハ勝ヲ右メ II 鹿ニテハ丙 150票ニテ勝チ甲ノ II 鹿ニ於ケルル丙ノ鹿ニ於ケルルハ無効トナルヘシ故ニ I 鹿ノ者ヲ II 鹿 II 鹿ノ者ヲ III 鹿ニ持来リ全國ヲ通算サシテ如何ヲ見ルト云フナリ

$\frac{1000}{100} = 100$  人  $\frac{5000}{100} = 50$  人  $\frac{2000}{100} = 20$  人  $\frac{2000}{100} = 30$  人

如此全國ニ通シ比例ニテ出シ得ルトナルナリ

ローリーノ方案ニ係ル比例代表ノ方法ニ部合西班牙及葡萄牙ニ實行セラレローリーニテハ一選挙区ニ於テ當選セス氏名又ハ









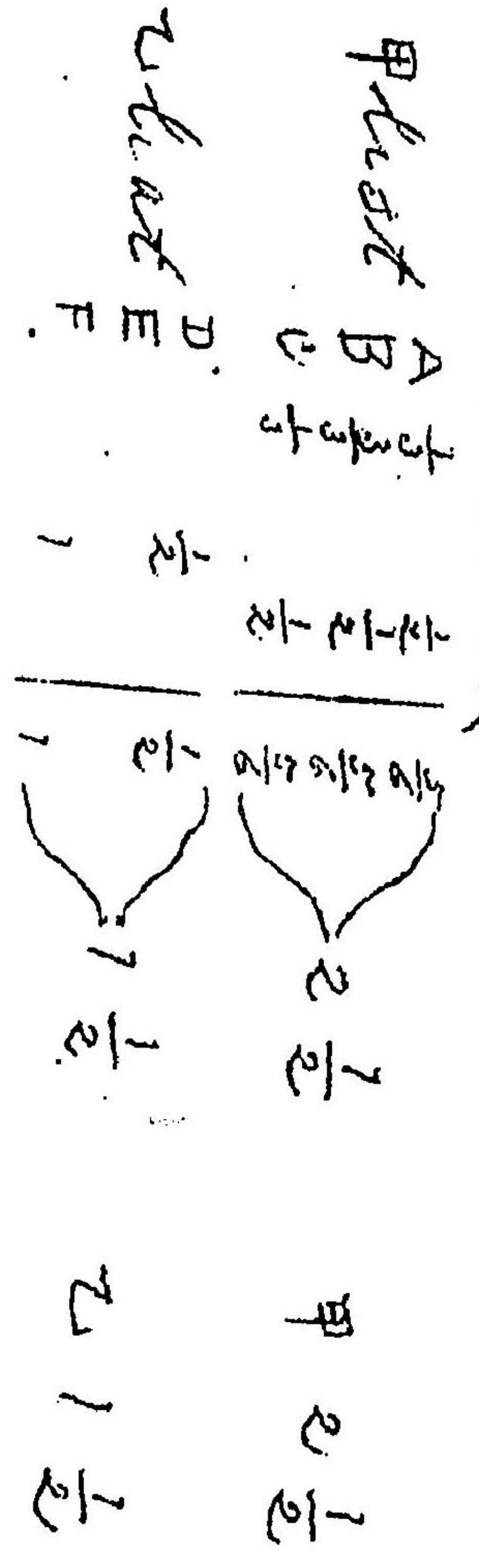


母 1500  
 子 79  
 母 1500  
 子 1500  
 母 75  
 子 75  
 母 75  
 子 75

7ニ於テハ700ヲ以テ除スルハ甲乙丙トナル  
 ヲ以テ合計四トナリ不都合ナリ故ニ800ヲ以テセ  
 ンカ又甲乙丙トナリテ不都合ナリ  
 故ニ800ヲ除シ甲乙丙トナル合計3トナ  
 リ困難ナリ場合ハ之ノ場合トス  
 (此場合ハ抽籤ニ依ル)

各選挙人ノ投票示ハ總テ其價ヲ等シクシ一名ノ候補者ニ投  
 票スルモ數名ノ候補者ニ投票スルモ一價トシ投票ノ總價格  
 ハ變ズ故ニ一名ニ投票スルハ一名ノ候補者ニ一票ヲ得ニ人ニ投票スルハ  
 二名候補者各半票ヲ得若シ甲ノ名簿候補者一人乙ノ名簿  
 候補者一人併セテ二人ニ投票セシハ両名簿ハ各半票ヲ得シモ

ノトス各名簿ノ得シ全票及半票ヲ合計スルハ各名簿ノ得シ投票ノ  
 總數及一名簿中ニテ各候補者ノ得シ投票數ヲ知ルヲ得後テ  
 何シノ党派ヨリ何名ヲ出シ何人カ議員トナルカラ定ムルヲ得若シ  
 何シノ名簿ニモ屬セサル者ニ投票セシ選挙人アレハ候補者ヲ  
 以テ独立ノ名簿ヲ為スモノトス  
 今候補者ヲABC乙ノ候補者ヲCDEFトセハ今ABC 2BC 3BD 4Fニ投票シタリ  
 トセハ甲党乙党ノ差





此方法ハ近來 1897... 某州ニ採用セラレト云フヲウレニイエンル也此方  
法ハ候補者名簿ノ全体ニ重キヲ置キ其名簿中ノ一二ニ投票セシメ  
テ以テ直千ニ名簿ノ全部ニ投票セシメトシ選挙人ヲシテ人  
ニ投票セシメスレテ主義ニ投票セシメントスル困難アリ加之  
少ノ投票ハ全ク無用ニ散スルハ理論上 Help ノ方法ニ比シテ寧ろ口  
者ニルノ所アリ  
概言スレハ多數代表ハ道理アル思想ニ基ク者ナレ現今ニ於  
テハ未ダ完全ト認めヘキ方法ナク其行ハレ居ルハ僅々一部ニ過キ  
ス故ニ今日ニ於テハ選挙ノ結果ハ殆ト全ク各選挙区ニ於テ  
多數ヲ得ルト否トニ依リ決スルモノト云フテ差支ナレ

第五節

議員ノ地位

議員ハ議員タル資格ヨリ特別ノ權利ヲ有シ特別ニ義務  
ヲ負擔ス是等ノ權利ハ左ノ如シ  
(一) 其發言表決ノ自由

議會ノ議決ノ自由ヲ保テ政教カラテ係ラズ又ケガレシカ爲メ諸國  
ノ憲法特別ノ規定ヲ設テ其ノ議員ノ發言及表決ノ自由トス  
此原則ハ固ヨリ特別ノ明文又ハ憲法ニ基クモノニシテ古代庶子者  
ノ論スル如ク立憲國ニ当然行ハルノ所ノ一般ノ原則ト認めルヲ得之故  
ニ其範圍ハ專ラ各國憲法ノ規定ニ依リ且此法則ニ般臣民ノ責任  
ニテスル通則ノ例外ナルヲ以テ寧ろ口殺隘ノ解釈モカハル可ラス帝國  
憲法第五十二條ニ兩議院ノ議員議院ニ於テ發言シタル意見



及表決之付院外之於テ責ヲ負フナレトノ規定ヲ爲セリ此規定ニ  
 于スル第一ノ疑ハ意見ト云フ語ノ意味ナリ吾ニ於テ意見ト云  
 フ語ノ意味ニ于シテ疑問ヲ生シタル一アリ一方ノ論者ハ曰ク憲法  
 ノ目的ハ議員其職ヲ行フニ當リ独立及自由ヲ保シムルヲ以テ  
 單ニ意見ト云フモ議員ノ職務上ノ發言ハ一切之ヲ包含セシ後ニ事  
 實ノ陳述ニ付テモ責ニ任セシムルヲ得スト他ノ論者ハ曰ク意見ト云フ  
 ハ單ニ事實ヲ陳述スル一ニ及シテ思想ノ働キニ依リテ生スル結果ナ  
 ク故ニ無限ノ事實ヲ陳述シテ人名譽ヲ傷ムルカ如キハ所謂意見  
 ト云フ者ニ非ス議員ト討論ノ自由ハ一種ノ特權ナシハ技巧之ヲ解釈  
 セサル可ラストノ問題ニ于シテハ裁判所ト議會ト意見ヲ異ニシタレ  
 氏独乙刑法ハ國會議員カ其表決又ハ其職務上ノ發言ニ付責  
 ニ任スル一ナレト規定セムニ依リ前述ノ疑問ハ刑事ニ于シテハ全ク消

滅セリ帝國憲法モ失張リ意見及表決ノ語ヲ用ヒタリ乍意見ト事  
 實トハ往々分テ難キ所アリ如何ナル意味ニテモ事實ノ陳述ニ依リテ之ヲ証  
 明スル一ヲ要スヘキ事實陳述モ多ク自己ノ判断ヲ文ニテ要スヘク又議  
 員之言論ノ自由ヲ與ヘタル目的ハ其独立地位ヲ保チ院外ノ責任ニ顧  
 慮スル所ナク事實ニ其職務カ行ハシムル一アリト云フヨリ考フレハ事實ノ  
 陳述モ又所謂意見ナル語中ニ包含シ意見トハ固テ竟言ト同シ意見  
 味ナリト認ムルヲ以テ法ノ精神ヲ得タルモノトス憲法第五十二條ハ發言ト  
 ル意見ト云フヲ以テ文各ヲ以テシタル議員ノ發言ノ如キハ之レヲ此条ノ主  
 意ヨリ論スレハ文各ト曰頭トノ別ニヨリ責任ノ有無ヲ定ムルノ理由ナ  
 キヲ以テ發言トハ必竟表示ト云フ意味ニ外ナラスト認ムルヲ可  
 トス

議員ノ言論ノ自由ハ帝國本會議ノ議事ニナラス廣ク議員ノ職



務上ノ發言ニ于スルモノニシテ委員會ニ及ブテ造モナレテ言論ノ自由ハ  
 帝ニ刑法上ノ責任ヲ免カレシムル而已ナラス官吏ニテ同時ニ議員タルモノ  
 ハ議員タル職務ニヨリテ為シタル發言表決ノ為メ其職務ヲ免セラ  
 レ又ハ憲戒ノ処分ヲ帶ハルナレ只國會政治ノ行ハル國ニ於テハ  
 内閣ト意見ヲ同シケル条件ヲ以テ現職ニアル所ノ政務官ハ  
 議會ニテ重要問題ニ付内閣ニ反対意見ヲ採ルハ其職務ヲ失フ  
 アレモ之レ全ク其在職務ノ条件ヲ消滅シタル為メシテ其表示シタル  
 意見ニ付責任ヲ負フニ非ス議員ノ發言及表決ニ対スル無責任ハ國  
 家ニ対スル法律上ノ責任ナレト云フニシテ党派ニ対スル責任ノ如キハ憲  
 法ニ云フ所ノ責任ニアラス民事上ノ損害賠償モ又責任ニ包含セ  
 カル一嘗テ之レヲ述ヘタリ又議會ノ言論ノ自由ハ証入トシテ裁判  
 所ニ出庭スルノ義務ニ影響スル所ナレ証入ノ義務ハ事實ヲ

陳述スル止マリ議會ニ於テハ自己ノ發言ヨリ生ズル法律上ノ不  
 利益ヲ自己ニ負フモノニ非ス議員ノ發言ノ自由ハ其職務カ  
 行フ為メニ發言シタル場合ニ限ルモノニシテ選舉人ニ対スル報告  
 ノ如キハ勿論議場内ニ於テル發言ニテモ議長ノ許可ヲ受ケス  
 發言シタルカ如キ職務外ノ發言ニ付テハ其責任ニ任セサル可シ  
 又言論ノ自由ハ單ニ院外ニ於テ責任ニ任セスト云フノ意ニシテ院内  
 於テ議員ノ懲戒權ニヨリ憲戒セラレ、如キハ言論ノ自由  
 ニ于係スル所ナシ

言論ノ自由ヨリ生ズル結果トシテ議事筆記ヲ刊行スルノ自由  
 ラ奪フモノアリ乍係筆記刊行者カ其責任ニ任セサル議會開  
 ノ結果トシテ議員ノ言論ノ自由ヨリ生ズル結果ニ非ス故ニ秘密  
 會ハ議員ニ対シテ筆記刊行ノ自由ヲ得ス又英國



ノ如キ傍聴禁止ヲ原則トスル國ニ於テハ筆記刊行者ハ自カニ  
 其責任ヲセカレ可ラス筆記刊行ノ自由ハ眞止ノ筆記ニ限ル者  
 ニシテ或ハ一人ノ意見ノミヲ刊行シ或ハ議員ノ意見ヲ變更シテ刊  
 行シタル場合ノ如キハ刊行者ハ其責任ヲセカレ可ラス議員ニ議  
 事全体ノ正當ノ報告ヲ爲スニ當リテハ其責任ナシトモ強ク自己ノ  
 増説而已ニ限リ之ヲ刊行シ又更ニ之ヲ演説スルニ當リテハ其責  
 任セカレ可ラス

憲法五十二條モ明ニ之ヲ認ム

(二) 身体ノ自由

我國ノ憲法并ニ諸國ノ憲法ニ依リハ議員ハ開期中英國ニ於テ  
 ハ會期中間及會期ノ前後四十日間議院ノ全意思ナクシテ逮捕  
 セラレ得ス加之ノリノリ等ニテハ會期間審問スルヲ得ス會期

ト云フハ開會ヨリ閉會ニ至ル間ニシテ傳令會中ヲモ包含ス  
 身体自由ニ于スル原則ニ何レノ國ニモ例外アリ

ノリノリニテハ現行犯又ハ犯罪ノ翌日中ニ逮捕セラレル場合英  
 ニハ即決裁判ヲ下スルヲ得ル犯罪ヲ除キ其他ノ犯罪及裁判所  
 ニ對スル侮辱罪ニ付テ逮捕スルヲ得ル外國ハ現行犯及内乱  
 外患ニ于スル罪ヲ以テ例外トセリ

議員ノ逮捕ニ于テ議院ノ全意ヲ求メシ片ハ議院ハ如何アル理  
 由ニヨリテ合意ヲ與ヘ又ハ之ヲ拒ムルヲ得ルヤハ嘗テノリノリニ於テ  
 疑問トナリシ点ナリ一方ノ論者ハ曰ク議院ハ政府カ議事ニ干渉  
 スル爲メ故テ議員ヲ逮捕スルモノナラザル疑フヘキ理由アリヤ否ヤラ  
 審査スルニ止マル此点ニ疑ナキ以上ハ彼令議員ニ對スル逮捕ノ  
 理由充分ナラスト認ムルモ合意ヲ拒ムルヲ得スト云ヘリ及之論者



ハ曰ク議員ノ身体ニ于スル規定ノ目的ハ國民ノ利益ヲシテ障害  
ナク議員代表セシムルヲ得ルコトアリ故ク議員ノ逮捕ニ依リ代表  
者ヲ査集ハルハ一ナシト云フヲ原則トセラル可ラス議員カ承諾ヲ與  
フルコトアリテハ常ニ干渉スル為メ逮捕權ヲ濫用スルヤ否ヤヲ審査直ス  
ルコトナラス又罪ノ大小輕重ヲ審査シ刑事裁判ノ利益ト議會ニ於テ  
ル代表ノ利益トノ輕重ヲ比較スルハ一ヲ要ス云々多教ノ此子者ハ前説  
ニ全意ス一ト等モ全説ナリ抑モ議員ニ干シテハ議院ノ全意ヲ  
要スルハ議院ヲ以テ司法權ノ行使ヲ監督スル為メ機子トナス為  
メ非ス犯罪ノ証充公ナリヤ否ヤヲ審査スルカ如キハ司法機子  
ノ權限ニ屬シ敢テ議會ノ干渉スヘキ所非ス只政府ハ司法權ヲ  
濫用シ議員ノ自由ニ干渉スルヲ防ク為メ此權ヲ議院ニ與フル者  
ナレハ前説ヲ當然ナリトスル憲法ハ別ニ承諾ヲ拒ムノ理由ヲ

限ラス又理由ヲ示ス一モ要ヤサルヲ以テ疑問ハ何レニ決シテモ然ニト実  
際ニ歐州諸國ヤス英仏普其他諸國ノ憲法ニ依リハ會期前ニ逮捕  
セシメ議員ハ議院ノ要求ニヨリ逮捕ヲ解キ又審問ヲ停止スル  
一ヲ要スレ氏我國ノ如キ明文ナキ場合ハ議院ノ要求スル權ナキモノト認  
サレ可ラス一ト等モ全説ナリトスル憲法ハ別ニ承諾ヲ拒ムノ理由ヲ

(三) 實費弁償

議員ノ實費弁償ヲ弁償スルヤ否ヤハ政治上頗ル重要ノ問題ニシテ  
諸國ノ制度ノ異ル所ナリ實費ヲ給セサルハ稍々大ナル資産ヲ  
有スル者ノ外議員ノ職ニ就ク一ト等モ全説ナリトスル憲法ハ別ニ承諾ヲ拒ム  
ルハ政治上以テ一種ノ營業ト為ス此子ヲシテ議員ノ地位ヲ占メ  
シムル敵アリ現今多教ノ國ハ實費ヲ給セリ英ハ之ニ及シ給セス  
(其他独モ亦然リ) 實費ヲ給スルハ或ハ私又ハ我國ノ如ク是



賞トシテ一定ノ額ヲ獎マルモノアリ

乙 議員ノ 義務

(一) 議員ハ自ラ國家ノ利益ト信スル所ニ後ヒ發言投票スル一  
ヲ要シ選舉ニヨリ議員タルモノニテモ選舉人ノ依屬ヲ受  
クヘキニアラサルハ前述セシ所ナリ

(二) 議員ハ自ラ議會ニ出席スル一ヲ要ス代人ヲ列席セシム  
ルヲ得ス英國ノ上院ノ如キ千八百六十八年頃ニ至ル迄代人ヲ  
許セシモ今日於テ議員ノ職ハ國家ノ公務ニシテ代人ヲシテ  
行ハレムルヲ得サルハ昔ノ人ノ認ムル所ナリ

議員ノ地位ノ責任

(一) 任期満限。英國ニテハ下院議員及種々貴族ノ撰  
出ニ係ル上院議員ハ七年ヲ任期トシ仏國ニテハ上院ハ九年

下院ハ四年、……ハツ院五年ナリ

(二) 解散。是等ノ一般議員ノ資格ヲ今時ニ消滅セシム  
ル事故ノ外各議員カ其地位ヲ喪失スルノ原因アリ即チ

(三) 官職ニ就キレト。英仏等ノ諸國ニテハ議員カ官職  
ニ任シ又兼任セシハ其議員ノ資格ヲ失フモノトス乍係  
其官職カ議員ノ職ト相兼ヌル一ヲ得ルモノナレハ再選  
セラルルヲ妨ケズ

(四) 辭職。英國ニテハ其職ヲ辭スル一ヲ得サルヲ原則  
トス故ニ議員ノ職ヲ辭セントスル者ハ有名無實ノ官  
職ニ就キ資格ヲ消滅スルヲ例トス

(五) 議員タルニ必要ナル資格ヲ失ヘシ時  
(六) 議員ノ憲法權ニ依リ除名セラレタル時



其他本人ノ死亡ノ氏モ又然リ

一四六

### 第六節

#### 議會ノ會議ニ于スル法律上ノ要件

#### 開會

議會ハ常ニ集合スル所ノ合議体ニ非カハラ以テ時々開會スル事ヲ要ス議會カ合開スルハ一定ノ時期ニ議員自ラ集合スルヲアリ又ハ特ニ召集ヲ用ユルヲアリ仏國ニテハ通常會ハ特ニ召集ヲ要セスシテ毎年定期ニ当然會合ス其他大統領ノ任期満ナル十四日前又ハ死ノ片モ召集ヲ待タズ會合ス大統領何時ニテモ臨時會ヲ召集スルヲ得若シ上下兩院議員各過半数ノ請求アルハ召集ヲ為サル可ラス英普和國ニテハ及之議會ハ召集ニ依ルノ外開會セカハラ常例トス而テ召集ノ權ハ專ラ君主ニアリ召集ニ依ラズレテ議會ヲ開會スルハ英ニテハ國王崩御ヤシ場合合ナリ英國ニ



テモ國王ハ國會ノ主ニシテ又國會ノ終始ナリトノ一ヲ原則トスレバ  
山崩御ノ場合ニ當リテ議會ハ會カ傳會又ハ閉會中ナルハ直ニ再ニ集  
合シ若シ解散后新議會未ク成キセサルハ解散セラルレシ議會ハ  
當然復活シテ更ニ解散ヲ命セラルカ又ハ閉會ヲ命セラルハ外ハ六月  
間其職務ヲ行フテ得我國ニ於テハ全ク如此例外ヲ認メス元首  
ヲ召集ヲ待タスニ集合セシ場合ニハ之ヲ議會ト認ムルヲ得ス其會  
議ニ於テ政治ヲ論議スルハ政談集會ニ于スル規定ニ從ハサ  
ル可ラス

召集ノ場所我國及英普等ノ如ク別段ノ規定ナキ時ハ  
元首ハ自由ニ之レヲ定ムルハ法律ヲ以テ之レヲ一定ス  
召集權及制限  
元首ハ議會ヲ召集スル權ヲ有スレ此權ハ法律上多少ノ制限

アリ即チ議會ハ毎年之ヲ召集セサル可ラス英ニテハ女ク凡三年ニ一  
召集セサル可ラスト云フ法ナシ陸軍條例及豫算ハ毎年之ヲ召  
集スルヲ必要トスルニテ憲法ハ毎年召集スヘキ常例期月ヲ  
定メ十月十日ヨリ一月半迄トス且必西アル毎ニ召集スヘキヲ規定ス帝  
國憲法第四十一条及第四十二条ニ毎年議會ヲ召集シ且ツ臨時  
緊急ノ必要アル場合ニ臨時會ヲ召集スヘキヲ規定ス  
議會ヲ解散セシハ一定ノ期限内ニ更ニ議會ヲ召集セサル可ラストハ  
諸國憲法ノ定ムル所ナリ其期限ハ一ノハ九十日我國ハ五月ナリ  
ハ三月以内ニ選舉會ヲ開キ選舉了セシ后十日以内ニ召集ヲ  
要ス英國ニテハ及之一定ノ期限ナク其長短ハ時ノ事情ニ依リテ  
種々アリ  
解散后ノ議會ノ性質及會期



解散后ノ議會ハ通常会カ臨時会カハノ問題ニシテ殊ニ我國ニ重  
要ナル結果ヲ生スヘキ疑問ナリ憲法カ議會ノ会期ヲ三月トシ臨時  
会ハ勅命ヨリ隨意ニ定ムトセヨ以テ解散后ノ議會日ノ性  
質如何ヨリテ会期ニ重大ナル干渉アリ此点ニ付學者ノ説  
凡ソ三アリ

(一) 依レハ憲法上ノ必要ニヨリ召集スル議會ハ通常会ニ  
シテ其他ハ臨時会ナリ此説ニヨリハ解散后ノ議會ハ通常会  
ニ屬ス

(二) 依レハ臨時会ヲ開クハ通常元首ノ自由ナレハ我憲法ハ  
或ル事件ニ干レ臨時会ヲ開ク必要ヲ定ムルアリ王位継承攝政  
ヲ置ク場合ノ如シト云ヘリ此例ヲ以テ推シテ解散后ノ議會モ又  
臨時議會ト認ムヘキ如シ

(三) 自ク解散后ノ議會カ通常会ナルヤ否ヤハ解散前ノ議會カ  
通常会ナルヤ否ヤニ依リテ定ムルヲ得ス何トナレハ解散前後議  
會ハ法律上支レモ干渉ナキヲ以テナリ  
解散后ノ議會ノ性質ハ只解散前ノ議會カ已ニ豫算ヲ議レ  
タルヤ否ヨリ定ムヘキナリト

要ハ豫算ヲ議スルト否ヨリ通常会ト臨時会ヲ區別ス  
(四) 我國ニテハ右ノ外尚他ニ説ヲ生シ此説遂ニ實際ノ勝利ヲ制スル  
ニ至リ曰ク解散後ノ議會ハ通常会ニ非ス臨時会ニ非ス何トナ  
レハ定期ニ開クモノニ非ス又臨時會系急ノ必要ニヨリ開クルニ非カレテ  
以テナリ故ニ種特別ノ議會ナリ而テ特別会ニ付キ別ニ会期ニ于スル  
定期ナキヲ以テ君主ノ大權ニヨリ自由ニ開期ヲ定ムルヲ得ト  
(五) 我憲法カ特別ノ明文ヲ設ク若シ此明文ナケレハ臨時会ト雖モ三



ヶ月ヲ以テ会期トセリル可ラス若シ解散后ノ議会ハ通常会ニモ非ス  
臨時会ニモ非ストセハ此議会ニ于テハ別ニ会期ニ付キ例外ヲ設ケサ  
ルヲ以テ一般ノ通則ニ從ヒ三月ヲ以テ会期トセサル可ラス若シ之  
他条ノ規定ハ通常会ニ適用トスルモノトセハハ特ニ臨時会ニ爲  
メ例外ヲ設ケスレテ可ナリ是レ前説ノ大旨ニ合ナリ

憲法第三十三條ハ臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ臨時会ヲ開クハ  
キヨク規定ス臨時ノ必要ハ定期ニ開クノ必要ニ非スレテ定期外ニ  
生シタル必要ヲ云ヒ緊急ノ必要トハ定期ノ議会ヲ待ツコト得サル  
必要ヲ云フ必要ト云フハ事實上ノ必要ナル場合ニ限ル理由ナシ憲法  
上必ス議会ヲ開カザル可ナクハ場合(即チ法律上必要アル氏)最モ大  
ナル必要ナリト云フヲ得憲法ハ解散后五ヶ月以内ニ議会ヲ召集セザル  
可ラスト云フヲ規定ス故ニ通常會会ヲ開クハキ時期ニ先達チテ五ヶ月ノ期

限ラ経過スヘキ場合換言セハ解散后五ヶ月以内ニ毎年一回開  
會スヘキ議会ヲ開クコトヲ得サル事情アル場合ニハ即チ解散ト  
云フ臨時ノ事實ニ依リ通常會期ヲ待タスレテ開キタル場合ニ殊  
更ニ特別會ト云フ如キ各稱ヲ附セザル可ナクハ必要ヲ解スルヲ得  
ズ乍併解散后ノ議会ハ必スシテ通常ノ臨時會ナリト云フヲ得ス若シ  
五ヶ月ノ期限ヲ経過スル前通常會ヲ開クヘキ時期ニ達セシ  
場合換言スレハ毎年一回開クヘキ議会ヲ解散后五ヶ月以内ニ  
開クコトヲ得ル場合ニハ直チニ通常會会ヲ開クモ差支ナシ此場合  
ニ通常會会ヲ待ツコトヲ得サルハ緊急ノ必要ナキヲ以テ之ヲ臨時會  
ト稱スルヲ得サルハ論ヲ待タス要スルニ解散后ノ議会ハ場合ニ依リ  
臨時會タリ又通常會タリ何レニモ解散后一定ノ期限内ニ  
召集スレハハ規定ニ適合スルモノニシテ議会ノ種類如何



ハ此条ノ間フ所ニ非ス此条ハ五月以内ニ通常會合ヲ召集スル一ラ  
得ルニ拘ハラズ解散后ノ議會トシテ通常會合ノ外特ニ召集スル一  
ヲ要スルモノニ非ス

通常會合ト臨時會トハ其會合ノ時期并ニ會期ヲ異ニスル為メニ  
別段相異ナル所ナシ其議事ニ至リテハ臨時會ニテモ通常會  
ト同シク召集ヲ要スル原因ト為リシ事件ニ限ラサルハ五日ヲ  
人ノ認ムル所ナリ

召集。

召集ハ勅令ヲ以テ之ヲ行フ英國ニテ新タナル議會ヲ開クハ六月  
氏三十五日前ニ各上院議員ニ對シテ召集ノ勅諭ヲ發シ又樞  
密子長ニ對シテ選舉權ノ命令ヲ發ス議會ノ閉會ヲ命じ且場合  
ハ臨時豫メ次ノ議會ヲ開ク時期ヲ定ムルヲ例トシ若シ之レヲ變

更セサル可ラサルハ國王ハ女久氏六日前ニ召集スルヲ要スルニテハ召  
集ハ大統領ノ命令ヲ以テシ番ハ勅令ヲ以テス  
我國ニテモ召集ハ勅諭ヲ以テシ女久氏四日前ニ之レヲ發布スルニモ

ノトス而テ此勅諭ハ官報ニ登載スルヲ例トス此ノ如キ召集例ハ  
各議員ニ對シテ之ヲ發セス一般ニ公布スル所ノ命令ヲ以テスルモ召  
集令ノ性質ヨリ論スレハ一般臣民ニ遵守スルニ規定ニ非スレテ  
各議員ニ遵守セサル可ラサル也命令ナリ此命令ヲ官報ニ載スルハ  
畢竟議員ニ告示スルノ代用ヲ為シテ兼テ一般人民ニ公示スルノ  
目的ヲ達スルニ過キス議院法カ召集ヲ名スルニ勅令ヲ以テスレテ  
勅諭ヲ以テスル者其一般ノ命令ノ性質ヲ有セサル為メナリ故ニ召  
集セラルヘキ議員カ存在セサルハ例ハ議會ノ解散后  
未ダ選舉權ヲ了セサル場合ノ如キ召集令ヲ發スル一ヲ得ス後テ



選擧ヲ了リシ后少ク其四十日ヲ経サレハ開会スルコトヲ得サルナリ也。  
 集セラレシ議會ノ開会スルニ當リテハ他國ニテハ別ニ儀式ヲ要ス  
 ルコトナク當然開会スレバ英國其他ノ諸國ニ於テハ開会ヲ  
 命スルハ元首ノ權ニシテ元首ハ兩院ヲ開会セシメテ或ハ議場  
 ニ自ラ臨シ又ハ委任ヲ受ケレ者ラシテ議場ニ出席マシメテ勅  
 語ニ依リテ開会ス議院ハ勅命ヲ以テ開会ノ日ヲ定メ兩院議  
 員ヲ貴族院ニ会合セシメ開院ヲ行フテ規定ス開院或ハ一  
 儀式ニ止マラスシテ元首カ議會ニ開会ヲ命スル方法ナルヲ以テ議  
 会ハ此式ニヨリテ始メテ開会シタルモノト云フヲ得後ヲ開期モ此日ヨ  
 リ起算セサル可ラス  
 停會  
 議會開会ノ効カラ停止スルヲ停會ト稱ス停會ハ或ハ

(一) 解散ノ豫備トシテ之ヲ行フアリ又議場ノ紛雜シテ公平  
 ノ議決ヲ得難シト認めル場合ニ於テ之ヲ行フアリ  
 或ハ

(二) 又議事ヲ継続スルノ順備敷正ハサル場合ニ之ヲ行フアリ  
 停會ハ開会ノ効カラ停止スルニ止マレハ停會ノ期限経過  
 スレハ別ニ召集ヲ要マス再々會議ヲ開クヲ例トス

會議ノ組織ハ少しモ変更セス議事ハ停會前ノ事議ヲ継続スル  
 モトス停會權ハ元首ノ屬スルヲ例トス下條英國ノ國王ハ此權ヲ  
 シ各院ハ各別ニ議決ヲヨリ延會スルコトアルノモ左モ實際ニ於テハ  
 國王ノ希望ニ依リ兩院カ同時ニ延會スルコトナク非サレバ議會ハ  
 必スシモ國王ノ希望ニ從ハサル可ラサル義致カナシ只議院カ十四日  
 以上休會セシ片ハ國王秘密院會日ヲ以テ時日ヲ定メ議會



ノ豫定マレ期日前之レヲ召集スルヲ得ル併ク其期日六  
 日前ニ於テセラル可ラス元首カ傳令權ヲ有スル國ニテモ此權ニハ  
 多少ノ制限アルヲ例トス仏國ニ於テハ傳令ハ一月ヲ超ユルヲ得  
 ス又全會期中ニ於テ二回以上之レヲ行ハントスルハ兩院ノ承諾ヲ得ル  
 一ヲ要ス我國ノ議負法ニ依リハ傳令ハ毎會于五日以上ニ亘ルヲ  
 得ス併全會期中ニ幾回之レヲ行フト雖法律上制限ナシ  
 傳令中モ又會期一部ト認メラレ後テ其會期ヲ算スルニ當リテハ  
 其期限内ニ算セラル可ラス又議負ハ傳令會中モ身体ノ自由ニ于  
 スル特權ヲ有スル一ハ独ビ此子者ノ概子認ムル所ナリ併反對  
 解散ニモ重要ナル論拠ナキニ非ス抑モ會期ナルモノハ法律上會議  
 ヲ閉クヲ得ル期間内ナラサル可ラス然ルニ傳令會中ハ法律上會議ヲ  
 閉クヲ得ス又會期中ニ許諾ナクシテ逮捕セラル一ナキト云フハ議院

ノ許諾ヲ得ルハ逮捕スル一ヲ得ルト云フ一ヲ要件トスルモノナリ傳令  
 中ハ議院ノ許諾ヲ得ルノ道ナシ後テ傳令會中ハ議院ノ許諾  
 ナクハ逮捕スル一ヲ得サル可ラス殊ニ我國ニテハ傳令會ノ度数  
 ニ制限ナシ故ニ傳令會中ヲ會期ニ算入スレハ三月ノ會期ヲ  
 定メタル實際<sup>効</sup>ノキヲ行フモノト云ハサル可ラス仏國ニテハ現ニ  
 傳令會中ハ會期ニ算入セシト云フ

傳令會ト名ヲ同シクシテ實ヲ異ニスルモノアリ即チ衆議院解散ノ  
 場合ニ於ケル貴族院ノ傳令會ナリ抑モ會期ハ兩院ニ通スルモノ  
 ナリ憲法ハ帝國議會ノ會期ヲ定ムルニ各院ノ會期ナルモノヲ認  
 むス故ニ議會ノ閉及傳令會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘキモノナリ一院  
 制度ノ原則ニシテ憲法上明カナル所ナリ衆議院解散セラレシ  
 キニ衆議院ハ閉會中ナリト云フヲ得サルハ三言ヲ俟タス會期ハ解散



ト共ニ当然尺ニキタルモノナリ然ハリトセハ貴族院独リ閉期中ナリト  
云フヲ得ス衆議院議負之改選セラレシ后更ニ閉会スル場合  
於テハ会期ヲ新タニスト云フハ疑ヲ容レシ果シテ然ラハ貴族院  
独リ会期ヲ継続スト云フヲ得ス故ニ此場合ハ貴族院ノ傳了会ハ  
傳會ト名ヲ同フシテ全ク実ヲ異ニシ却テ閉會ト結果ヲ全クス  
ルモノナリ故ニ解散ノ后更ニ閉会セシ場合ハ貴族院モ傳了会前議  
事ヲ継続スルナク全ク新タナル議事ヲ始メカレ可ラス

此原則ハ………於テ嘗テ實際ノ問題トナリシテアレバ我  
國ノ議院法ハ明カニ之ヲ規定ス其他解散后更ニ閉会スルニ當  
リテハ会期ハ新ニナリシ者ナルヲ以テ貴族院ニ於テモ解散前  
ノ議会ニ於テ否決セラレシ法律案ヲ提出スルヲ得又解散  
後ノ貴族院ノ傳了会ハ其議負ハ普通ノ傳了會場合ト異

ナリ身体ノ自由ニ于スル特權ヲ享有スルヲ得ス  
元首ヨリ行フ傳了會ニ似テ全ク其性質ヲ異ニスルモノアリ即チ議院  
ノ自ラ議決スル所ノ延會即チ休會ナリ会期內ニ於テ會議ノ時  
日ヲ定ムルハ各院ノ自由ナルヲ以テ會議ヲ閉ク日ト會議ヲ開ク日トノ  
間ニ幾日ノ期間ヲ存シ置クモ各院ノ自由ナリ各院ハ此權ニ依リ  
或ハ休暇ノ為メ或ハ議會ノ順備ノ為メ其議事ヲ傳了止スルヲアリ  
此休會ハ實際ノ結果ニ於テ傳了會ニ似ル所アレバ其國法上ノ性質  
ハ全ク異ナルモノナリ休會ハ議會カ實際議事ヲセカレ過キカレ  
傳了會ノ場合ハ議事ハ國法上継続スルヲ得サルナリ又傳了會ハ議  
會ニ屬スル一切ノ議事ヲ傳了止スルモノナレ休會ノ場合ハ委員  
會等其議事ヲ継続スルモ妨ケナレ傳了會ハ又兩院同時ニ  
之レヲ行フヲ要セサルハ言テ候シス英國ニ於テ傳了會ナルモノナク







云フアリ然ルニ国会期ナル者ハ国会ヲ閉会ニ至ル迄ノ期間ヲ云フモ  
 ノミレテ而テ又閉会トハ元首ノ命令スル所ノ者ニシテ議會ノ自ら閉  
 会スルハ憲法ニ云フ所ノ閉會ニ非カルヲ以テ会期ニ三月トスルト  
 云フ規定ハ即チ元首カ議會ヲ閉会セシメヨリ閉会スル迄ノ期間  
 ハ三月ナラサル可ラスト云フヲ定メシ者ト認メタル可ラス若シ此期  
 ニ違フレテ閉会ヲ行ハ國教カ大臣ハ憲法違反ノ罪ヲ任スル  
 一アルヘシ然レニ議會ハ閉会スル者ニ非ス只任期満チレバハ別段ノ  
 手續ニ依リ當然閉会スル者ニ非ス只任期満チレバハ別段ノ  
 法律ニテ任期ヲ延長セサル限リハ議員ノ資格減スルヲ以テ別  
 閉会ヲ要セサルハ云フ迄モナシ

解散

解散ハ一時議員ノ資格ヲ其任期ノ滿限前ニ消滅セシムル者ナリ

院會閉会及停会ハ兩院同時ニ之レヲ行フヲ原則トスルニ及レ解  
 散ハ數多ノ國ニ於テ上院議員中選挙ニ依リ就職セシ者  
 及ホス者ナキニ非サルニ多クハ下院ニ限り之ヲ行フ一ノハ兩院  
 或ハ各院ヲ解散スル一アリ和蘭丁林モ亦然リ西班牙ハ上院ノ  
 解散アルニ選挙ニヨリ議員ノ任期ニ限ル

英國普國我國ノ如キハ主トシテ世襲衣ニ又ハ勅任議員ヲ以テ組  
 織スルハ勿論公國ノ如キ選挙ニヨリ組織スル國ニテモ上院ニ及  
 サルナリ古人徃々解散ヲ以テ國民ニ訴フルモノト見倣スナリ  
 英仏諸國ノ如キ國會特ニ下院ノ多數ニ依リ内閣カ更迭ヲ来ス  
 慣例アル英國ニテハ此見解或ハ適當ナルカモ知レスト但ニ主權  
 君主主義ニ其全ク國體ニテハ議會負選挙ノ結果ヨリ内閣ヲ更  
 更スル義裁ナキハ言ヲ待タサル所ナリ必竟解散ハ前議會ニ比







尽キレヨリ總選ヲ行ヒレ場合ニハ未ク一回セリル前ニ之ヲ解散スル  
モ般テ法ノ抵触ナレ

### 第七節

#### 議院ノ職務權限

議會ノ權限ハ政治ニ參與スル權ト議會ノ内部ニ屬スル事項  
ニ干スル權トヲ區別スルヲ得

第一議會ノ政治ニ參與スル權

之レヲ實質上ヨリ論スレハ國家ノ政務ノ全部ニ直リテ及ガル所  
ナレ議會ハ武ハ法律ヲ定メ武ハ法律ヲ執行スル權ヲ有ス

此權限ハ議會ノ權限ノ最モ主モナルモノナリ且往々議會ヲ目スル  
ニ立法府ヲ以テスル之カ為メナリ然レハ議會ノ權限ハ独リ立法  
ニ參與スルニ止マラス行政ニ干シテモ又重要ノ權限ヲ有ス其最モ  
手ハ者ハ財政ノ部局ニテリ財政以外ニモ議會ハ上奏建議質問  
等ノ手段ヨリ廣ク國家ノ行政ニ勢力ヲ及ホス一ヲ得只其手



段ノ限ラレ居ルノ之故ニ議會ノ權限ハ政務ノ實所具ニ依リテ之ヲ限ルヲ得ス只其政務ニ欠ク其スル為メ有スル手段ヨリ之限ルヲ得是等ノ手段ヲ其等トハ左ノ如シ

- (一) 議定ハ立憲君主國又ハ君民合治國ニ於テ議會會首等ニ法律ヲ定ムルヲ得ルニ及シ民主國ニ於テハ法律ハ議會ノ議決ニ依リ確定ス(相成シ居モ)
- (二) 撰舉ハ諸國ノ議會ハ攝政ヲ撰舉シ或國ハ大統領ヲ選舉スルヲ得ルハ自由ニ下自己ノ働キニヨリ為点相似ル
- (三) 協賛ハ立憲君主國ノ議會ハ單ニ法律ニ協賛スル者ナリ若主合治國ニテハ議會ハ君主ト共ニ法律ヲ定ム協賛具ノ權ハ或ハ一院ノミニ屬スルニキミラズ例ハ我國ニ於テ貴族院ヲ改正スルニ當リ貴族院ノ議決ヲ經ル可ラスト云フ如キ具

一場合ナリ

(四) 承諾。承諾ハ緊急命令ニ對シテ事後承諾ヲ要シ豫算外又ハ豫算超過ノ支出ニ對シテ又之ヲ要スル如シ

協賛ト承諾トハ性質上差異ナレトハ學者者或ハ主張スル所現ニ利ルバックノ如キハマナシトシテ等シキト云フ

トハ適用シ協賛モ承諾モ等シク法律ヲ主トスルヲ証明ヤントス而テ此二者ハ單ニ事前ニ與ハルト事後ニ與ハルトノ區別ニ過キスト主張ス(ラバントカイデルハ二者相異ナルト云フ)

乍保全ノ見ル所ニシテハ此二者ハ單ニ事前事後ノ區別ニ非ズ性質上ノ差異ナリ

協賛ハ議會ノ積極ニ欲スルヲ表示スルモナリ

議會カノ法律ニ協賛スルハ議會ハ帝ニ消極ニ其法律ヲ發布



ニ異議ナキトテ表示スルモノナラズ又其必要ヲ認メテ其發布ヲ欲スルヲ表示スルモノナリ此場合ハ議會ハ立法ノ利益ヲ爲メ其意見ヲ表示スルモノニシテ立法ニ對シテ他ノ利益ヲ保障スル爲メ其意見ヲ表示スルニ非ス田各ヨリスレハ議會ハ立法機關ノ一部トシテ働クモノナリ故ニ投票員ハ必ス法律ノ發布又ハ其外協賛員ヲ要スル行為ニ先ツモノニシテ事後ノ投票員ナルモノハ自家權益ノ觀念ナリ又協賛權ニ停止ノ權ヲ包含スルモ協賛員ノ性質ヨリ生スル結果ナリ承諾ハ及之消極ニ議會ニ異議ナキヲ表示スルモノナリ例ハハ議院カ会期中議員ヲ逮捕スルノ許諾ヲ其ノ其事項カ各院自己ノ事件ニ于係スルヲ以テ憲法ハ許諾ト稱スレ其性質ニ於テハ承諾ナリ此場合ニ於テハ議院ハ自ら其議員逮捕ヲ臨ムニ非ス單ニ逮捕ニ異議ナキトテ表示スルニ過キス議院ハ司

法權ノ利益ヲ爲メ司法權ニ及スルニ非スレテ議員ノ獨立ヲ維持スルカ爲メ司法權ノ行使ヲ制限スルナリ換言スレハ議院ハ司法權ノ一部トシテ活動スルニ非ス承諾ノ性質ハ事後承諾ノ場合ニ於テ明ニ之シテ望ムトテ得此場合ニ於テハ議會ハ固ヨリ積極ノ希望ヲ表示スルノ途ナシ又此場合ニハ其承諾ヲ要スル國家行為ノ機子トシテ活動セシモノト云フヲ得ズ

- 以上述ヘタル承諾ノ性質ヨリ左ノ結果ヲ生ズ
- (イ) 承諾ノ議決ハ政府ノ要求ニ依ルモノニシテ議員ノ其後案ニ出ツルモノニ非ス
  - (ロ) 承諾ノ議決ハ承諾又ハ不承諾ノニ途ノ外ニ出ツルヲ得ズ修正ヲ加ヒテ承諾スルハ不承諾ト同シ
  - (ハ) 承諾ハ事前ノ者アリ事後ノ物アリ事前ノ承諾トハ議員



逮捕に對して許諾ヲ與ハルカ如キ場合ニ於テ事後承諾  
ト豫算支出ノ承諾又ハ緊急命令ノ承諾ノ如キラ云フ  
事前承諾ヲ要スル場合ニテ承諾ノ結果ハ承諾ヲ要  
スル行為ヲ行フ能ハサルハ言テ及之事後承諾ヲ  
要スル場合ニ於テ承諾ヲ得サリシハ其結果ノ場合ヲ區別  
シテ論ビル可ラス緊急命令ノ如キ將來ニ効カラ持統ス  
ヘキ者ニアリテハ承諾ヨリ生スル第一ノ結果ハ將來ニ向テ之  
レカ効カラ失ハシムル必要アリ然レモ是具唯一ノ結果ニ非ス  
豫算外ノ支出ノ如キ將來ニ効カラ持統ビカルモノハ固ヨリ  
將來ニ向テ之レカ効カラ失ハシムル途ナレ又元ヨリ既往ニ溯  
リ既ニ爲シタル支出ヲ取消スルヲ得如此場合ニ於テ議院  
ノ承諾ノ結果ハ單ニ議會カ其承諾ヲ與ヘレ行為ニ對シテ

異議ヲ有セスト云フヲ確定スルニアリ故ニ且承諾ヲ與ヘタル事件  
ニ對シテハ議會ハ其憲法上有スル處ノ質向上奏又ハ大臣彈劾ノ  
制度アル國ニ於テハ彈劾ノ手段ヲ用ヘテ異議ヲ稱スルヲ得ズ  
及之承諾ノ場合ニ於テハ議會ハ何時ニテモ憲法上ノ手段  
ヲ利用シ異議ヲ稱スルヲ得政府ハ常に自己ノ行為ヲ  
辨度セリル可ラカハノ不利益ノ地位ニ立ツモノト云ハカル可ラス  
故ニ諸國ノ憲法ニハ斯ル場合ニ内閣ノ責任ヲ以テスルト云  
フ規定ヲ設クルモノアリ

(二) 上下兩院ハ元首ニ對シテ上奏ノ權ヲ有ス。國ニ依リテハ兩院  
共同シテ上奏ヲ為ス。モアリ英國ハ其例ナリ上奏ハ或單  
ニ儀式ニ過キタルモノアリ祝詞吊詞ヲ述ハルカ如キ場合具  
例ナリ閣會議ノ勅語ニ對スル奉答ニ概子一ノ儀式ニ過キス



上奏ハ立法若クハ行政上改良ヲ要スルト認ムル点ニ付テ議院ノ希望ヲ述フルモノアリ或ハ又行政官ノ殊ニ國務大臣ノ違法ナリトカ又ハ其他不法行為ヲ批難スルモノアリ元首ハ必スレモ議會ノ希望ヲ容ルル一ヲ要セザルハ勿論必スレモ上奏ニ對シテ勅答ヲ與フル一ヲ要セス然レモ凡憲法カ己ニ上奏權ヲ認ムル以上ハ支クク之ヲ受領スルノ義務カアリト認ムル可ラス故ニ上奏ノ權ヲ以テ書翰ヲ他人ニ與フルノ自由ニ許言フルハ不推衝ノ例アリト云ハカレ可ラスヲバントハ上奏ヲ書翰ニ比セリ

(四) 建議。帝國憲法ハ上奏ノ權ノ外ニ尙政府ニ建議スル權ヲ認ム建議ハ或ル立法ニ于スル一アリ其立法ニ于テハ建議スルハ議會ノ自ラ其發案權ヲ行ハスレテ政府ヲシテ法律案

ヲ發セシムル目的ヲ有スルモノナリ(議會ハ法律ノ細目ニ涉リテ詳細セザル一アリ此時ハ該員ハ發案ニ困難ナリ故ニ政府ヲシテ發案セシムル一アリ)何レノ場合ニ於テモ建議ハ將來ニ向テ希望ヲ述フル者ニシテ既往ノ過失ヲ指摘批難スルハ固ヨリ建議ト稱スルヲ得ス此点ニ於テモ建議ハ上奏ト異ナルナリ加之上奏ハ直接ニ元首ニ呈出スルモノナレバ建議ハ責任アル國務大臣ヲシテ議院ノ希望ヲ元首ニ通スルモノナリ如此建議ハ將來ニ向テ希望ヲ述フルモノナルヲ以テ此点ニ於テハ協賛ニ奏スル者ナリト云ハカレ可ラス然レモ其目的ハ政府ニ對シテ議院ノ希望ヲ通スルニ非ザルヲ以テ一旦政府ニ希望ヲ通スルト同時ニ建議ハ其目的ヲ達シテ自ラ消滅



二級ノ議員ノ議決ヲ經テ裁可ヲ得サル法律案  
 ハ裁可ヲ得ル迄ハ依然存在シテ本来ノ性質上  
 全會期中ニ再ヒ提出スルヲ得ルニ及シテ本来  
 ノ性質ヲ論スレハ同會期中ニ何回建議スルモ  
 妨ナキ筈ナレバ憲法ハ明文ヲ以テ建議ノ採納ヲ  
 得ルモノハ同會期中ニ再ヒ之ヲ提出スルヲ  
 得ルモノナラザルニシテ

而テ其採納ヲ得シモノハ固ヨリ再ヒ建議スルヲ得  
 ルヲ以テ結局建議ハ同會期中ニ再ヒ之ヲ為スルヲ  
 得サルナリ議院中建議ヲ為スノ權ニ對シテ政府之  
 以テ受クルノ義務アルハ上奏ニ付テ速ヘタルカ如シ

(七) 報告ヲ受クルノ權、 議員ハ國務大臣ニ對シテ所具

向テ起ス權ヲ有スルハ諸國々法ノ認ムル所ナリ上奏又  
 ハ建議ハ議員ノ意見ヲ通告スルモノナレバ之ニ對シ  
 テ單ニ其通告ヲ受クルノ義務アルニ及シテ所具向  
 ノ權ハ單ニ意見ヲ通告スルノミナラス答辯ヲ受ク  
 ルノ權アルヲ以テ之ニ對シテ國務大臣ハ答辯ヲ為スノ  
 義務ヲ有ス然レバ答弁ノ实体如何ハ固ヨリ法ノ豫  
 定ムルヲ得ヘキ所ニ非サルヲ以テ國務大臣ハ必スモ議  
 員ノ知ラント欲スル事實ヲ通告スルヲ要セス單ニ其  
 事實ヲ通告スルヲ得サルヲ答弁スルモ差支ナレ  
 敷多ク憲法ハ議院ニ國務大臣ノ出席ヲ求スルノ  
 權ヲ與フ(白八八条項)ニ条其例ナリ和ノ憲法ニモ之レ  
 ヲ定ム(事項)依リテハ政府ハ議院ノ要求ヲ待タス



して当然報告ヲ為スノ義務ヲ有スル一アリ決算  
 報告等其例ナリ英仏其他諸國ノ憲法ハ往々特  
 ニ審査ヲ要スル事項ノ為メニ審査員ヲ設  
 ケテ証人ノ陳述ヲ聞キ又ハ直接ニ下級官庁ノ照會  
 ノ往復スルノ權ヲ議院ニ與フ自、和、奧、ノ憲法モ又  
 各議院ノ審査員ヲ設クル一ヲ得ルヲ規定ス此  
 規定ハ証人ノ陳述ヲ聞キ又ハ直接ニ下級官庁ト照會  
 往復スルノ權ヲ包含スルヤ否ヤハ政府ト議院トノ間  
 ニ意見ヲ異ニスル所ニシテ又此子者ノ説ノ公ル、所ナリ  
 我國ノ議院法ハ各院カ人民ニ向テ告示ヲ發シ又ハ審査  
 員ヲ人民ヲ召喚シ又ハ議員ヲ派出スル一ヲ許サス國  
 務大臣及政府委員ヲ除ク外他ノ官庁及地方議會

二向テ照會往復スル一ヲ禁セリ之レト同時、政府ニ對シ  
 テ秘密ニ且ハテ除ク外ハ各議院ノ要求ニヨリテ報告  
 又ハ文書ヲ交付スルノ義務ヲ負ハシムルモノナリ  
 的請願。(人民)ヲ受理シテ其採擇スヘキモノハ之レヲ政府

二廻附スルノ權ハ諸國ノ憲法ノ認ムル所ナリ請願トハ自己  
 ノ利益又ハ一般公益ノ為メニ于スル事項ニ付テ將來ニ向  
 テ國家ノ機子ノ行為又ハ不行為ヲ求ムルモノナリ故ニ既  
 往ノ事項ヲ擧ケテ之ヲ批難スルニ止マルモノハ勿論及令  
 事項カ將來ニ于スルモ單ニ其得失ニ于スル自己ノ  
 意見ヲ述ツルニ止マルモノハ請願ニ非ス之レ請願ト  
 建白ト異ナル所ナリ請願ノ目的ハ將來ヲ希望ス  
 アリ此希望ハ行政官庁ノ往復、処分ニヨリテ自己ノ



利益及権利ヲ侵害セラレタルカ為メ其救済ヲ求ムルニアリ又ハ利益若クハ権利ノ侵害ノ有無ニ拘ハラス一般ノ故実ヲ除キ又ハ利益ヲ起スニアリ又ハ利益又ハ権利ノ侵害ニ対シテ救済ヲ求ムルモノ内ニモ監督権ニヨリテ其処分ノ取消又ハ変更ヲ求ムルモノ又ハ其利益又ハ権利ノ侵害ヲ救済スルカ為メ監督権ニ基クテ処分ヲ求ムルモノハ之ヲ名付テ訴願ト云フ其他ノ場合ニテ之ヲ狭義ノ訴願ト云フ議院ハ固ヨリ行政官ノ対シテ監督権ヲ有スルモノニ非カレハ議院ノ受理スル所ノ訴願ハ狭義ノ訴願ニ限ルモノト解セサル可ラス

訴願ノ目的ハ國家ノ機子ノ將來ノ行為ニテ直接又ハ間接ニ訴願ノ目的タル行為ニ對シテ其スルヲ得ル權限ヲ有スル機子ノ外ハ之ヲ受理スルヲ得ス議院法カ司法及行政裁判ニ于テ其スルノ訴願ヲ受クルヲ禁スルハ此理ニ基キタルモノナリ

(九) 起訴

國務大臣彈劾ノ制度アル國ニ於テハ下院若クハ上下各院ノ兩院ニ起訴ノ權アルハ固ヨリ之ヲ逃ヘタリ我國ニ於テモ又其類似ナキニ非ズ明治廿二年法律第廿八号議會及議員保護律ニ依リハ議會ニ對シテ公然誹毀侮辱シタル者ハ議會ニ起訴ヲ待テ其罪ヲ論スルトナレリ

(十) 裁判

英國ノ上院ハ高等裁判所、下院ニ對スル上告ヲ裁判スヘキ最高裁判所ニシテ又第一審裁判所トシテ



下院ノ彈劾ニ依リテ國家ニ對スル大ナル犯罪ヲ裁判シ其  
族ノ犯罪又ハ重罪ニ就テ裁判シテ國王ノ命令ニ依リテ  
貴族ノ罪ニ對スル手論ヲ裁判ス

他國ノ上院ハ下院ノ彈劾ニ其全キ裁判ヲ下スノミナラス國家  
ノ安全ニ對スル犯罪ニ有テハ閣議ヲ經テ其殺マラシムル大統領  
領ノ命令ニヨリテ上院ハ政治裁判所トシテ裁判スルコトヲ得  
其他諸國ノ上院カ往々政治裁判所トシテ裁判スルコトヲ得  
テ之ヲ述ヘタリ(他國ノ貴族院ハ貴族ノ爵位ニ對スルコトハ  
裁判スルコトナリ居レリ)

### 第二議院ノ内部事項ニ于スル權限。

(1) 各院ハ議事ノ規則其他内部ノ整理ニ于スル規則ヲ定  
メ及ヒ之ヲ実行スルノ權ヲ有ス英國ニ於テハ更ニ一歩ヲ

進メテ法律ノ解釈ニテモ專ラ議院ノ事項ニ于スルモノ  
ハ議院ノ解釈ヲ以テ確定ノ解釈トシ裁判所ト  
シテ之ヲ動カスコトヲ得ス我國ノ憲法モ亦此權ヲ  
認ム

内部ノ整理ニ必要ナル規則ハ或時子者ノ主張スルカ如  
ク(ホルンバウク)獨リ議員ヲ支配スルコト止マラス傍聽人ノ如  
キモ又其支配ヲ受ケサルコトハ難シ。レズ只國務  
大臣及政府委員ハ何時ニテモ出席シ及ヒ發言スルコトヲ得  
ルモノナルヲ以テ内部ノ規則ニ依リテ之ヲ妨グルコトヲ得カレ其  
他ノ點ニ於テハ國務大臣モ院内ニ於テ其院ノ規則ニ從ハ  
ルコトヲ得

(2) 院内ノ敬言察及ヒ警戒。 院内ノ敬言察ハ各院全体ニテ



直接ニ之シテ行ヒ或ハ院長ニヨリテ之ヲ行フモノナリ院内ノ警察權ハ院内ニ於テハ何人ニ對シテモ及ブモノナリ故ニ國務大臣ト庶民ト出席及發言ノ權ヲ妨ケラレサル限リハ議院ノ發言察權ニ役ハカル可ラス及之懲戒懲罰ハ一身上議院ニ隸屬スルノ干係ヲ以テ其要件トスルモノニシテ議員ニ對スル外ハ之ヲ行フコトヲ得ス

(3) 議院内部ノ組織殊ニ議員兼任事。議長副議長其他ノ職員ヲ選出スルハ諸國徃々國法ニ於テ各議員ニ附屬スル權ナリ英國ニ於テハ上院ハ大法官ヲ議長トシ下院ハ議長ヲ選出シテ國王ノ認可ヲ得而兩院共ニ副議長ヲ置カス大法官カ 負スルカ其他故障アルハ國法ハ代理者ヲ任命スルコトヲ得若シ代理者ナキハ

上院自ラ議長ヲ選出スルコトヲ得下院ノ議長又負アルカハ歳入委員長ナルモノヲ議長トス

(4) 資格審査權。議員ノ資格ヲ審査スルノ權ハ諸國ノ國法カ專ラ議員ニ屬スル事項ト認ムル所ナリ我國ニ於テモ貴族院ハ專ラ議員ノ資格ヲ審査シ及ビ選舉ノコトヲ判決スルノ權ヲ有ス之レニ及シテ衆議院ハ資格審査ノ權ヲ有スレド選舉ノ訴訟ヲ判決スル權ナシ同一ノ事件ニ付テ選舉訴訟ノ起リタル時ハ資格審査ヲ行フコトヲ得ス



第四編

國家ノ機能

第一章

立法

第一節

法律ノ觀念

三権分立論ノ誤リナルハ前日テ之ヲ述ヘタリ立法行政司法ハ独立ミミラ対等ナル権力ニアラスレテ同一ノ権力ニ屬スル三種ノ機能ニ過キス是等ノ三種ノ機能一タル立法ナルモノハ法律ヲ定ムルノ機能ナリ

法律ナル語ハ之レヲ實質上ノ意味ニ解スルコトアリ又ハ之ヲ形式上ノ意味ニ解スルコトアリ實質上ノ意味ニ於テハ法律ハ



即ち法規ヲ定ムル國家ノ命令ナリ法規トハ數多ク事件ニ  
 通スルモノナルト特定ノ事件ニ限リテ適用スルモノナルトハ公私  
 ノ人格ノ間ニ意思ノ範圍ノ限界ヲ定ムル條規ヲ云フ形式上ノ意  
 味ニ於ケル法律ハ議會ノ協賛ヲ經タル國家ノ意思ノ表示ナリ  
 實質上ノ意義義ト形式上ノ意義トハ必スシモ一致スルモノ非ス例ヘ  
 ハ敬言察命令ノ如キハ實質上ニ於テハ法律ナレド形式上ヨリ論スルハ  
 命令ナリ及之諸國ノ憲法ハ徃々領土ヲ變更スルハ法律ヲ以テ  
 争フテ規定ル國債ヲ起シハ法律ヲ以テ規定セラル可カラテ規  
 定スルモノナリ

此等ノ法律ハ議會ノ議決ヲ要スル者ナルヲ以テ法律ノ形ヲ有スレ  
 ド其實質ヨリ論スルハ法規ヲ定ムル者ニ非カレハ法律ニ非カルトハ  
 多數ノ學者者ノ一致スル所ナリ法律ハ元素實質上ノ意義義ヲ有スル

語ナレ三權分立論ニ致念ヲ支配スルニ至リテヨリ法規ヲ定ムル國家  
 ノ命令ハ議會ノ協賛ヲ經ル可クスト云フ思想ハ轉シテ議會ノ協賛  
 ヲ經タル者ハ即チ法律ナリト云フ思想ヲ生シタリ是レ於テ法律ナル  
 語ニ實質ノ意義ト形式上ノ意義トヲ生スルニ至レリ此二種  
 ノ區別ハ多數ノ學者者ニ除ク外ハ独乙ク於テハ概テ國法學者者  
 ノ認ムル所ナリ

然レド余ノ見ル所ヲ以テハ諸國ノ憲法ニ於テ法律ト稱スルハ上述  
 ノ意義ノ外ニ徃々第三ノ意味ヲ有スルカ如シ殊ニ帝國憲法ハ  
 實質上ノ意味ニ於ケル法律ト形式上ノ意義ニ於ケル法律トノ  
 區別ヲ認メス又ニ意義ノ何レヲモ用ヒカルカ如シ憲法ニ所謂法  
 律トハ實質上ニ於ケル法律ニ非スト云フテハ次ニ掲タル論點ヨ  
 リ推論スルテ得ヘシ



(1) 憲法第三十七條ハ凡テ法律ハ議會ノ協賛ヲ經カレ可ラカ  
ル一ヲ規定ス諸國ノ憲法モ又類似ノ規定ヲ設ケサルモ  
ナレモ若シ此條ノ法律ヲ以テ實質上ノ意味ニ於ケル法律  
ナリトセハ苟モ法規ヲ定ムル國家ノ命令ハ凡テ議會  
ノ協賛ヲ經カレ可ラス假令法律ノ委任ニ依ルモ議會  
ノ協賛ヲ經スルヲ法規ヲ定ムルハ憲法違反ト云ハ  
サル可ラス

(2) 憲法第九條ハ安寧秩序ヲ維持シ及臣民ノ幸福ヲ  
増進スルカ爲メ必要ナル命令ヲ發スル權ヲ認ム此條ニ  
依リテ發スル所ノ命令ハ法規ヲ定ムルモノ其多ク在ル  
ルハ終ニ容シス故ニ若シ第三十七條ノ法律ヲ實質上  
ノ意義ニ解スルハ憲法ハ一方ニ於テハ議會ノ協賛ヲ經ズ

ルモノナリ  
ニテ法規ヲ定ムル一ヲ得スト規定スルニ拘ハス他ニ於テハ  
命令ヲ以テ法規ノ一部タルヲ定ムル一ヲ得ル一ヲ規定ス  
ルモノナリ即チ憲法ハ前後矛盾ノ規定ヲ設ケ  
ルモノナリ

(3) 憲法第十八條ハ日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ  
依ル一ヲ規定ス抑モ臣民タルノ要件ヲ定ムルモノハ法規ナ  
ルハ疑ヲ容シス故ニ若シ此條ノ法律ヲ實質上ノ意味  
ニ解スルハ法律ヲ定ムルハ法規ヲ定ムル國家ノ命令ヲ  
以テマサル可ラスト云フ一ヲ規定スルモノミレテ無用ノ規定ト  
云ハサル可ラス若シ及之臣民タルノ要件ヲ定ムルハ法規ニ  
非ストセハ之レ即チ法規ヲ定ムル國家ノ命令ヲ以テ  
法規ニ非サル者ヲ定ムル一ヲ規定スル者ミレテ自家權



着ノ規定ナリト云ハ可ラス加之第十一条以下ノ諸  
 条ノ法律ヲ以テ實質上ノ意義ニ於ケル法律ナリ  
 トセハ一片ノ省令府縣令ヲ以テ是等ノ事項ヲ規定ス  
 ルヲ得者令府縣令ニテモ實質上ノ意義ニ於テハ  
 法律タルヲ妨ケサルナリ故ニ憲法ハ假令實質上  
 ノ意味ニ於テ法律ナル語ヲ用ユルアリトスルモ數多ノ  
 条項ニ於テハ之レヲ形式上ノ意義ニ解セサル可ラス然レ  
 氏形式上ノ意義ニ於ケル法律ト云フハ議會ノ協賛  
 ナシタル國家ノ命令ナリト云フ意味ナルヲ以テ憲法制定  
 前ニ存在スヘキ理由ナレ而テ憲法中ニテ法律ノ形式的  
 概念ヲ生スヘキ規定ハ第三十七条ノ外ニナレ然ルニ  
 第三十七条ノ法律ヲ實質的ノ意義ニ解釈スルハ此条

ハ法規ヲ定ムルハ議會ノ協賛ヲ經サル可ラスト云フニ過キ  
 ス此規定ヲ轉倒シテ議會ノ協賛ヲ經タルモノハ凡テ法律  
 ナリトスレハ明ニ理論上ノ誤ナリ此理論上ノ誤リヲ避ケ  
 ニトスレハ憲法第三十七条ノ法律モ之ヲ實質上ノ意  
 義ニ解スルヲ得ス此等ノ理由ヲ以テ之クハ憲  
 法ハ實質上ノ意義ニ於ケル法律ナルモノヲ認メサル  
 者ト断定セサル可ラス

右ニ及レテ憲法ノ所謂法律ハ單ニ形式上ノ意義ニ解スルヲ得  
 カル下ニ掲ケル種々論點ヨリ推論スルヲ得

(1) 憲法第三十七条ノ法律ヲ形式上ノ意義ニ解スレハ議會ノ  
 協賛ヲ經テ發スル國家ノ命令ハ議會ノ協賛ヲ經  
 カル可ラスト云フト同シク全ク無用ノ規定ニ過キズ



故マ女ノ氏第三十七条ノ法律ハ之ヲ形式上ノ意義ニ  
解スルヲ得ス

(2) 諸國ノ憲法ハ徃々豫算ハ法律ヲ以テ定ムヘキヲ規  
定シ國債ヲ起スハ法律ヲ以テスヘキヲ規定ス帝國憲  
法ハ及之テ豫算ハ法律ヲ以テ定ムヘシト云ハスレテ帝國議  
會ノ協賛ヲ經ヘシト云ヘリ國債ヲ起スハ法律ヲ以テスベ  
シト云ハスレテ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシト云ヘリ歐洲諸  
國ノ憲法中ニテ是等ノ規定ニ于テ如何ナル難問ヲ生  
スヘキ一アルヤヲ考フレハ憲法ハ此等ノ事項ニ于テ其  
議會ノ協賛ヲ要スルニ拘ハラズ法律ナル名稱ヲ附スルヲ  
避ケレハ決シテ偶然ニ非サルヲ知ルニ足ルヘシ此点ヨリ見  
ルモ憲法ハ議會ノ協賛ヲ經タル者ハ凡テ法律ナリト認メサ

ルナリ之レハ我國ニ限リテノ論ナリ(2)ハ凡テノ國ニ通スルノ  
論ナリ)

此等ノ種々ノ点ヨリ見レハ憲法ハ法律ニ屬スルニ種々感念ノ何  
レヲモ株ラサルナリ然レ氏法律ト命令トノ區別ハ單ニ之ヲ名稱  
ノ差異ニ依スルヲ得ス憲法ノ名稱ヲ異ニセシハ必要其實際  
上ノ區別ヲ認メサレハナリ此區別ハ果シテ那邊ニ存スルヤ憲法ノ  
用ルル所ノ第三ノ意義ハ如何ナルモノナルヤ之尙進ンテ研究セサル  
可サル所ナリ余ノ見ル所ヲ以テスレハ此感念ハ概テ諸國ノ憲心  
法ニ通シテ用スルヲ得ルモノナレバ特ニ我國ノ憲法ニ付テ論スル  
ニ當リテハ憲法制度ノ前所リテ法律ノ沿革ヲ研究スレハ  
容易ニ其感念ヲ定ムルヲ得ベシト信ス  
法律ナル語ハ從來幾多ノ法命ニ表ハレサレニ非サレ氏命令相對



して國家ノ意思表示ノ一種ヲ表スヘキ詔ナルハ明治十九年勅令  
 第一号公文式ヲ以テ始メトス公文式ハ國家ノ命令ヲ法律ト命令  
 トニ種ニ區別ス然レ氏公文式ハ法律ノ形式ニヨリテ之ヲ命令ト區別  
 セレニ非ス法律ハ議會ノ協賛ヲ經タル命令ナリト云フテ得ガレ  
 ハ勿論法律上之ク氏一般行政ニ于スル勅令トハ成立ノ手續其他  
 形式ニ於テ之ヲ區別スル所ナレ公文式ハ法律ノ實質即チ其ハ  
 規定スル事項ノ性質ニヨリテ二者ノ區別ヲ為ス者ニモ非ス現ニ  
 公文式發布後憲法制定ニ至迄ノ間ニ法規ヲ定ムル命令ニシテ  
 法律トシテ發布セシモノハ指テ處シテ數フルテ得ル位ナリ其他ハ  
 總テ命令ノ形式ヲ以テ發布セリ憲法第七十二条モ此等ノ實質ヲ  
 認ムルテ得ルト云フテ得此条ハ憲法制定前ノ法入ル命令  
 令又ハ其他ノ名稱ヲ以テ法律ヲ要スヘキ事項ヲ規定セシ者ナリ

トモ凡テ適由ノ効カヲ有ストノヲ規定ス之レ即チ憲法制定前ニ於  
 テハ公文式ヲ發布后ニ至リテモ實質ニヨリテ法律命令ノ區別ナレ  
 シリレテナキト云フ事 實ヲ認メタルノ結果ナリト云フテ得公文  
 式ハ既ニ實質ニヨルモ又形式上ニヨルモ法律命令ヲ區別セストス  
 レハ二者ノ區別ハ効力ノ強弱ノ外ニ之ヲ求ムルテ得ス之レ二者ノ區別  
 ノ存スル所ナリ實例モ又法律ト命令トノ間ニ輕重ノ差因テ認  
 ム法律ヲ發セシ片ハ其細目ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メタルノ例  
 少カラズ

憲法ト公文式トノ間ニハ直接ノ手係ナレト雖モ憲法制定前ニ已  
 ニ法令ノ式ヲ定ムル命令ニ於テ法律命令ノ區別ヲ定ムル以上ハ  
 憲法カ直ニ之レヲ統括用シタルモノト認ムルハ固ヨリ當然ノ理ナリ若  
 シ公文式ノ所謂法律ト憲法ノ謂フ處ノ法律ト全ク意味ヲ



異なるモノトモハ公文式ハ之ヲ憲法施行后ノ法律ニ適用スルヲ得ル者ト云ハカレ可ラス然レハ公文式ハ尙今今日モ効力ヲ存スルハ疑テ容レカレ事実ナリ依之見之憲法カ法律ト命令ト区別スルハ公文式ト同ク効力ノ強弱ニ依ルナリ

法律カ最モ強キ効力ヲ有スルニハニ要素ヲ具ヘサル可ラス法律ヲ以テスルニ非カレハ之ヲ廢止變更スルヲ得サル(其ナリ)前ニ發布シタル法律ニシテ其規定ト矛盾スルモノハ之ヲ廢止變更スルノ力ヲ有スル(其ナリ)尤モ法律中ニ其廢止變更ヲ命令トテ委任スルモアリ然レハ此場合ニ於テ命令カ法律ヲ變更廢止スルノ効力ヲ有スルハ法律自身ノ精神タル者ニシテ命令自曲身ノ効力ニ依ルニ非カレハ法律ハ未タ最強ノ効力ヲ有スルヲ失ハス命令モ又之レカ為メ最強ノ力ヲ得ルナリ

及之緊急命令ハ自己ノ効力ニヨリテ法律ヲ廢止變更スルヲ得レ其廢止ハ必スシモ法律ヲ以テスルヲ要セサルヲ以テ又最強ノ効力ヲ有スル者ト云フヲ得ス

法律ハ法律ヲ以テ變更廢止スルヲ得ルハ前述セル如シ然レハ法律中ニ於テモ通常ノ法律ト憲法トノ區別ヲ顧ルル可カニス通常ノ法律ハ通常ノ法律ヲ廢止變更スルヲ得レハ憲法ヲ廢止變更スルヲ得ス憲法ヲ廢止變更スルノ法律ハ特ニ慎重ナル手續ニ依リテ定メサル可シ然レハ憲法ヲ變更スルノ法律モ憲法其自身モ共ニ法律ノ一種ナルハ前テ述ヘタル如シ畢竟法律中ニモ亦其効力ノ強弱アリ命令中ニモ勅令省令等ノ區別アリテ互ニ効力ノ強弱ヲ異ニス然レハ法律ノ全体ヲ命令ノ全体ト比較シテ論スルハ法律ハ法律ヲ變更廢止スルヲ得法



律ニ非カレハ廢止亦及更スルヲ得不要之法律ハ最強ノ効カヲ有  
 スル國家ノ命令ナリ最強ノ効カヲ有スルモノナルヲ以テ臣民ノ自  
 由ニ重大ナルノ係ヲ有スル事項ハ法律ヲ以テ規定スルナリ憲法  
 ノ觀念ハ此觀念ニヨリテ説明スルヲ得サル者ナレ  
 以上論述シタルカ如ク余ハ効カヲ以テ法律ノ觀念ヲ定ムトスル  
 者ナリ然レモ法律ノ効カハ其實際ノ効果ト區別シテ考ヘサル  
 可ラス本来ノ効カヨリ論スレハ後ノ法律ハ前ノ法律ヲ廢止亦及  
 更スルノカアルハ疑ヲ容レサル所ナレモ其實際果シテ他ノ法律ヲ  
 變更スルノ効果ヲ生スルヤ否マハ其規定ノ實體如何ニ拘ルナラ柳  
 モ後ノ法律カ前ノ法律ヲ廢止變更スルノ實効ヲ生スルハ前後ノ法  
 律ノ相矛盾スル場合ニシテ立法者カ前ノ法律ヲ廢止變更スルノ  
 意思ヲ有セシトテ推測スルヲ得ル場合ナリ故ニ例令ハ歐洲諸

國ノ如ク豫算ヲ以テ一種ノ法律ト見做モ豫算法律ノ中ニ明ニ  
 租稅等(租稅ニテスル法律)ヲ變更スルノ規定ヲ設クルハ格別ナレ  
 氏共々豫算ノ金額ト租稅法ノ定ムル稅率ト其基キテ算出  
 セレ金額ト符合セザル場合ニ於テ豫算ハ法律ナリト一点  
 ヲ以テ豫算ハ稅法ヲ變更シタルモノト論断スルヲ得ス  
 若シ豫算ノ目的カ果シテ財政ノ計畫ニ過キストスレハ金  
 額ハ單ニ見積リノ金額ニシテ立法者ハ之ニヨリテ稅法ヲ變  
 更スルノ意思ヲ有セリト認ムルヲ得ズ既ニ豫算ノ款  
 項ハ稅法等ヲ變更スルノ効カナシトスレバ稅法等ノ範  
 圍内ニ於テ定ムヘキトハ當然ノ事ナリ要スルモノノ法律カ果シテ  
 他ノ法律ヲ廢止變更スルノ實効ヲ有スルヤ否ヤハ法律ノ實  
 質ニヨリ定ムル者ニシテ法律ノ觀念ニ依リテ之ヲ論断スル



ヲ得ス

第二章

法律ノ共發案

其後案トハ憲法上法律ヲ制定シ又ハ法律ノ制定ニ參與スルノ

權ヲ有スル機關ニ對シテ法律案ヲ提出スルヲ云フ法律ノ首手  
案ハ屬僚ノ手ニ成ルニアリ又ハ學者者ノ手ニ成ルニアリ然レテ之ヲ  
國法上所謂發案ナル者ニ非ス法律案ヲ議會ニ提出スルニ當  
テ法律ハ始テ發案セラレト云フ一ヲ得發案權ハ即テ歐  
州諸國中ニテ或ハ專ラ君主ニ屬スルモノアリ他國亦英國等  
等ノ諸國ニ於テハ政府及各議院カ皆其後案ノ權ヲ有ス  
然レ發案權ハ二三ノ制限アリ之ヲ舉示スレバ

(1) 財產法案ハ英國ニ於テハ財產法案ハ先ツ下院ニ於テ  
議定スル一カ憲法上ノ慣習ナリ又下院ニ於テモ慣習上政府  
ニ要求ニ依ラレハ豫算法案ヲ議決スル一ナレモ等々ノ  
憲法ハ財產法案ハ先ツ下院ニ提出シテ其議決ヲ經ヘキ  
一ヲ規定ス帝國憲法第六十五條ハ豫算ハ前ニ衆議院提



出スヘキトヲ定ム然レモ憲法ハ豫算ヲ以テ法律ト見做サレラ  
以テ此規定ハ法律ニ發案權ニ于係ナシ

(2) 同一ノ法案ヲ同時ニ兩院ニ提出スルコトヲ得ルヤ否ヤニ就テハ  
独乙ニ於テハ國法學者者ノ説ノ分ル所ナリ我國ニ於テハ憲  
法ノ規定ニ付テ論スレハ之レヲ禁スルノ主意ヲ認ムルコトヲ得  
スト然レモ議院法第五十三條ハ政府ノ議案ホコ付スルハ兩院何  
レヲ先キニスルモ便宜ニ依ルコトヲ規定セラルテ以テ兩院何  
レヲ先キニスルコト同時ニ提出スルコトヲ得ル者トス

(3) 憲法ニ變更ノ法律ニ于スル發案權ハ往々制限スルコト  
爾ヲ之レヲ述ヘタリ

(4) 一院ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ再ニ提出スル  
コトヲ得ルハ諸國ニ通スルノ原則ナリ然レモ我國ニ於テハ政府ノ

發案權ニ于レテハ此點ニ付テ制限ナシ及之各院ハ三ヶ月ヲ  
経サレハ一院ノ可決ニテ一院ノ否決シタル法律案ヲ再ニ  
提出スルコトヲ得ス一院カ之ヲ可決シテ一院カ之レニ修正ヲ加  
テ兩院ノ協議調ハスレテ消滅セシ法律案ハ三ヶ月ヲ経サ  
レハ再ニ提出スルコトヲ得ズ

議員ノ發議セシ法律案ニ就テ議事ニ非スレテ消滅シ  
タルモノハ三ヶ月ヲ経過セサレハ再ニ之レヲ提出スルコトヲ得ス憲  
法第三十二條ハ序論ニ憲法ト然ラント其規定ヲ同クシ兩院  
ニ於テ否決セシ法律案ハ同會期中ニ再ニ提出スルコトヲ得  
定ス只序論ノ憲法ハ裁可ヲ得ル法律案ニ就テモ其規  
定ヲ及ホセシニ及レテ帝國憲法ハ裁可ヲ得ル法律案ニ就  
テハ之レモ規定マサルノニ及ルニ憲法ハ何カ故ニ裁可ヲ得ル



法律案ノ再提出ニ付テ規定セザルカハ一ノ 究スハキ点ナリ

憲法ニ裁解ハ之ヲ説明シテ白ク君主ノ裁可ヲ得サル法律ヲ  
同会期中ニ議決ヲ提出スルコトヲ得サルハ大権ニ對スル事  
理ノ當然ニシテ更ニ明言スルヲ俟タスト云ヘリ然レバ何カ故ニ裁  
可ヲ得サル法律案ヲ次ノ会期ニ提出スルハ大権ニ對スル  
當然ノ事理ニ及テテ獨リ同会期中ニ之ヲ提出スルハ大権  
ニ對スル當然ノ事理ニ及スルヤ願ル其理由ヲ解スルニ若シ  
ム余ノ解スル所ヲ以テスレバ憲法ハ此点ニ付テ規定ヲ存セザル  
ハ法律案ノ性質及裁可ノ性質上別段ノ規定ヲ設ケザル  
ハナリ我國ノ國法ニ於テハ元首ハ法律ヲ裁可スルコトヲ議  
會ニ通知スルノ責ヲ負ヒ後令之レヲ通知スルトスルニ國法上何

等ノ効果ヲ生セス只議院法ニ依レハ兩院ノ議決ヲ經テ上  
院ニシタル議案ニシテ裁可セザルモノハ次ノ会期迄ニ公  
布セザルハト云フ規定アリ故ニ元首ハ法律ヲ裁可セザル  
ト云フハ次ノ会期ニ至ル迄ハ未ダ確定セズ次ノ会期迄ハ何時  
ニテモ元首ハ裁可ヲ得ルコトヲ得故ニ兩院ノ議決シタル法律案  
ハ次ノ会期ニ至ル迄ハ消滅セザルナリ今後リニ議院法ノ規定  
ヲ借リテ憲法ノ規定ノコトニ付テ論スレバ裁可ヲ得ル時期ニ  
付テハ明文ナキヲ以テ何時迄ニ裁可ヲ得ハカレト云フ疑問  
ニシテ學者者ノ説モ之々出ツ或ル學者者ハ会期不連続ノ系  
則テ適用シテ兩院ノ議決ヲ經タル法律案ニシテ次ノ会期  
迄ニ裁可ヲ得サルハ自ラ消滅スルヲ以テ遂ク凡ク次ノ会期  
迄ニ裁可ヲ得サルコトヲ主張スレバ会期不連続ノ



原則ハ議會ノ議事ニ于スル原則ニシテ議會ノ議事  
 中ニアル議案ニハ之ヲ適用スルヲ得ス或世子者ハ  
 議負ノ尺キテ新議會ヲ組織スル迄ニ裁可ヲ與ヘサ  
 ル可ラストノヲ主張スレバ議負ノ改選ハ女シモ議會  
 ノ議決ノ効力ニ影響ヲ及ホスヘキ理由ナキヲ以テ之レ  
 又裁可ノ時期ヲ限ルノ理由トスルヲ得ズ  
 要之裁可ノ時期ニ就テハ全ク制限ナキヲ以テ何時ニ至リテ  
 裁可ヲ與フルモ理由ナシト解セサル可ラス而テ裁可ヲ得  
 ル迄ノ間ハ法律ハ然ル後トモテ存在シテ決シテ消滅セサルナリ此  
 場合ニ於テ議會会カ若シ法律ノ速ニ成立スルヲ希望スル片  
 ハ上委或ハ建議等ノ手段ヲ採ルノ外ナシ抑モ議案ナル者ハ  
 未タ成立セザル法律案ヲ新ニ成立セシムルノ行為ナリ兩院ノ議決

セシ法律案ニシテ未タ消滅セザルニ拘ダス新ニ之ヲ成立セシ  
 ムルハ事實爲シ得ヘカラサルナリ故ニ裁可経サル法律  
 案ヲ再ニ提出スルヲ得サルハ裁可性質法律案未成  
 立上再ニ提出ヲ得サルカ爲メニシテ大權ニ對スル事理ノ  
 當然ナル爲メ非ス此説明ハ憲法第四十條同會期  
 中ニ再度ノ建議ヲ爲スルヲ禁スト云フ事實ニ抵触ス  
 ルカ如シ若シ裁可ヲ得サル法律案ヲ再ニ提出スルヲ特  
 ニ禁スルノ必要ナシトスレバ採用ヲ得サル建議ヲ再ニスルヲ禁  
 スルノ必要ナキカ如シ而シテ建議ハ法律案ト性質異ラ固ク  
 シ特ニ其再提ヲ禁スルノ必要ナルハ曾テ之ヲ述ヘタリ  
 帝國憲法第三十八條ハ帝國憲法ト同シク各議院ノ法案提  
 出ノ權ヲ與フ故ニ其規定ハ他國ノ憲法中(一千八百七十五年二月廿



十日ノ憲法第三條(兩院議員及大統領ニ提案ノ權ヲ與フルトハ無キヲ與ニス故)一院ノ議決ヲ他ノ院ニ面付テラレシキヲ以テ法律案ノ提出セラレシキト認ムヘキ者ニシテ各院ノ議員ハ法律案未ク發議シ其院ニ於テ否決セラレタル場合ニ於テハ憲法上ノ意味ニ於テハ法律案ハ未ク提出セラレシキニ前ニ既ニ消滅セシキ者ト云ハサル可ラス憲法第三十九條ハ法律案ヲ再ニ提出スルヲ禁ス未ク提出セラレシキ前ニ消滅セシ法律案ヲ一院ヨリ提出シテモ之レ固ヨリ再提出ヲ爲シタル者ト云フヲ得サルカ故ニ一院ノ議員力發議シテ其院ニ於テ否決シタルノアルモ同一ノ法律案同一ノ會期內ニ其院若シハ他ノ院若シハ政府ヨリ提出スルハ憲法ノ規定ニ及スル者ニ非ス然レモ余ハ嚴テ憲法カ議院ノ會期中同一ノ發議ヲ再ニスルヲ積極ニ許シ居ルヲ主張スルニ非ス議員ノ發議

ニ對シ制限ヲ加フルカ如キハ議院ノ議事規則ヲ以テ規定スルモ差支ナシ

同一ノ法律案トハ一ノ法律案ノ全体ト他ノ法律案ノ全体トヲ比較シテ要點ニ於テ同一ナルモノヲ云フ如何ナル法案ハ要點ニ於テ同一ナルカハ事實ノ問題ニシテ固ヨリ一定ノ標準ヲ設クルヲ得ズ例ハハ多數ノ條項カ互ニ異ナルト雖モ一ノ條項カ同シキカ爲メ同一ノ法律ト認メサル可ラサルノアリ又一ノ法律案ノ全部ヲ他ノ法律案ノ中ニ包含スルモ其重要ナル部分ニ非カル片ハ同一ノ法律案ト認ムルヲ要セサルノアルヘシ要スルニ法律案ノ同一ナルヤ否ヤハ法律ノ提出又ハ面付ヲ受テタル各議員ニ於テ之ヲ審査直シ其否決セラレタル法律ト同一ノモノト認ムル片ハ之レヲ議セサルナラン此場合ニ於テ政府又ハ他ノ院カ之レヲ同一ノ法律案ニ非スト認ムルモ其議決ヲ



強ラルノ手續ナシ又兩院ノ議決ヲ徑タル法律案ニシテ政府ニ於テ  
先キニ否決セラレタル法律案ト同一ト認ムルハ之レカ裁可ヲ拒ムテ  
此場合ニ於テ法律案ノ同一ナルヤ否ヤハ政府ノ認定ニ依リト云  
フコトヲ得

### 第八節

#### 法律案ノ議決

法律カ議院ニ提出セラレシ片ハ兩院ハ各之レヲ修正シ及議決スル  
ノ權ヲ有ス只英國番國等ノ諸國ニ於テハ賤政法案ニ對シテ  
上院ニ修正ノ權ヲキルハ前述セシ所ナリ

兩院ニ於テ法律案ヲ呈出シタル片ハ之レ即チ同時ニ之レニ撥賛  
スルコトヲ表示スルモノナルヲ以テ更ニ之レヲ其院ノ議決ニ付スル必要  
ナシ其院ハ之ヲ撤回スルコトヲ得サルハ一度議院カ政府ヨリ提出セシ  
法律案ニ撥賛シタル后ニ其議決ヲ取消スルコトヲ得サルト同シ及  
之政府ヨリ提出セシ法律案ハ仮令兩院カ之レニ同意スルモ尚之  
レヲ裁可シ又ハ裁可セラルノ自由ナルカ故ニ政府ノ法律案ニ對スル意  
見ハ法案ノ提出ニ依リテ確定スル者ニ非ス故ニ政府ハ何時ニテモ



之ヲ撤回スルヲ得又之ヲ修正スルヲ得之レ議院ノ明認  
ムル所ナリ議會ニ於テ法律ヲ議決スルニ當リテハ其議決ニ必要ナ  
ル通常ノ定数及表決ノ数ヲ以テ定マレトスレバ我國ヲ始メト  
シテ諸國ノ憲法ニ於テ憲法變更ノ爲メト特別手續ヲ要ス  
ルハ前記テ之ヲ述ヘタリ如何ナル法律ハ憲法變更ノ法律ナル  
ヤ憲法ノ規定ニ抵触スルノ規定ヲ有スル法律ヲ發セシメハ先之憲  
法ノ條項ヲ變更シテ其抵触ヲ除カサル可ラサルヤト云フハ其子有ノ  
說ノ公ル所ナリ多敷ク學者ハ憲法ノ明文ヲ變更セザルモ憲法ニ  
抵触スルノ規定ヲ有スル法律ヲ憲法變更ノ爲メ必要ナル手續ニ  
依リテ議決スルハ是レト主張スレバ此說ハ又之レ我國ニ適用スルヲ得ス  
憲法第四條ニ此憲法ノ條項ニヨリテ統治權ヲ行フヲ規定ス故ニ此  
憲法ヲ變更セザレハ之ニ抵触スル法律ヲ發スルヲ得ス第三十七條亦

此憲法ノ條項ニ改正スル場合ニ于テ規定ナリ  
故ニ我國ノ憲法ニ於テハ假令憲法變更ノ手續キ依リテ此憲法ノ  
條項ヲ改正スルニ非サレハ之レヲ憲法變更ノ手續キト稱スルヲ得ス  
議會ノ議決ノ結果ニ于テハ前記テ述ヘタルカ如ク法律ノ實體ト法  
律ノ命令トヲ區別シテ議決ハ單ニ法律ノ實質ヲ定ムルニ止マリ  
法律ノ命令ニ于テタル者ニ非サルヲ主張スル者モアリ此說ノ當ラ  
得カレト及法律ノ實體ト法律ノ命令トヲ區別スヘキモノニ非サルハ  
其當時之ヲ論セリ



第四節

法律ノ裁可

裁可ノ性質ニ于シテハ國法學者ノ思想ハ漸次變遷シ其始メハ裁可ヲ以テ許否スルノ權ト同視セリ之レ必竟三權分立論ノ結果ミシテ元首ハ單ニ行政權ヲ有シテ立法權ハ專ラ議會ニ屬ストノ誤謬ノ思想ニ基キテ裁可ハ單ニ立法權ヲ即制スルカ為メ行政權ニ附屬スル者ト認メラシニヨリタルナリ然レ元首ハ獨リ行政ヲ統フルノミナラス且取テ重要ナル立法ノ機ヲナリ裁可ハ立法ヲ制限スル消極ノ作用ニ非スレテ法律ニ効力ヲ與フル積極ノ作用ナリト云フハ國法學者者ノ番シ認ムル所トナシリ今日ニ於テモ尚學者者中ニテ許否ノ權ト云フ語ヲ用ユル者ナキニ非カレ之レ畢竟言語ノ慣習トナルンチユリ一其他一二學者者ハ尙文判ト改贊トラ以テ効

カノ相同シキモノト認ム英國其他ノ民主合治國ニ於テハ此說ハ敢テ當ラ失セシモノニ非カレテ立憲君主國ニ於テハ裁可ト改贊トハ効力ヲ異ハシテ真ノ立法行為ハ裁可ニアリト云フハ近來立憲君主國ノ國法ヲ論スルモノ、大概認ムル所ナリ

裁可ヲ與フルハ國ニヨリテハ之ヲ議會ニ通スルヲ要スル者ナリ例ヘハ英國ニ於テハ會期ニ當リテ裁可ヲ與フル片ハ勅命ヲ以テ委員ヲ指名シ勅命ニ指定スル法ハ之ヲ裁可スルノ委任ニ與ヘ委員ハ上院ニ臨ミテ下院議員ヲ上院ニ會合セシメテ先ツ委任ノ勅命ヲ朗讀シテ其レニ付テ大臣ハ其委任ニ基キテ國王ノ名ヲ以テ裁可ヲ宣告スルヲ例トス會期ノ終リニ於テ裁可ヲ與フル片ハ國會閉會ヲ命令スルカ為メ之ヲ議會ニ臨ミテ同時ニ裁可ヲ宣告スルヲ例トス裁可ヲ拒ミシハ千七百七十年以來其例ナシト云フ



我國ニ於テハ帝國ト同トク國王ノ裁可ハ議會ニ對シテ之ヲ宣告スル者ニ非ス然レモ裁可ハ免ニ角元首ノ行為ニ表ハルモノニテイテリシカノ主張スル如ク之ヲ君主ノ心裏ノ作用ニ過キストスルハ誤リナリ抑モ心裏ノ作用ハ法ノ認ケルヲ得サル所ニ非ス諸國ノ憲法カ裁可ニ付テ規定スル所アリハ其心裡ノ作用ニ止マラザルカ為メナリ裁可ハ又公布ニモ非ス公布ハ國家ノ意思ヲ發表スルノ行為ナリ意思ヲ發表スルニハ其前ニ國家ノ意思ハ既ニ成立シ居ラサル可ラス國家ノ意思ヲ成立セシムルモノハ即チ裁可ナリ故ニ帝國憲法モ公布ノ命令ニ外裁可ヲ以テ天皇ノ大權トス裁可ハ公布ニ由リタル者ニシテ又心裡ノ作用ニモ非ストスルハ裁可ハ法律ノ親署ニ依リテ行ハルノ外ナシ法律ノ親署ニハ議會ノ議決セシ法律草案ヲ精字シテ其前文ニ於テ裁可ニ與フルヲ宜シ言ヒテ御名署シ御筆ヲ鈴シテ法律ニ確定ノ形ヲ與フルモノアリ親署ノ性質ニ付テシバントハ近來一新説ヲ唱テ親署ヲ以テ裁可公布ト異ナリタル一行為トシテ其効ハ法律ノ正當ノ手續キヨリテ完全ニ成立シタルヲ公証スルニアルヲ主張ス此説ハ多數ノ學者ノ同意ヲ得タリ然レモ其論拠ハ獨ニ帝國憲法ノ明文及他國ニ於ケル慣例ニ憲法ノ明文ヨリ獨ニ帝國及他國大統領ハ法律ヲ裁可スルノ權ヲ有セサルニ拘ハス兩國ノ憲法ハ之レニ親署ノ權ヲ與フ故ニ此等ノ國ニ於テハ親署ハ裁可ヲ與フルノ方法ニ非ス而テ國家ノ意思ハ國家ノ議決ニヨリテ成立スル者ナリ然レモ之レ其特別ノ政体ト特別ノ明文トヨルモノニシテ諸國ノ通用スル原則ニ非ス我國ノ如キ別段ノ明文ナキ場合ニ於テハ親署者ヲ以テ裁可及公布ト異リタル獨立ノ行為トシテ之レニ與フルニ獨立ノ法律上ノ効果ヲ以テスルヲ得ズ

ラ與フルモノアリ親署ノ性質ニ付テシバントハ近來一新説ヲ唱テ親署ヲ以テ裁可公布ト異ナリタル一行為トシテ其効ハ法律ノ正當ノ手續キヨリテ完全ニ成立シタルヲ公証スルニアルヲ主張ス此説ハ多數ノ學者ノ同意ヲ得タリ然レモ其論拠ハ獨ニ帝國憲法ノ明文及他國ニ於ケル慣例ニ憲法ノ明文ヨリ獨ニ帝國及他國大統領ハ法律ヲ裁可スルノ權ヲ有セサルニ拘ハス兩國ノ憲法ハ之レニ親署ノ權ヲ與フ故ニ此等ノ國ニ於テハ親署ハ裁可ヲ與フルノ方法ニ非ス而テ國家ノ意思ハ國家ノ議決ニヨリテ成立スル者ナリ然レモ之レ其特別ノ政体ト特別ノ明文トヨルモノニシテ諸國ノ通用スル原則ニ非ス我國ノ如キ別段ノ明文ナキ場合ニ於テハ親署者ヲ以テ裁可及公布ト異リタル獨立ノ行為トシテ之レニ與フルニ獨立ノ法律上ノ効果ヲ以テスルヲ得ズ



裁可ハ國家ノ意思ヲ成立セシムルノ行為ナリ國家ノ意思ノ度成  
 立セシムルハ之ヲ表示シテ法律ト為スハ当然ノ結果ニシテ何人モ之ヲ  
 妨クルコトヲ得ス元首ハ法律ヲ裁可シ又ハ裁可セサルノ自由ヲ有ス  
 レ度法律ヲ裁可シタル以上ハ元首ハ之ヲ公布ヲ命セサル可テ  
 ス故ニ裁可ヲ経タル后ニハ更ニ國家ノ意思ヲ定ムル方法ニヨル  
 ノ外ハ之ヲ廢止シ又ハ變更スルコトヲ得ズ元首ト雖モ一旦與ヘタル裁  
 可ハ取消スルコトヲ得ス然レモ實際ニ於テハ裁可ヲ経ルモ公布ニ至ル迄  
 ノ間ハ政府ノ内部ニ屬スル手続ナルヲ以テ公布前ニ裁可ヲ取消スル  
 コト得ルヤ否ヤハ殆ト實際ノ利益ノナキ問題ナリ  
 裁可ハ何時ニ與ヘサル可ラヤノ問題ハ前ニ之ヲ論述セリ  
 民主國ノ元首ハ裁可ノ權ヲ有セサルハ勿論但國ニ於テハ合衆國ノ例  
 トモ異ナリテ許否ノ權ヲ有セス兩院ノ議決ヲ経タル法律ニ安ホハ

大統領ニ於テ其回附ヲ受ケタ日ヨリ一ヶ月内ニ之ヲ親署シテ兩院  
 ニ於テ特ニ緊急ヲ要スルコトヲ議決ヒシハ一ヶ月内ニ之ヲ親署ス  
 ルコトヲ要ス然レモ大統領ハ此期限内ニ再議ヲ求ムルノ權ヲ有ス再  
 議ヲ経ルモ議會公其議決ヲ改メサルハ大統領ハ之ヲ親署公  
 布セサル可ラス



法律ノ公布及施行

國家ノ意思ハ裁可ニ依リテ確定スルモ法律ハ國家ノ意思表示ナルヲ以テ裁可ニヨリテ直ニ成立スルモノニ非ス裁可ノ後ニ國家ノ意思ヲ表示スルノ行為ヲ要ス其行為ヲ公布ト稱ス公布ノ時ハ即チ法律ノ完成スルキナリ法律ハ特別ノ人ニ對スルニ通知シ非ス何人ト雖モ之ヲ認知スルノ方法ニ依ラサル可ラス然レモ臣民カ實際之レヲ知ルノ機合ヲ有スルヤ否ヤハ固ヨリ法ノ向フ所ニ非ス故ニ法律ハ公布ノ即ヨリ施行スルヲアリ或ハ又天災時疫等ノ為ニ交通ノ絶ヘタル地ニモ施行スルヲアリ法律ハ此点ニ於テ命令ト性質ヲ同フルニ處分命令ト性質ヲ異ニス処分命令ハ于係者ニ通知スルニ止マリテ事實上或ハ無于係者モ之ヲ知ルヲ得レモ法律上何人モ之ヲ認

知スルヲ得ル者ニ非ス公布ハ國家ノ其意思ヲ表示スルモノナリ故ニ國法上其制限ヲ有スル者ノ為レタル公布ニ非サルハ依令臣民ハ悉ク之ヲ知ルト雖モ國法上公布ト稱スルヲ得ズ法律ハ公布ニ依リテ成立ス故ニ別段ノ規定ナキ片ハ法律ハ公布ノ時ヨリ直ニ施行セラルベシト認メサル可ラス英國ニ於テハ國會ニ於テ決定シタル事實ハ臣民ニ悉ク知ラレ居ル者ト推測スルカ故ニ議會ニ於テ國王ノ裁可ヲ得タル片ヨリ法律ハ効力ヲ有スル者トス而モ前ノ即チ會期ノ初メニ併リテ効力ヲ生スルト云フトナシリ然レモ諸國ニ於テハ法律ハ臣民ヲ以テ洽ク知ラレタルノ機合ヲ失フルカ為メ法律ノ施行途ノ間ニ一定ノ期間ヲ存スルヲ例トス此期間ハ一般ノ法律ニ適用スルニ制限シテ各法律ニ特別ノ明文ヲ定ムルハ勿論後令法律ニ特別ノ明文ナキモ法律ノ目的又ハ規定ノ精神ニヨリテ一定ノ



施行期限ヲ推測スルヲ得ルハ其期間ニ依ルベキニ疑ヲ容  
レズ

法律ハ又一部ニ限リテ特別ノ明文ヨリテ施行期限ヲ異ニスル  
アリ特別ノ明文ナクは条項ノ精神ニ依リテ他ノ条項ト施行期限ヲ  
異ニセサル可ラサルモノアリ多數ノ法律ハ其施行ニ于スル準備ヲ法律  
中ニ定ムルモノアリ例ヘハ施行ノ爲メニ必要ナル命令ヲ発スル權ヲ官  
庁ニ委任スル場合ノ如キ其一ナリ如此規定ハ法律ノ全体ニ立テテ  
特別ノ規定ナキ以上ハ公布ノ即ヨリ施行セラレハモノト認メサル可  
ラス

第六節

法律ノ廢止

法律ハ法律ニ依ル外廢止スルヲ得カルハ法律ノ觀念ヨリ生スル  
一般ノ原因ナリ殊ニ慣習法ニ法律ヲ廢止スル効力ナキ剛ハ爾日テ之  
ヲ述ヘタリ法律カ法律ニ依ル外廢止セラレサルト云フ効力ハ法  
律ノ觀念ニ包含スル者ナルヲ以テ法律ノ成立スル即時ニ生スル者  
ナリ故ニ法律ハ未テ施行期限ニ達セサルモ一旦公示セラレタル以テハ  
法律ヲ以テスル外廢止スルヲ得ルハ言フ後タス法律カ法律  
ニ依リテ廢止セラレハ直接ノ一アリ間接ノ一アリ直接ニ法律依  
リテ法律ヲ廢止スルノ方法ハ左ノ如シ

- 一。法律ヲ廢止スルヲ目的トシテ設ケし法律
- 二。及對ノ規定ヲ有スル後ノ法律ハ前ノ法律ヲ廢止スルノ効



カヲ有スルハ一般ノ原則ナリ法律ノ前後ハ公布ノ日ノ前後ニ依  
リテ定ムヘキ者ニシテ施行期ノ前後ニ依ルニ非ス然レモ後ノ  
法律ノ施行期限カ前ノ法律ノ施行期限ヨリ遅クシタレバ  
ハ後ノ法律ノ施行期限ニ達シタル後ニ於テ始メテ前ノ法律  
ハ効カヲ失フヘキコトハ三ツヲ待タス

三。緊急命令ハ法律ヲ変スルノ効カヲ有スルヲ以テ前ニ掲ケタ  
ルニ方法ノ一モヨリテ法律ヲ廢止スルコトヲ得

間接ニ法律ニ依リテ法律ヲ廢止スルハ廢止セラレヘキ法律又ハ後ノ  
法律ノ精神若クハ明文ニ基キテ一定ノ事實又ハ立法以外ノ國家  
行為ニヨルナリ其重モナク場合ヲ禁テシラハ左ノ如シ

(1) 法律ノ目的タル物件又ハ事件ノ消滅セシキ又ハ事情ノ  
變更ニ依リテ法律ノ規定ヲ実行スルコトヲ得カレニ至リタル時

(2) 法律ノ効カヲ有スヘキ期限ヲ豫定シ置キタルハ其期限  
ノ到達セシキ解除ニ除条件ヲ有スル法律ニ於テハ其条件  
タル事實ニ定ム生シタルハ

停止条件ヲ有スル法律ニ於テハ其条件タル事實ニ定ム生セ  
スレテ又將來其事實ニ定ム生スルコトヲ得サレキ

(3) 法律カ条件ヲ付シ又ハ付セスコトヲ廢止ヲ命令ニ委任シタ  
ルハ命令ニヨリテ法律ヲ廢止スルコトヲ得法律ハ其事實ニ  
ヨリ永遠ニ廢止スル外ニ一時又ハ一部ニ限リテ廢止セラレハコトアリ  
之ヲ免除シ又ハ停止トス免除トハ特別ノ部又ハ救事件ニ  
限リテ本末適法ノ行為ヲ適法トシ本末無効ノ行為ヲ  
有効トシテ認ムルモノナリ停止トハ各何ノ事件ニ付テ法ノ効  
カヲ廢スルニ非ス一定ノ時期ニ限リテ全國又ハ一定ノ區域



対して法ノ施行ヲ止ムルモノナリ  
停止及免除ハ其ノ法律ノ効力ノ一部ヲ廢スルモノニシテ憲  
政迄ノ始メニ於テハ徃々行政機テカ之ヲ濫用セル弊アリシモ  
今日於テハ法律ニ特別ノ規定アル場合ノ外ハ之ヲ行フ  
ヲ得カルハ言フ俟テ又法律ノ明文ヨリテ停止又ハ免除  
ヲ有スルハ其例支カラス例ハ租税ヲ免シ又ハ戒嚴ノ場合  
ニ於テ憲法カ或テ事項ヲ停止スルカ如キ其例ナリ

### 法律ニ對シテ 命令

命令ハ一方ニ於テハ法律ト相對スル者ニシテ一方ニ於テハ命令ト相  
對スル者ナリ、法律ト命令トノ區別ハ法律ノ觀念ヲ論スルニ當  
リテ既ニ之ヲ述ヘタリ依テ之ヲ畧ス  
命令ト命令トハ通常一般ノ規定ヲ設ケルト各別ノ事件ニ限ルト  
ニヨリテ之ヲ區別スル事件ニテスル命令モ又徃々命令ヲ以テテ設  
ケルヲアルヲ以テ規定ノ實體ヨリシテ命令ト命令トノ區別スルノ  
難キハ恰カモ規定ノ實體ニヨリテ法律ト命令トノ區別スルノ難キ  
ト同様ナリ  
命令ト命令トノ區別ハ其發布ノ方法ニ依リ命令ヲ發布スルハ何  
人モ法律上認知スルヲ得ルノ方法ニ依ラカル可ラス



処分命令の適宜の方法に依りて之を係者に通知スルヲ以て定レ  
リトス

命令ハ法規ヲ定ムルト否トニ依リテ之ヲ法規命令ト行政命令  
トニ種トス行政命令ハ臣民ニ対シテ行為不行為ヲ命スル者ニ  
非スシテ其命令スルハ官ニ官ニ対スル者ナリヲ以テ此種類ノ命  
令ヲ以テ其ノ権ハ既ニ官ニ組織スルノ権ニ包含シ別ニ憲法  
ノ規定ヲ待タズ及之法律命令ハ憲法又ハ他ノ法律ノ明ニ認ムル所  
ナリ法規命令ハ其法律ニ対スルヲ係ニヨリテ分チ四種トス

甲 法律ニ代ルノ効力ヲ有スルモノアリ之ヲ称シテ法律ノ力ヲ有スル  
命令ト云フ又緊急ノ場合ニ限りテ発スル者ナリヲ以テ之ヲ緊  
急命令トモ云フ

乙 法律ノ規定ナキ事項ニ付テ発スルモノアリ之レ法律ノ欠点

ヲ補フモノナルヲ以テ補充命令ト云フ又行政ノ目的ノ為メ  
ニ発スルモノナルヲ以テ行政命令ト云フ

丙 法律ヲ執行スルカ爲メニ必要ナル細則ヲ定ムル者アリ之レ  
ヲ称シテ執行命令ト云フ

丁 法律ノ其ノ外ニ特別ノ委任ニ依リテ発スル者アリ之ヲ称シテ  
委任命令ト云フ



# 第一節

## 緊急命令

緊急命令ヲ發スルノ權ハ英仏其他諸國ノ國法ニ明ニ認メサル所ナレド國家ノ生活ニ非常ナル事變アル時ヲ免レス此等ノ事變ニ應ズル爲メ之ニ立法ノ規定ニ依ルハ往々事實行フ可ラサルコト已ムラ得サル場合ニ於テハ國務大臣ノ責任ヲ以テ必要ナル処分爲シ後日議會ニ提出シテ責任解除ヲ求ムルノ外ナレシ此ノ如ク責任解除ヲ與フルノ法律ハ英國ニ於テハ之ヲ稱シテ責任解除ノ法律ト云フハ又此ノ如キ機子ノ処分ハ他國ニ於テハ之ヲ政治行爲ト云フ我國ニ於テハ字、墾、丁等、諸國ト同シク憲法中ニ特ニ緊急命令ニ于スル規定ヲ設ク是等ノ國ニ於テハ緊急命令ヲ發スルハ本來適法ノ行爲ニシテ英仏ノ如ク責任解除ノ法律ヲ以テ癒スル

テラ要スル違法ノ狀態ニ非ス此等ノ國ニ於テハ他日議會ニ提出シテ其議決ヲ述ムルヲ要スルハ緊急命令ヲ發スヘキ憲法上ノ要件ヲ守ラシムルノ保障ニ外ナラザルナリ

緊急命令ヲ發スルヲ得ル場合ハ左ノ要素ヲ具備スルヲ要ス

- (1) 公共ノ全安ニ對スル危險ヲ豫防スルカ爲メ必要ナルカ又ハ公共ノ災厄ヲ避タルカ爲メ必要ナルヲ要ス故其目的ハ消極ミニテ積極ニ公共ノ利益ヲ増進スルノ目的ヲ以テ緊急命令ヲ發スルハ憲法ノ許サレ所ナリ
- (2) 議會ノ閉會中ニ在テ通常ノ法律ノ手續ニヨリテ實際ニ必要ニ応スルヲ得サルヲ以テ議會ノ閉會中ニアラザレハ緊急命令ヲ發スルヲ得ス



(3) 命令ヲ發スルノ必要ハ緊急ナラサル可ラス故ニ次ノ會期議  
 會ヲ待ツテ其審議ニ付スルヲ得ル場合ニ於テハ緊急ノ  
 必要アリト云フヲ得ス然レテ議會閉會中ニ於テハ必要ヲ  
 生シタル片ハ憲法カ是レカ為メニ特ニ臨時會ヲ召集スル  
 ヲ要セス是レ第七十條ノ財政ニ處分ト因テナル所ナリ

(4) 緊急命令ヲ發スルノ必要アルヲ要ス法律ノ範圍内ニ於  
 テ實際ノ必要ニ応シ得ル手段アルニ於テハ固ヨリ法律ニ  
 代ルヘキ命令ヲ發スルノ必要ナレ

是等ノ要件ヲ具備スル片ハ元首自ハ緊急命令ヲ發スルヲ  
 得然レテ緊急命令ヲ以テ定ムルヲ得ル事項ニ付テハ一制  
 限アリ即チ憲法ノ規定ニ抵触スルヲ得サルト云フ之レナリ  
 諸國ノ憲法ト異ナリ我國ノ憲法ハ此主觀ヲ明言マサレ之レ

固ヨリ當然ノ事理ナリ憲法ヲ變更スルハ帝ニ法律ニ依リ事  
 ヲ要スルノミナラス特別ノ手續キヲ經テ定メタル所ノ法律ニ依ル  
 ヲ要ス緊急命令ハ法律ニ代ルノ効力ヲ有スレ此事實ハ憲法  
 變更ノ為メニ要スル特別ノ手續キニ代ルノ効力ヲ有スルヲ包含  
 スル者ニ非ス憲法發布ノ勅語ニモ朕及朕カ系統ノ子孫ニ  
 議ノ權ヲ取り之レヲ議會ニ付シ議會ハ此憲法ニ定メタル要件ニ  
 依リテ之レヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之レカ變更ヲ  
 議ムルヲナカルヘト云ヘリ之レニヨリテ見レハ緊急命令ヲ以テ憲  
 法ヲ變更スルハ固ヨリ憲法ノ許サル所ナリ既ニ憲法ヲ變更  
 スルノカトシトスレハ憲法ニ抵触スルノ規定ヲ設ケルヲ得サルハ  
 別段ノ明文ヲ要セスレテ明カナリ  
 此制限ヲ除クノ外ハ苟モ公共ノ安全ヲ維持スルカ為メ及公共



ノ災危ヲ避クル為メ必要ナルヘキ性質ノ事項ハ緊急命令ヲ以テ  
定ムルヲ得ル者ナシ然レモ事項ノ性質上公共ノ安全ヲ維  
持スル等ノ事由ヲ有スルヲ得ル者ハ緊急命令ヲ以テ定ム  
キ者ニ非ス民法ノ如キ其一例ナリ

其他如何ナル事項トモ民法法律ヲ以テ定ムヘキ事項ハ即チ緊急  
命令ヲ以テ定ムルヲ得ヘキ事項ナリ殊ニ憲法中ニ法律ヲ以テ  
規定セサル可ラカルト云フ明文アル事項トモ民法緊急命令ヲ以テ  
ラ定ムルヲ得ニ三ノ際予者ハ及対ノ説ヲ稱フレモ皆充公ノ論  
ナキカ如シ殊ニ就中ハ憲法ノ精神ニ訴フテ論スルニ憲法カ  
或項ヲ定ムルハ法律ヲ以テセラル可ラズト云フ規定ヲ設クルハ其臣  
民ノ利害ニ目取モ適切ノ干係ヲ有スル者ナルヲ以テ臣民ノ代議士  
ル者、協賛ヲ怪スレテ之ヲ規定スルヲナレト云フ保障ヲ臣

民ニ與ル者ナリ若シ緊急命令ヲ以テ是等ノ事項ヲモ  
規定スルヲ得ルトセハ憲法ノ精神ハ廢滅ニ及スルナラント  
論セリ然レモ此緊急命令ノ目的ハ本来法律ヲ以テセラル規定  
スルヲ得ル事項ヲ規定スルニアリ換言スレハ臣民ノ代議士  
ル者ノ協賛ヲ怪スレテ規定スルヲナレト云フ保障アル事項ヲ  
規定スルニアリ其他憲法ノ条文ノ文字句ニ重キヲ置キテ緊急  
命令ヲ以テ規定スルヲ得ヘキ場合ト規定スルヲ得ル場合  
合トラ區別スル此予者ナキニ非カレモ皆充公ナル論拠アル者ト  
認ムルヲ得ズ

緊急命令ノ形式ニ就テ學國地地利等ノ憲法ハ全内閣ノ  
責任ヲ以テセサル可ラサルヲ規定スルヲ以テ内閣各大臣、副署  
ヲ要スレモ我國ノ憲法ニハ如斯規定ナキヲ以テ此占ニ付テハ一般



ノ命令ニ異ナル所ナレ其其他憲法ハ緊急命令ノ形式ニ付テ規定  
スル所ナレトモ虫氏命令ヲ以テ法律ニ代ルノ効力ヲ有セシメントスルニハ  
國家ハ其意思ヲ明ニセサル可ラス故ニ緊急命令ハ其緊急  
命令タルハ明ニセサル可ラサルハ當然ノ事ナリ

緊急命令ヲ發スルハ次ノ会期ニ於テ之ヲ議會ニ提出セサルハ  
カラス而テ勅令ヲ議會ニ提出スルハ其承諾ヲ得ルカ否ニシ  
テ單ニ事實ヲ告示スル者ニ非サルヲ以テ一ノ議案ナリ我國ニ於  
テハ議院法ノ規定ニヨリテ先ツ兩院議何しニカ提出セサル可ラス同  
同時兩院ニ提出スルハ法ノ許サレ所ナリ次ノ会期前ニ緊急命令  
ヲ廢止スルカ又ハ其規定ニカハル事項消滅セシ場合ニ於テモ之  
レヲ次ノ会期ニ提出セサル可ラサヤ否ヤハ稍疑ナキニ非カレ氏憲法  
ノ明文及承諾ノ性質ヨリ論スレハ如此の場合ニ於テモ承諾ヲ要

要スルモノト認メサル可ラス憲法ハ凡テノ緊急命令カ次ノ会期  
ニ於テ議會ニ提出スヘキコトヲ定メテ其例外ヲ設ケス又事後承  
諾ノ結果ハ前述セシ如シ將來ニ向テ効力ヲ存続スルヤ否ヤト同時  
ニ承諾ヲ要スル行為ニ對シテ議會ニ異議ナキコトヲ確定スルニ非サル  
ヲ以テ緊急命令ノ既ニ廢止ニ成レシ場合ニハ將來ニ向テ其存廢  
ヲ定ムルノ必要ナケレバ尚議會カ之ニ對シテ異議ヲ有セサルコトヲ  
確定スルノ必要アリナキ漏兩院地利等ノ憲法ハ全内閣ノ責任  
任ヲ以テ緊急命令ヲ廢スヘキコトヲ規定ス而テ此責任ヲ解シモノハ  
即ち議會ノ承諾ナリ此ノ如キ規定アル國ニ於テハ勿論後令責任  
ニ于テ規定ナキモ承諾ノ性質ヨリ論スレハ緊急命令ハ既ニ消  
滅シタル者トスルコトヲ問ハス必ス之ヲ議會ニ提出セサル可ラス(然レハ  
之レニ反對ノ例アリ)



緊急命令ハ議會ニ提出セシクハ議會ハ其憲法ニ抵触スルナ  
 キヤ否ヤヲ審議スルハ言ヲ俟タスト由凡其ニ實際必要アリシヤ否  
 ヤヲ審議スルノ權ヲ有スルモノト志ニ付テハ全ク異論ナキニアラス  
 ホルンバツクノ如キハ議會ニ此ノ如キ權ナキト主張スレバ余ハ其既ノ充  
 分ナル論拠ヲ覓見スルヲ能ハス議會ハ常ニ道法ナルヤ違法ナルヤ  
 ヲ審査スルニ止マラス又其事實上必要アリシヤ否ヤヲ審査スルノ  
 權アリト認メケル可ラス然レバ審議スルノ必要ノ有無ハ緊急命令  
 令ヲ發スルヨリ得ニ於ケル必要ノ有無ニシテ議會ニ提出セシタル片  
 ケル必要ノ有無ニ非ス若シ之レ及シテ議會ハ其發布ニ際シテ緊  
 急ノ必要アリシト認ムルニ拘ハラス提出ノ時既ニ必要ヲ失ヒシト云フ  
 理由ヲ以テ承諾ヲ拒ミシトスレバ政府ハ必要ニシテ且適宜ナル処置ヲ  
 為セシニ拘ハラス事後承諾ノ利益ヲ得ルヲ得ス字據等ノ意思

法ニ依レハ内閣ハ其責任ヲ解除セラル、結果ヲ得カハナリ  
 發布ノ當時必要ナルヲ認ムヘキ、緊急命令ハ仮リニ其當時ニ議會  
 カ開會中ナリシトスレハ始メヨリ法律トナリシト疑ヲ容レサルニテ  
 以テ仮令其必要ハ既ニ消滅スルニ至リテも、議會ニ之ヲ承諾ヲ拒ム  
 得サルヲ當然トス此ノ如キ場合ニ於テハ議會ハ且其承諾ヲ與ヘ  
 テ後更ニ緊急命令ヲ廢止スルノ權ヲ採ルノ外ナレシレ承諾  
 ノ性質ヨリ生スル自然ノ結果ナリ、然レバ議會ノ承諾ヲ與ヘ又ハ之  
 レヲ拒ム理由ヲ示スラ要マサル、此ノ如キ場合ニ於テハ實際ニハ大ナル  
 影響ヲ有スレシ(之レハ反對派ノ意見ニ及リ)承諾ニ南諾ハ効力ヲ  
 失スルニアリトスルノ論拠ニ於テ證明スルノ結果ナリ  
 緊急命令令ヲ議會ニ提出スレバ議會ハ之ヲ承諾スルカ又承諾  
 ヤサルカノ二途ノ一ヲ採ルノ外、其前ニ緊急命令ノ承諾ノ性質ニ



付テ論セシ如シ緊急命令ヲ議會ニ提出スルノ目的ハ積極ニ其  
 承諾ヲ認ムルニ在リ而シテ議會ニ承諾ハ兩院ノ承諾ヨリ成立スルヲ  
 以テ一院ノ承諾ナキハ議會ニ承諾アリタリト云フヲ得ス故ニ兩院  
 共ニ承諾ノ議決ヲ為シテ議會ニ承諾セラルト  
 云フ場合ハ生スルハ議會ニ承諾セラルト云フヲ得ス故ニ兩院  
 ニ於テ承諾セサル場合ハ生ズルハ議會ニ承諾セラルト云フヲ得ス  
 爲セシハ之ヲ他院ニ附スルヲ待タスルハ緊急命令ハ其効  
 カヲ失フヲ公布セザル可ラス

議會ニ於テ承諾ヲ受ヘシテ國會ニ至ルモ亦前同様ナリ抑ニ緊急  
 命令ノ効カヲ失フハ議會ニ承諾ヲ受ヘサルニ依ルモノニシテ明カニ  
 承諾ヲ拒ミタルハ非ス憲法ハ次ノ議會ニ於テ議會ニ提出スベキ  
 ヲ規定ス此議案ハ會期不継続ノ原則ニ依リテ會期終

シルト共ニ消滅セサルカ故ニ政府ノ提出シタル緊急命令ハ會期  
 中ニ議決ヲ任ザルハ議會ニ承諾ヲ得ザリシ者ト認メザルヲ得  
 ス独ニ或國(李暹)(ワイマル)憲法第六六條ノ憲法ハ議會ハ  
 次ノ會期ニ於テ明ニ承諾スルノ議決ヲ為サルハ會期ノ尺シクル  
 ト共ニ緊急命令ハ効カヲ失フ一ノ明言セリ政府ハ次ノ會期ノ緊急  
 命令ヲ提出セザルモ亦同一ノ結果ヲ生ズ此事ハ奧國憲  
 法ノ明ニ規定スル所ナリ

緊急命令ハ議會ニ承諾ヲ得ザルハ當然効カヲ失フカ又ハ公  
 布ヲ待テ始メテ効カヲ失フカハ此等議ノ公カル所ナレモ君主カ統  
 治權ヲ總攬スル國ニ於テハ議會ノ議決ハ直ニ臣民ニ對シテ効カ  
 ヲ有セザルヲ通則トスルカ故ニ或國ノ如キ特別ノ明文ヲ除クノ  
 外ハ議會ノ承諾ハ當然緊急命令ノ承諾ヲ失ハシムル効ナキ者